

答 規則第九條第一號ノ規定ハ就業十時間未滿ノ場合ト雖モ早出、殘業、深夜、休日ノ就業

ニ對スル步増ハ最低賃金ノ範圍ニ含マザル義ニ有之(昭和十五年十一月二十日厚生省労働局長回答)

令第十條 厚生大臣又ハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ一定ノ勞務者ニ付最高初給賃金ヲ定ムルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最高初給賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ者ノ雇入ノ日ヨリ命令ヲ以テ定ムル期間其ノ最高初給賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ズ

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○則第十條 令第十條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル期間ハ坑内ニ於テ就業スル鑛夫ニ付テハ三月ト

シ其ノ他ノ工場鑛山ノ勞務者ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 三十歳未滿ノ未經験勞務者 三月

二 三十歳未滿ノ經験勞務者 一年

三 三十歳以上四十歳未滿ノ勞務者 一年

○則第十一條 前條ノ未經験勞務者トハ工場又ハ鑛山ニ於ケル左ノ各號ノ一ニ該當セザル勞務者ヲ謂フ

一 從事シツツアル労働又ハ之ト同種ノ労働ニ三月以上從事シタル經驗アル者

二 工場又ハ鑛山ニ於テ六月以上労働ニ從事シタル經驗アル者

三 工業又ハ鑛業ニ關スル國立若ハ公立ノ養成施設ニシテ三月以上ノ修業期間ヲ有スルモノ又ハ私立ノ養成施設ニシテ地方長官ニ於テ之ト同等以上ノモノト認定シタルモノノ課程ヲ修了シ

タル者

四 工業又ハ鑛業ニ關スル學校ニ於テ二年以上學習シタル者

五 前號ニ掲グルモノノ外國民學校初等科修了程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ四年以上トスル學校若ハ國民學校高等科修了程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ二年以上トスル學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ課程ヲ修了シタル者

前項第一號ノ同種ノ労働ノ範圍ハ厚生大臣之ヲ定ム

最高初給賃金方業種又ハ勞務者ノ經驗年數ニ依リ區別アルトキハ其ノ業種ノ區分又ハ經驗年數ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

○則第十三條 令第十條第二項ノ賃金ハ左ニ掲グルモノヲ含マザルモノトス

一 一月ニ付當該勞務者ノ健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額ノ二日分ヲ超エザル精勤手當

二 就業十時間ヲ超ユル早出若ハ殘業又ハ深夜若ハ休日ノ就業ニ對スル步増

三 前二號ノ外厚生大臣ノ指定スル手當

四 實物給與但シ白米、精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク

五 賞與

六 臨時ノ給與

令第十一條第二項ノ賃金ハ前項第一號及第三號乃至第六號ニ掲グルモノヲ含マザルモノトス

○則第十五條 令第十條第二項及第十一條第二項ノ規定ハ雇傭主ガ天災事變ニ際シ必要アルニ因

賃金統制令(最高初給賃金)

リ又ハ左ニ掲グル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ最高初給賃金又ハ最高賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ勞務者ヲ雇傭スルトキハ之ヲ適用セズ

- 一 作業ノ性質上必要アルトキ
 - 二 勞務者ガ技能特ニ優秀ナルトキ又ハ特技アルトキ
 - 三 其ノ他特別ノ事由アルトキ
- 雇傭主天災事變ニ際シ必要アルニ因リ最高初給賃金又ハ最高賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ勞務者ヲ雇傭シタルトキハ令第三十一條第一項ノ規定ニ基キ其ノ雇傭ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ要領ヲ具シ地方長官ニ報告スベシ
- 第一項ノ許可ノ申請ニシテ不特定ノ勞務者ニ關スルモノナルトキハ其ノ申請書ハ様式第五號、特定ノ勞務者ニ關スルモノナルトキハ其ノ申請書ハ様式第六號ニ依リ其ノ申請ニハ賃金規則ノ寫ヲ添附スベシ

●賃金統制令施行規則第十三條第三號ノ規定ニ依リ賃金統制令
第十條第二項ノ賃金ニ含マザル手當ノ件改正

(昭和十六年七月二十六日厚生省告示第三百十三號
昭和十七年二月十七日厚生省告示第七十五號改正)

賃金統制令施行規則第十三條第三號ノ規定ニ依リ賃金統制令第十條第二項ノ賃金ニ含マザル手當ヲ左ノ通指定シ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス(告示第七十五號改正)但シ第二號又ハ第三號ノ手當ハ地方長官又ハ鑛山監督局長ノ承認ヲ受ケタルモノニ限ル

一、家族手當、勞務者ニ對シ其ノ配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ

在ル者ヲ含ム)又ハ本人ト同一戸籍内ニ在ル滿六十歳以上ノ直系尊屬、滿十八歳未滿ノ直系卑屬若ハ不具癡疾者ニシテ主トシテ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スルモノ一人ニ付月額三圓ノ割合ニ依リ計算シタル金額以内ニ於テ支給スル手當

- 二、季節手當、特定ノ作業ニ對シ季節ヲ限リ支給スル手當
- 三、臨時作業手當、臨時ノ作業ニ對シ支給スル手當

●季節手當承認及臨時作業手當ニ關スル協議方ノ件(昭和十六年七月二十六日
厚生省労働局長通牒)

本日賃金統制令施行規則第十三條第一項第三號ノ規定ニ依リ別途告示ヲ以テ賃金統制令第十條第二項ノ賃金ニ含マザル手當トシテ季節手當及臨時作業手當ニシテ貴官ノ承認ヲ受ケタルモノヲ指定相成候處季節手當及作業手當ノ承認ニ際シテハ處分前事業場ノ名稱、所在地、事業ノ種類、手當ヲ支給スベキ作業、支給スベキ手當ノ額若ハ率及給與條件、手當ノ支給ヲ必要トスル理由並ニ關係勞務者數ヲ具シ賃金規則及最近ノ賃金總額計算期間ノ賃金臺帳總括表ノ寫ヲ添ヘ豫メ當局ニ協議相成様致度尤モ季節手當及作業手當ニシテ左記各號ニ該當スルモノハ貴官限リ御處理相成度候尙承認ノ場合ハ手當ノ名稱、額若ハ率及給與條件ヲ明確ニシ監督上遺漏ナキヲ期セラルル様致度追テ貴官限リ承認ノモノニ付テハ申請書寫ヲ添ヘ遲滞ナク當局ニ報告相成度

記

- 一 季節手當ニシテ七月一日ヨリ九月三十日迄ノ間ニ於テ一日ニ付二十錢ヲ超エザル金額ノ範圍内ニ於テ左ノ作業ニ對シ支給スルモノ

(イ) 製鐵、製鋼、金屬、硝子等ノ熔融、瓦斯、假炭等ノ製造、鑛石等ノ焙燒、燒結其ノ他

賃金統制令(最高初給賃金)

ノ用ニ供スル各種ノ爐ノ作業

(ロ) 金屬ノ鑄造、熱間壓延、熱處理及火造ノ作業

(ハ) 汽罐又ハ蒸溜釜ノ焚燒及操作ノ作業

二 臨時作業手當ニシテ左ノ各作業ニ對スルモノ

(イ) 高所作業、橋柱、煙突其ノ他二十米以上ノ高所ニ於ケル作業

(ロ) 水中作業、身體ノ全部又ハ一部ヲ水中ニ浸シテ行フ作業及潜水ノ作業

(ハ) 粉塵作業、汽罐、爐、煙道又ハ除塵裝置ノ掃除等粉塵ヲ伴フ作業

(ニ) 荒天時作業、風雪雨等ニ際シ屋外ニ於テ行フ作業

(ホ) 變災時作業、風水害、火災、工場災害其ノ他ノ變災ノ際ニ於ケル特殊ノ作業

(ヘ) 試運轉作業、船舶、航空機、自動車、原動機類ノ試運轉ノ作業

(ト) 不潔作業、特ニ不潔ナル作業

● 勞務者ノ家族手當ニ關スル件 (昭和十七年二月十七日 厚生省勞働局長通牒)

標記ノ件ニ關シ本日別途告示相成候處右ハ扶養家族一人當リノ手當ヲ増額スルト共ニ家族數ニ依ル制限ヲ撤廢シ以テ勞務者ノ生活ノ安定ヲ圖リ全力ヲ生産ニ傾注シテ其ノ能率ヲ發揮セシメ且人口國策ニ資セントスルモノニ有之、此ノ趣旨ヲ雇傭主ニ徹底セシムルトモニ左記事項御留意ノ上實施上萬遺憾ナキヲ期セラレ度
追テ本手當ノ増給ヲ理由トシ製品價格ノ引上げ等ヲ爲スガ如キハ時節柄抑止スルコトト相成居候ニ付爲念

記

一、本手當ノ増給ニ因リ賃金總額制限ヲ超過スル場合ニ於テハ昭和十六年九月十一日厚生省登

勞第六四號依命通牒第十一號ニ依リ認可スルコト

二、賃金臨時措置令ノ適用ヲ受クル工場、事業場ニ於テ本手當ヲ支給セントシ之ガ許可ノ申請

ヲ爲シタル場合ハ其ノ賃金ガ同一地方ノ同種事業ノ賃金ニ比シ特ニ良好ナルモノヲ除キ貴廳

限り之ヲ許可スルコト

● 一日三交替制ニ依ル連續作業ニ付テノ最高初給賃金ノ除外ノ

(昭和十六年七月二十三日 厚生省勞働局長通牒)

許可ニ關スル件

一日三交替制ニ依リ連續作業ヲ爲ス工場ノ一回ノ所定就業時間ガ十時間ニ滿タザル場合ニ於テ最高初給賃金ノ範圍内ニ於テ其ノ所定就業時間ニ對スル賃金ヲ定メ早出又ハ殘業ニ對シテハ此ノ賃金ニ依リ算出シタル時間割賃金ヲ支給セントシ之ガ爲不特定勞務者ニ關スル最高初給賃金除外ノ許可ヲ出願スル者アルトキハ左記各號ノ作業ニ關スルモノニ限り作業ノ狀況工場ノ實情等御調査ノ上必要ニ應ジ貴官限り處理相成度尙其ノ作業ガ七月二十三日厚生省發勞第四七號特殊作業ニ従事スル勞務者ノ最高初給賃金除外ニ關スル通牒ノ各號ノ作業ナルニ於テハ同通牒各號ノ金額ノ範圍内ニ於テ所定就業時間ニ對スル賃金ヲ定メ且早出殘業ニ對シ此ノ賃金ニ依リ算出スル時間割賃金ヲ加給スルモノニ關シテモ同様貴官限り處理シ差支無之

追テ右御許可ノ上ハ申請書寫ヲ添へ遲滞ナク當局ニ報告相成度

記

賃金統制令(最高初給賃金)

- (イ) 製鐵高爐作業、製鋼爐作業並ニ之ト關聯スル鑄鋼、造塊及壓延ノ作業
- (ロ) 石炭瓦斯爐、骸炭爐、瓦斯發生爐、水性瓦斯爐及混成瓦斯爐ニ關スル作業
- (ハ) ビスコース纖維製造ノ作業

●轉職者ノ初給賃金ニ關スル件通牒(昭和十七年六月六日 厚生省労働局長通牒)

中小商工業者ノ整理統合ニ伴ヒ關係業者ノ重要産業ヘノ轉換ヲ促進スルコトト相成候處中小商工業者ニシテ勞務者トシテ工場事業場ニ就職スルモノノ賃金ニ關シテハ從前ノ收入等ノ關係上最高初給賃金ニ依リ難キ場合モ可有之ト存候ニ付テハ事業主ニ於テ是等ノ者ノ雇入ニ關シ最高初給賃金除外許可ノ申請ヲ爲シタルトキハ實情調査ノ上適宜御許可相成様御取計相成度

問 賃金規則ニ初給額ノ報告ヲ爲シ承認ヲ受ケ實施中平均時間割賃金額決定シタル時初給額ガ時間割賃金ヨリ高キ場合如何ナル措置ヲ爲スベキヤ

答 賃金規則ニ記載セル初給賃金額ガ平均時間割賃金ヲ超ユル場合ハ一應注意シテ調査スル要有之尙最高初給賃金ヲ超ユルコト(初給額ニ手當、實物給與ヲ加ヘタルモノガ)ヲ得ザルモノニ有之(昭和十五年十一月二十日 厚生省労働局長回答)

問 最高初給賃金ノ公定セラレ居ラザル職工ノ初給賃金ニ付テハ賃金臨時措置令ノ規定ニ依リ報告シタル基本給内規ニ拘束サルルコトナク其ノ工場ニ於テ實際ニ運用シ得ル額迄引上ヲ認メ支障ナキヤ

答 御見解ノ通(昭和十六年十二月三十日 日厚生省労働局長回答)

問 職工賃金ノ公定告示ニ依レバ定額給制ノ場合ニ於ケル一日ノ就業時間十時間ヲ超ユル就

業ニ對スル職工最高初給賃金ハ公定ノ最高額ニ十時間ヲ超ユル一時間毎ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル額ヲ加ヘタルモノヲ以テ最高額トセラレ居ルモ本縣下ニ於ケル各工場ハ其ノ就業時間概ネ一日十一時間ナル關係上加算スルニ於テハ全面的ニ賃金水準高騰スル處アリ如何ニ取扱フベキヤ

答 就業時間十一時間ノ場合ニ於ケル最高初給賃金額ガ貴縣ノ賃金水準ニ比シ高額ト認メラル、場合ハ事業主ヲシテ最高初給賃金額ト最低賃金額トノ範圍内ニ於テ實情ニ即シタル初給賃金ヲ支給セシムル様指導相成度(昭和十六年九月三日 厚生省労働局長回答)

問 本年七月五日附厚生省勞發第四三號御通牒ニ基キ公定セル未経験勞務者ノ初給賃金ハ賃金統制令第三十八條ニ依リ令第九條及第十條ノ規定ニ依リ定ムル最低賃金又ハ最高初給賃金ト見做サル、コト、相成候處第九條及第十條ニハ「一定ノ勞務者ニ付定ム」トアリ、而シテ規則第十一條ニハ「未経験勞務者トハ工場、鑛山ニ於ケル云々」トアルヲ以テ前記既ニ公定サレタル最低、最高初給賃金ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ限り適用アルベク、其ノ他ノ工場事業場ニハ適用ナキモノノ如ク解セラル、モ又右第九條及第十條ノ法ノ趣旨ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ限ラズ一般ノ事業場ニモ適用セントスルモノノ如ク、且賃金統制ノ指導取締上ヨリスルモ一般事業場ニ適用スルヲ妥當ナリト被認ヲ以テ第九條及第十條ニ所謂「一定ノ勞務者」トハ二十歳未満ノコトヲ指シ規則第十一條ノ工場トハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ限ラズ一般事業場ヲモ含ム意ト解シ、即チ曩ニ公定セル未経験勞務者ノ初給賃金ハ工場法ノ適用ナキ工場事業場ニモ適用サル、モノト解シ差支ナキヤ、又運輸業勞務賃金統制令(最高初給賃金)

者ヲ如何ニ取扱フベキヤ

答一、令第九條又ハ令第十條ノ規定ニ依リ現在既ニ公定サレタル最低賃金又ハ最高初給賃金ハ工場、鑛山ニ於ケル滿十二歳以上滿二十歳未滿ノ勞務者ニ限ルモノナルモ令第九條又ハ第十條ノ「一定ノ勞務者」トハ事業、年齢其ノ他ニ依リ勞務者ヲ一定ノ標準ニ基キ區分シ其レニ對シ各一定ノ賃金ヲ定ムル趣旨ニシテ特ニ二十歳未滿ノ勞務者ノミヲ指ス趣旨ニ非ズ

二、規則第十一條ノ工場トハ工場法ノ適用ヲ受ケザル工場ヲモ含ムモノトス

三、運輸業勞務者ハ工場、鑛山ニ於ケル勞務者トハ認メラザルニ付現ニ公定サレアル最低賃金又ハ最高初給賃金ノ適用ナキモノトス(昭和十六年一月十四日 厚生省勞働局長回答)

問 賃金臨時措置令第十五條ノ規定ニ依リ協定賃金ノ許可ヲ爲シ之ガ賃金ノ施行中最低賃金、最高初給賃金、最高賃金等公定セラレタル場合協定賃金ガ最低賃金ノ額ヲ下リ又ハ最高初給賃金若ハ最高賃金ノ額ヲ超ユルトキハ協定賃金ヲ公定賃金ノ範圍内ニ變更セシムベキヤ其ノマ、施行ヲ認ムベキヤ

答 既ニ許可セル協定賃金ノ内容ガ規則第十四條第一項各號又ハ第十五條第一項各號ニ該當スルヤ否ヤヲ審査シ其ノ内容ガ公定最低賃金ヲ下リ又ハ公定最高初給賃金若ハ最高賃金ヲ超ユベキモノヲ許可シ得ベキモノニ非ザルトキハ公定賃金ノ範圍内ニ變更セシムル様致度

令第十一條 厚生大臣又ハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ一定ノ勞務者ニ付最高賃金ヲ定ムルコトヲ得

ルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最高賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ最高賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ズ

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○則第十二條 最高賃金ハ日雇入ルル勞務者又ハ厚生大臣ノ指定スル勞務者ニ付定ムルモノトス

●賃金統制令施行規則第十二條ノ規定ニ依リ
最高賃金ヲ定ムベキ勞務者ノ指定(昭和十七年二月二十八日 厚生省告示第八十六號)

- 一、土木建築業ニ従事スル勞務者
- 二、運輸取扱業ニ従事スル勞務者中海上ニ於ケル貨物取扱勞務者及波止場、岸壁、河川沿岸ニ於ケル貨物取扱勞務者
- 三、農業ニ従事スル勞務者
- 四、林業ニ従事スル勞務者

令第十二條 第九條第二項、第十條第二項及前條第二項ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニハ之ヲ適用セズ

令第十三條 厚生大臣又ハ地方長官賃金ニシテ高額ニ失スト認メラルモノアルトキハ其ノ額ノ引下ニ付雇傭主ニ對シ命令ヲ爲スコトヲ得但シ最高初給賃金又ハ最高賃金ノ定アル勞務者ノ賃金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

令第十四條 雇傭主ハ左ニ掲グル勞務者以外ノ勞務者ニ對シ命令ヲ以テ定ムル期間ニ支拂フ賃金

賃金統制令(最高賃金)

ノ總額ガ厚生大臣又ハ地方長官ノ定ムル平均時間割賃金ニ其ノ就業時間ノ總數ヲ乘ジテ得タル額ノ合計額ヲ超ユルトキハ命令ヲ以テ定ムル所ニ依リ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

- 一 其ノ者ニ支拂フ賃金ニ付第十五條ノ認可アリタルモノ
- 二 請負單價又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ付第十六條ノ規定ニ依リ認可アリタル請負賃金制ニ依ル賃金ヲ以テ雇傭スルモノ
- 三 第十七條ノ規定ニ依リ認可アリタル初給賃金及昇給ノ規程ニ依リ雇入レ又ハ其ノ賃金ヲ増スベキモノ
- 四 前各號ニ掲グルモノノ外命令ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ賃金ノ範圍、平均時間割賃金及就業時間ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○則第十六條 令第十四條第一項ノ命令ノ定ムル期間(以下賃金總額計算期間ト稱ス)ハ左ノ如シ

- 第一期 一月一日ヨリ三月三十一日迄(毎月一定ノ賃金締切日ノ定アルトキハ三月ノ最終賃金締切日前三月間)
- 第二期 四月一日ヨリ六月三十日迄(毎月一定ノ賃金締切日ノ定アルトキハ六月ノ最終賃金締切日前三月間)
- 第三期 七月一日ヨリ九月三十日迄(毎月一定ノ賃金締切日ノ定アルトキハ九月ノ最終賃金締切日前三月間)
- 第四期 十月一日ヨリ十二月三十一日迄(毎月一定ノ賃金締切日ノ定アルトキハ十二月ノ最終賃金締切日前三月間)

○則第十七條 同一ノ工場、事業場ニ於テ令第十四條第一項各號ニ掲グル勞務者以外ノ勞務者ヲ常時三十人以上雇傭スル雇傭主ハ令第十四條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ認可ノ申請書ハ様式第七號ニ依リ其ノ申請ニハ最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ毎月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準ズベキ書面ヲ添附スベシ

第一項ノ認可ノ申請ニハ前項ニ依ルノ外基準總額ヲ超ユル理由ヲ證スルニ足ル資料竝ニ認可ヲ受ケントスル一時間平均賃金算出ノ方法及其ノ基礎ト爲ル資料ヲ具スベシ

○則第十八條 前條ノ認可ハ左ニ掲グル場合ニ之ヲ爲スモノトス

- 一 工場、事業場ニ於ケル勞務者ノ職種、年齢、經驗年數等ニ因リ必要アルトキ
- 二 工場、事業場ニ於ケル作業ノ性質又ハ環境ニ因リ特ニ必要アルトキ
- 三 工場、事業場ニ於ケル作業能率特ニ優秀ナルトキ
- 四 天災事變ニ際シ其ノ他特ニ必要アルトキ

○則第十九條 令第十四條第一項ノ認可ハ男女及年齢別一時間平均賃金ニ依リ之ヲ爲シ且其ノ認可ノ日ヨリ一年以内ニ於テ失効ノ期限ヲ附スルモノトス

雇傭主前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ令第十四條第一項各號ニ掲グル勞務者以外ノ勞務者ニ對シ賃金總額計算期間ニ支拂フ賃金ノ總額ハ前項ノ男女及年齢別一時間平均賃金ニ就業時間ノ總數ヲ乘ジテ得タル額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ザルモノトス

前二項ノ男女及年齢別一時間平均賃金ノ適用ニ關スル勞務者ノ年齢ノ計算ハ其ノ年ノ一月一日

賃金統制令(總額制限)

ノ現在ニ依ルモノトス

○則第二十條 令第十四條第一項第四號ノ規定ニ依リ左ノ勞務者ヲ定ム

一 専ラ工場外又ハ事業場外ノ事務所ニ於テ使用スルモノ

二 日日雇入ルルモノ

○則第二十一條 令第十四條第一項ノ賃金ハ左ニ掲グルモノヲ含マザルモノトス

一 厚生大臣ノ指定スル手當

二 實物給與但シ白米、精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク

三 賞與

四 臨時ノ給與

○則第二十二條 令第十四條第一項ノ平均時間割賃金ハ地域、業種、男女及年齢ノ別ニ之ヲ定ム

同一ノ工場、事業場ニ於テ平均時間割賃金ノ異ル二以上ノ事業ヲ營ムトキハ雇傭主ハ其ノ平均

時間割賃金ノ適用ヲ受クベキ業種ヲ選定シ豫メ之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ雇傭主ノ業種ノ選定ヲ不適當ト認メタルトキハ別段ノ指定ヲ爲スコ

トヲ得

第一項ノ平均時間割賃金ノ適用ニ關スル勞務者ノ年齢ノ計算ハ其ノ年ノ一月一日ノ現在ニ依ル

モノトス

○則第二十三條 令第十四條第一項ノ就業時間ハ休憩時間ヲ含ムモノトス

●賃金統制令施行規則第二十一條第一號ノ規定ニ依リ賃金統制

●令第十四條第一項ノ賃金ニ含マザル手當(昭和十六年九月十一日厚生省告示第四百五號)

賃金統制令施行規則第二十一條第一號ノ規定ニ依リ賃金統制令第十四條第一項ノ賃金ニ含マザ

ル手當ヲ左ノ通指定シ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三號ノ手當ハ鑛山監督局長ノ

承認ヲ受ケタルモノニ限ル

一、應召中又ハ入營中ノ勞務者ニ對シ支給スル手當

二、國民徵用令ニ依リ徵用セラレタル勞務者ニ對シ支給スル手當

三、鑛山ニ於ケル稼働率及能率増進ノ爲ニスル手當

●平均時間割賃金ノ運用ニ關スル件依命通牒(昭和十六年九月十一日厚生省勞働局長通牒)

賃金統制令第十四條第一項ノ規定ニ依リ定メラレタル平均時間割賃金ニ關シ本日別途告示相成

候處賃金總額制限超過ニ關シ規則第十八條ノ規定ニ依リ認可ノ申請アリタルトキハ概ネ左記標

準ニ依リ處理相成様致度

追テ常時雇傭スル勞務者ガ五百人(第五號、第六號及第八號乃至第十號ニ該當スル場合ハ百

人)以上ノ工場、事業場ニ係ルモノ及左記各號何レノ標準ニモ該當セザルモノニ付テハ處分

前當局ニ協議相成度尙貴官限リ處理ノモノニ付テハ申請書寫ヲ添ヘ遲滞ナク當局ニ報告相成

度

記

一 時間平均賃金ノ認可ニ關スル標準

一 當該事業場ノ最近ノ賃金總額計算期間ノ支拂賃金ノ總額ガ平均時間割賃金ニ其ノ就業時間

賃金統制令(總額制限)

ノ總數ヲ乘ジテ得タル額ノ合計額ヲ超ユル場合ニ於テハ特別ノ事情ナキ限り其ノ實績ヲ認可スルコト

二 當該事業場ノ一時間平均賃金ガ賃金總額計算期間ニ依リ著シク變動アルトキハ特別ノ事情ナキ限り其ノ最高ノ實績ヲ認可スルコト(此ノ場合ニ於テ最高實績トハ賃金臺帳(總括票)ノ一時間平均賃金(總計欄)ガ最高ヲ示ス賃金總額計算期間ノ一時間平均賃金トス)

尙本號ニ依ル申請ニハ必ず申請前一年間(一年ノ實績ナキトキハ其ノ實績アル期間)ノ賃金總額計算期間ノ賃金臺帳(總括票)寫ヲ添附セシムルコト

三 實績ナキ場合又ハ實績以上ノ場合ト雖モ男女及年齢階級毎ニ平均年齢及平均經驗年數ニ相當スル業種別平均賃金迄ハ認可スルコト此ノ場合ニ於テ職種別平均賃金ノ總平均ガ業種別平均賃金ヲ超過スルトキハ職種別平均賃金ノ總平均額迄ハ認可スルコト

右ノ業種別平均賃金及職種別平均賃金ハ別表ニ依ルコト

尙本號ニ依ル申請ニハ必ず最高初給賃金ノ區分ニ準ズル年齢階級及經驗年數階級別並ニ職種別勞務者數ヲ具セシムルコト

四 交替制ノ變更、資材又ハ動力ノ制限等ノ事情ニ依リ餘儀ナク就業時間ヲ短縮セル結果一時間平均賃金ノ引上ゲヲ要スル場合ニ於テハ從來ノ實收賃金ヲ維持スルニ必要ナル限度ニ於テ之ヲ認可スルコト

尙本號ニ依ル申請ニハ左ニ掲グル事項ヲ具セシムルコト

(一) 就業時間ヲ短縮セラルル勞務者ノ男女別及平均時間割賃金ノ區分ニ依ル年齢階級別員

數

(一) 短縮前三月間ノ一日一人平均就業時間及短縮後三月間ノ一日一人平均就業時間又ハ其

ノ見込時間

五 生産能率ノ著シキ向上アリタル場合ニ於テ之ニ相當スル賃金ノ支拂ヲ爲ス爲必要アルトキハ一時間當リ生産量ノ増加率ヲ限度トシテ之ヲ認可スルコト

尙本號ニ依ル申請ニハ必ず申請前一年間(一年間ノ實績ナキトキハ其ノ實績アル期間)ノ賃金總額計算期間若ハ毎月ノ賃金臺帳ノ寫又ハ之ニ準ズベキ書面ヲ添附スルノ外申請前一年間ノ毎賃金總額計算期間ノ一時間平均生産量ヲ具セシムルコト

六 作業能率特ニ優秀ナル事業場ニ於テ其ノ高キ能率ニ相當スル賃金ノ支拂ヲ爲ス爲必要アルトキハ同種事業ノ作業能率ト比較シテ相當額ヲ認可スルコト

尙本號ニ依ル申請ニハ作業能率特ニ優秀ナルコトヲ證明スルニ足ル資料ヲ具セシムルコト

七 深夜就業、重筋労働、危険、有害、悪臭、高熱、寒冷、粉塵、騒音其ノ他作業ノ性質又ハ環境ニ依リ特ニ高キ賃金ヲ支拂フ必要アル場合ニ於テハ特種作業ニ従事スル勞務者ニ對シ其ノ平均年齢及平均經驗年數ニ相當スル業種別平均賃金又ハ職種別平均賃金ニ一時間當リ特種作業手當(昭和十六年七月二十三日厚生省發勞第四七號同七月二十六日厚生省發勞第五二號通牒ノ金額ノ十分の一)ヲ加ヘタル額ヲ用ヒ第三號ニ準ジテ算出シタル總平均迄ハ認可スルコト(右ノ範圍ヲ超ユルモノハ凡テ豫メ當局ニ協議スルコト)

尙本號ニ依ル申請ニハ必ず賃金規則ノ寫ヲ添附スルノ外特ニ高キ賃金ヲ支拂フ要アル勞務者

賃金統制令(總額制限)

及其ノ他ノ勞務者ノ男女別、職種別及平均時間割賃金ノ區別ニ依ル年階級別員數、平均年
齡、平均經驗年數及最近ノ賃金總額計算期間ノ一時間平均賃金額ヲ具セシムルコト

八 交通不便ノ地ニアリ又ハ高賃金ノ事業場ノ近接セル等事業場ノ環境ニ因リ特ニ高キ賃金ヲ
定ムル要アル場合ハ其ノ限度ニ於テ一時間平均賃金ノ認可ヲ爲スコト

九 勞務者ニ相當ナル昇給ヲ行フ爲必要アルトキハ必要ナル限度ニ於テ一時間平均賃金ノ認可
ヲ爲スコト而シテ認可ヲ得ントスル一時間平均賃金ノ平均ガ平均時間割賃金(又ハ既ニ認可
ヲ受ケタル一時間平均賃金)ノ平均(最近ノ賃金締切日ニ於ケル勞務者數ヲ重サトセル加重平
均ニ依ルコト)ニ比較シ増加額ガ一年間ニ付五パーセント以内ノ場合當局ニ協議ニ及バザル
コト

尙本號ニ依ル申請ニハ必ず賃金規則及昇給内規(昇給内規ナキトキハ新ニ爲サントスル昇給
ノ基準)ノ寫ヲ添附スルノ外昇給セシメントスル勞務者ノ男女別及平均時間割賃金ノ區分ニ
依ル年階級別員數及一人平均昇給額ヲ具セシムルコト

十 事業場ノ移轉、新設其ノ他ノ場合ニ於テ他ヨリ轉勤シタル勞務者ノ從來ノ賃金ヲ維持シ又
ハ轉勤ニ伴ヒ増給ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ其ノ限度ニ於テ一時間平均賃金ノ認可ヲ爲スコ
ト

尙本號ニ依ル申請ニハ必ず左ニ掲グル事項ヲ具セシムルコト

(一) 轉勤シタル勞務者ノ轉勤前三月間ノ男女別平均時間割賃金ノ區分ニ依ル年階級別一
時間平均賃金及總就業時間

(二) 賃金ヲ増ス勞務者ノ男女別及平均時間割賃金ノ區分ニ依ル年階級別員數及一人平均
昇給額

十一 家族手當ヲ新ニ支給シ又ハ増額セントスル場合ニ於テハ之ニ必要ナル限度ニ於テ一時間
平均賃金ノ認可ヲ爲スコト

尙本號ニ依ル申請ニハ必ず賃金規則ノ寫ヲ添附スルノ外新ニ家族手當ノ支給又ハ増給ヲ受ク
ル勞務者ノ男女別及平均時間割賃金ノ區分ニ依ル年階級別員數及新ニ支給シ又ハ増額セン
トスル賃金總額計算期間ノ家族手當ノ額ヲ具セシムルコト

十二 同一經營ニ屬スル各事業場ノ賃金其ノ他ノ勞働條件ヲ統一スル要アル場合ニ於テハ之ニ
必要ナル限度ニ於テ一時間平均賃金ノ認可ヲ爲スコト尤モ他府縣ニ關係アルモノハ凡テ豫メ
當局ニ協議スルコト

尙本號ニ依ル申請ニハ必ず關係工場、事業場ノ賃金規則及最近ノ賃金總額計算期間ノ賃金臺
帳(總括票)ノ寫ヲ添附スルノ外其ノ工場、事業場ニ於ケル勞務者ノ男女別及平均時間割賃金
ノ區分ニ依ル年階級別賃金總額計算期間ニ於ケル賃金増加見込額ヲ具セシムルコト

十三 前各號ノ一時間平均賃金ノ認可ニ際シテハ當該工場、事業場ノ各賃金總額計算期間毎ノ
一時間平均賃金ノ變動ノ實情ニ徴シ必要ナル範圍ニ於テ五%以内ノ許容額ヲ認ムルコト尙當
該事業場ノ賃金總額計算期間ノ一時間平均賃金ノ實績ガ平均時間割賃金ヲ超エザル場合ト雖
モ其ノ差額ガ僅少ナル爲豫メ認可ヲ受クル要アルモノハ右ニ準ジ其ノ賃金總額計算期間ノ一
時間平均賃金ニ必要ナル許容額ヲ附シタルモノヲ認可スルコト

賃金統制令(總額制限)

十四 認可ニ附スル期限ハ賃金總額計算期間ニ合致セシムルコト尙第四號、第五號及第八號ノ認可ノ場合ニハ可及的短期間トスルコト

●企業ノ整理統合ニ伴フ賃金統制令並退職積立金及退職手當法ノ運用ニ關スル件(昭和十六年三月二十日厚生省労働局長通牒)

近時企業ノ合理化ヲ圖ル爲各種産業部門ニ於テ會社工場ノ整理統合ヲ行フモノ漸増ノ趨勢ニ有之候處右ニ關シ賃金統制令並退職積立金及退職手當法ノ運用ニ付テハ左記ニ依リ處理シ法令ノ趣旨徹底ニ務メ特ニ其圓滑ナル運用ニ御留意相成度

記

- 一、統合ノ際引續キ使用セラルル勞務者ニ給與スル合併記念等ノ手當ニ付テハ賃金統制令施行規則第二十九條ヲ適用シ可成公債ヲ以テ支給スル様指導スルコト
- 二、工場ノ整理ノ結果初給賃金高キ府縣ヨリ低キ府縣ニ未經驗勞働者ヲ移動セシメタル場合ニ於テ其ノ者ニ從前給與セラレタル限度ニ於テ其ノ府縣ノ最高額ヲ超ユル額ヲ給與スル爲最高初給賃金適用除外ノ許可ヲ爲スハ當局ニ協議ヲ要セザルコト但シ許可後其ノ内容(人員、許可額及許可ノ條件)等ヲ報告スルコト尙未經驗勞働者ノ從前ノ勤續期間ハ之ヲ通算シ差支ナキコト
- 三、統合ニ際シ賃金制度ノ整理統一ヲ圖ル爲、基本給、賃金基準及昇給内規ノ變更許可申請アリタル場合ハ賃金水準ノ著シク上昇セザル様留意スルト共ニ勞働者ノ從前ノ給與ヲ斟酌ノ上處理スルコト

- 四、前號ノ許可ハ統一セントスル會社、工場ガ數府縣ニ跨ルモノニ在リテハ常時雇傭スル勞務者ノ員數ニ不拘意見ヲ付シ豫メ當局ニ協議スルコト
- 五、統合ニ際シ勞務者ノ一齊解雇再採用ノ方法ニ依リ退職積立金及退職手當法適用ノ中斷ハ之ヲ認めザルコト

●被徵用者ノ給與補給ニ關スル件(昭和十七年七月十一日厚生省労働局長ヨリ各府縣官署事務局長宛)
 工場事業場ニ於テ使用スル徵用者ニシテ中小商工業ノ整理統合、ニ伴ヒ轉職シ商業組合工業組合其ノ他同業者團體ヨリ共助金ノ支給ヲ受クルモノニ對シテ爲ス給與補給ノ計算ニ當リテハ右共助金ハ勿論現収入トシテ取扱フベキモノニ有之爲念

●昭和十七年度中小商工業者共助費補助ニ關スル件(昭和十七年五月十六日商工次官ヨリ各知事宛)
 戰時下ニ於ケル國民經濟ノ總力發揮ニ資スル爲中小商工業ノ再編成ヲ實施シ中小商工業ノ企業體制ノ整備ヲ圖ルト共ニ轉廢業者ノ圓滑ナル轉移ヲ助成スルコト極メテ肝要ニ有之候處今般別紙「中小商工業者共助費補助要綱」ニ據リ中小商工業ノ再編成ノ實施ニ伴ヒ轉廢業ヲ餘儀ナクセラルル業者ノ共助費ニ對スル道府縣補助費ニ付補助金ヲ交付スルコトト相成候條委細ハ別紙要綱ニ依リ諒承ノ上右施設ノ成果ヲ學グル爲萬全ノ措置ヲ講ジ補助申請書提出相成度此段及通牒候也

追而昭和十六年度ニ於テ共助費ノ補助ヲ爲シタル者ニ對シ本年度ニ於テ引續キ共助ヲ要スル共助費補助ニ付テハ別途通牒ノ見込ニ有之申添

賃金統制令(總額制限)

別紙

中小商工業者共助費補助要綱

本補助金ハ中小企業ノ再編成ヲ實施シ戰時下ニ於ケル生産擴充計畫ノ遂行及國民生活ノ安定ヲ確保シ併セテ勞務動員ノ圓滑ナル實施ニ資スル爲別記(一)「中小商工業者共助費補助實施要綱」ニ依リ道府縣ガ中小商工業者ニ對スル共助費ノ補助ヲ爲サントスル場合ニ於テ道府縣ニ對シ之ヲ交付スルモノトス

一 補助額

道府縣ノ申請ニ依リ豫算(一三一、七五〇人ノ四ヶ月分總額一三、一七五、〇〇〇圓、殘額八ヶ月分ハ補助金ノ交付實績等ヲ檢討シタル上必要ニ應ジ交付ノ見込)ノ範圍内ニ於テ交付スルモノトス

二 補助率

原則トシテ別記(一)「中小商工業者共助費補助實施要綱」ニ依ル共助費總額ノ二分ノ一以內トシ殘額ハ道府縣又ハ商、工業組合等ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

三 補助條件ノ大要

- (一) 補助金ハ本目的以外ニ之ヲ使用シ得ザルコト
- (二) 計畫又ハ豫算ノ變更ニ付テハ豫メ當省ノ承認ヲ受クルコト
- (三) 當省ノ命令ニ從ハザルトキ又ハ豫算額ト決算額ト差額ヲ生ジタルトキハ補助金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルベキコト
- (四) 會計年度經過後遲滞ナク實施狀況及收支決算書ヲ別記(三)ノ様式ニヨリ當省ニ報告ス

ルコト

四 補助金交付申請書様式

別記(二)ノ通

五 補助金交付申請書提出期限

申請書ハ昭和十七年六月二十日迄ニ當省ニ到達スル様提出ノコト

【別記一】

中小商工業者共助費補助實施要綱

- 一 本補助金ハ中小商工業ノ再編成ニ伴ヒ轉廢業ヲ餘儀ナクセララル業主ノ圓滑ナル轉移ヲ助成スル爲商、工業組合等ガ共助ノ精神ニ則リ轉廢業者ニシテ生活困難ナル状態ニ陥ル虞アル者ニ對シ生活費ノ一部ヲ補助セントスル場合ニ於テ其ノ共助費ノ一部ヲ補助スルモノナルコト
- 二 本補助金ノ交付ヲ受ク可キ共助ノ主體ハ商業組合(聯合會ヲ含ム)工業組合(聯合會ヲ含ム)其ノ他ノ同業者團體等トス
- 三 本補助費ニ依ル共助ヲ受クル者ハ行政官廳ノ指導斡旋ニ依リ轉廢業ヲ爲ス者ニシテ未ダ他ノ職業ニ就職シ得ザル爲又ハ就職スルモ收入減ニ因リ生活困難ナル状態ニ陥ル虞アル者トス轉廢業ニ因リ既ニ商業組合、工業組合其ノ他ノ同業者團體等ノ構成員タラザルニ至リタル者ニ對シテモ前項ニ該當スル者ニ付テハ本補助費ニ依ル共助金交付ノ對象ト爲シ得ルコト
- 四 本補助費ニ依ル共助金ハ商工業者共一業主當リ一ヶ年六〇〇圓平均トシ其ノ半額ヲ國庫ヨ

貸金統制令(總額制限)

リ補助スルモノナルコト、但シ道府縣及組合等ノ負擔能力、轉廢業者ノ家族員數等ニ依リ之ヲ増減スルコトヲ得ルコト

五 本補助費ニ依ル共助金ノ交付ハ一ケ年ヲ以テ限度トスルモノナルヲ以テ之等轉廢業者ノ急速圓滑ナル轉移ヲ促進スルコト

六 本補助費ニ依ル共助金ハ可成月毎ニ之ヲ支給セシムルコト

七 共助ニ要スル資金ハ組合等ノ收入スル配給手數料、原材料供給手數料若ハ收益ノ一部ヲ之ニ充當セシメ又ハ既存ノ積立金ノ一部ヲ取崩シ之ニ充當セシムルコト

八 本補助ニ依ル共助金中組合等ノ負擔ニ屬スル金額ヲ支辨スル爲必要アル場合ニ於テハ「轉廢業者共助施設及共助資金利子補給要綱」ニ基キ國民更生金庫ヨリ資金ノ融通ヲ受クルコトヲ得ルコト

九 本補助金ニ依ル共助金ノ交付ヲ受クル者ノ氏名、交付金額等ヲ組合等ヨリ道府縣ニ對シ報告セシムルコト

十 本要綱ハ原則トシテ昭和十六年十一月十六日以後ニ於テ共助ヲ爲スモノニ限り適用スルコト

問 國民徵用令ニ依リ徵用セラレタル職工ハ雇傭主トハ何ラ雇傭關係ヲ有セザルヲ以テ賃金統制令第十四條ニ依ル總額制限ヲ受クル工場ニ於テ使用セララルル場合ニ於テモ徵用職工ハ除外計算スベキモノト解シ支障ナキヤ

答 新規(増加)徵用勞務者ニ付テハ御見解ノ通ナルモ現員(自家)徵用勞務者ニ付テハ適用アルコト

ルコト但シ現員徵用勞務者ニ付テモ賃金規則其ノ他給與ニ關シ國民徵用令第十九條ノ二ノ規定ニ基キ厚生大臣ヨリ別段ノ命令アリタル事項ニ付テハ適用ナキコト

(昭和十六年十二月二十日厚生省勞働局長四答)

問 事業場(鑛山ヲ除クノ意)ニ於テ常時三十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ規則第十七條ノ規定ニ依リ賃金總額制限超過ノ認可ヲ要スルモノナルガ同事業場ニ於ケル賃金臺帳ノ様式ハ規則第三十六條ニ依リ第十八號第十九號様式ト定アリ而シテ賃金總額制限超過認可申請書(様式第七號)ノ所定事項ヲ記載セシムルニハ右様式ニテハ不備ノ點アルノミナラズ第十九號様式ニ在リテハ毎期間ニ於ケル賃金總額ノ報告ヲ要セザルモノニ付賃金總額制限超過認可申請ノ要否如何ヲ認定スルノ方法如何ニスベキモノナルヤ

答 令第十四條第一項ノ平均時間割賃金ハ工場鑛山以外ノ事業場ニハ之ヲ定メザルコトト致居候條賃金總額制限方式ハ工場鑛山以外ノ事業場ニハ適用ヲ及ボサザル義ト御承知相成度

(昭和十六年一月二十五日厚生省勞働局長四答)

問 平均時間割賃金ノ適用範圍ニ關シテハ賃金統制令施行規則第十七條ニ依リ當然工場事業場ニ適用セララルモノト認メラルモ昭和十六年九月十一日付厚生省告示第四百四號ニ依レバ工場鑛山ニ於ケル平均時間割賃金トアリテ事業場ノ告示ナキ爲電氣業トシテノ事業場タル電氣供給事業會社ニ雇傭セラレ居ル電工等ニ關シテハ之ガ適用ナキモノナルヤ否ヤ

答 電氣業中發電所、開閉所、變電及蓄電所等ニ關シテハ工場法ニ於ケルト同様工場トシテノ取扱ヒヲ爲スモノニ付平均時間割賃金ノ適用有之モ其ノ他ノ事業所、營業所ニ付テハ適用ナキモノナルコト

用無之モノト御了知相成度(昭和十六年十一月四日 労働局賃金課長 同答)

問 賃金統制令第十四條第一項第二號ニ依レバ請負單價、請負歩合、賃金算定方法ニ付地方長官ノ認可アリタルモノハ總額制限ヨリ除外セルモ此ノ場合保證給附請負制ヲ採用セル工場ニ於ケル保證給ニ付テハ制限方法無之様思料セラレ候ニ付テハ之ガ取扱ハ如何ニスベキヤ

答 保證給ハ其ノ性質上勞務者ノ通常取り得ル請負ニ依ル賃金ヨリ低額ナルベキモノナル故其ノ認可ハ必要無之若シ保證給ガ其ノ者ノ請負ニ依ル賃金ヨリ概ネ高額ナルガ如キモノアラバ其ノ保證給ハ本質的ニ保證給トハ難認斯カルモノハ名稱ニ拘泥セズ定額賃金トシテ別途ニ取扱相成様致度(昭和十五年十二月三日 労働局賃金課長 同答)

問 「人造テクス」製造業ハ其ノ作業工程ヨリシテ之ヲ小分類一五八其ノ他ノ化學纖維製造業ニ包括スルヲ妥當ト認メラルルモ或ハ小分類二〇八其ノ他ノ撚糸及加工撚糸業ニ包括スベキヤ

答 小分類「二三九」(其ノ他ノ紡織品製造加工業)ニ該當スルモノナリ(昭和十七年二月二十日 厚生省労働局長 同答)
問 平均時間割賃金ノ業種区分ニ關シ

1 鶏ノ飼料製造業ハ區分77、99ノ何レニ屬スベキヤ

2 自轉車ノ修繕工場ハ區分99ニ屬スベキヤ又ハ何レニモ屬セザルモノナルヤ

答 1 99ニ屬ス

2 15ニ屬ス(昭和十六年十二月四日 厚生省労働局長 同答)

令第十五條 雇傭主ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ一定ノ勞務者ニ支拂フ賃金ニ付單位生産量ニ對スル額ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ一定ノ勞務者ニ對シ支拂フ賃金ノ總額ハ其ノ單位生産量ニ對スル額ニ生産量ヲ乗ジテ得タル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

(認可方針)

(一) 單位生産量ニ對スル賃金額ノ認可ハ左ノ場合ニ限定スルコト

1 生産品ノ種類少ク且其ノ變化スル場合少キコトノ豫想セラルル事業場ナルコト

2 生産工程ノ確定セルコト

3 生産品ノ完成ニ長期間(概ネ一週間)ヲ要セザル事業場ナルコト

(二) 認可ニ當リテハ單位生産量ニ對スル賃金額ノ實績ト一時間平均賃金ノ實績トヲ照合シテ一時間平均賃金ノ認可標準ニ準ジテ處理スルコト

(三) 勞務者ノ範圍ハ認可ヲ受クル生産品ノ生産ニ關係アル勞務者トスルコト但シ認可ヲ受クル生産品以外ノ生産ニ從事スル勞務者ト雖モ其ノ數極メテ少ナル場合ニハ之ヲモ含メテ主要生産品ニ付生産量ニ對スル賃金額ノ認可ヲ爲シ得ルコト

(四) 左ノ各號ニ該當スル場合ニハ令第十八條第三號ノ規定ニ依リ認可ヲ取消スコト

1 生産設備又ハ作業方法ニ變化アリタルトキ

2 生産品ノ種類(規格)ヲ變更セルトキ

3 生産工程ニ著シキ變化アリタルトキ(昭和十六年九月十一日 厚生省労働局長 依命通牒)

令第十六條 雇傭主ハ請負單價又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキ

賃金統制令(請負賃金)

ハ其ノ請負賃金制ニ依ル賃金ヲ以テ勞務者ヲ雇傭スルコトヲ得但シ第九條第二項、第十條第二項又ハ第十一條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

(認可方針)

(一) 請負單價(請負歩合)ノ認可ハ左ノ場合ニ限定スルコト

- 1 生産品ノ種類少ク且其ノ變化スル場合少キコトノ豫想セラルル事業場ナルコト
- 2 生産工程明確ナルコト
- 3 各請負工程ノ完了ニ要スル期間ガ通常長期ニ亘ラズ概ネ一週間以内ニ終ルモノナルコト

4 作業ノ種類及請負單價(請負歩合)ノ多數ナラザル事業場ナルコト

5 賃金算定方式中ニ基本給ヲ含マザルモノニ限定スルコト但シ保證給制トシテ基本給ヲ用フルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

(二) 認可ニ當リテハ認可後ノ一時間平均賃金ノ見込額ト最近ノ一時間平均賃金ノ実績トヲ照合シ一時間平均賃金ノ認可標準ニ準ジテ處理スルコト

(三) 勞務者ノ範圍ハ認可ヲ受ケタル請負單價(請負歩合)ニ依リ賃金ヲ受クル勞務者ニ限ルコト

(四) 作業ノ種類及請負單價(請負歩合)ヲ變更スル場合ハ認可ノ取消ヲ爲スコト

(昭和十六年九月十一日
厚生省勞働局長依命通牒)

○則第二十四條 令第十五條又ハ第十六條ノ認可ノ申請書ハ様式第八號又ハ様式第九號ニ依リ其

ノ申請ニハ第五條第二項第五號ニ掲グル事項ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫及最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ毎月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準ズベキ書面ヲ添附スベシ

○則第二十四條ノ二 令第十五條及第十六條ノ認可ハ其ノ認可ノ日ヨリ一年以内ニ於テ失效ノ期限ヲ附スルモノトス

問 令第十六條及第十七條ノ認可ニ關シ、同一ノ工場ニ於テ其ノ支拂フ賃金ヲ受クル勞務者ヲ區別スル場合ニ限り令第十六條ニ依ル認可ト第十七條ニ依ル認可ヲ併セ又ハ時期ヲ異ニシテ之ヲ爲シ得ルヤ

答 御見解ノ通(昭和十五年十一月二十日
日勞働局長依命通牒)

令第十七條 雇傭主ハ一定ノ勞務者ノ初給賃金及昇給ノ規程ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ規程ノ適用アル勞務者ニ付其ノ規程ニ依リ之ヲ雇入レ又ハ其ノ賃金ヲ増スコトヲ得

○則第二十五條 令第十七條ノ認可ノ申請書ハ様式第十號ニ依リ其ノ申請ニハ初給賃金及昇給ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫並ニ最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ毎月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準ズベキ書面ヲ添附スベシ

○則第二十五條ノ二 雇傭主令第十七條ノ認可ヲ受ケタルトキハ認可アリタル昇給ノ規程ニ依リ其ノ賃金ヲ増スベキ勞務者ニ對スル一回ノ昇給額ノ其ノ勞務者ニ對スル平均額ハ其ノ昇給ノ規程ニ定ムル一回ノ昇給標準額ヲ超ユルコトヲ得ザルモノトス

○則第二十五條ノ三 令第十五條、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クル賃金ニハ第二十一條各號ニ掲グルモノヲ含マザルモノトス

賃金統制令(昇給規程)

(認可方針)

- (一) 初給賃金及昇給規程ノ認可ハ左ノ場合ニ限ルコト
 - 1 定額賃金制ヲ採用スルコト
 - 2 昇給額(率)ノ最高、最低ノ幅少キコト
- (二) 認可ニ當リテハ同一地方ノ同種産業ニ於ケル賃金ヲ考慮シテ處理スルコト

(昭和十六年九月十一日 厚生省労働局長依命通牒)

問 規則第五條第一項第三號ト令第十七條トノ關係ニ付テ

- 1 規則第五條第三號ニハ「定額給ノ定アルトキハ其ノ初給額及最低額」トアリ
- 2 令第十七條ニハ「勞務者ノ初給賃金及昇給ノ規程ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ」云々トアリ

何レモ勞務者ニ對スル初給賃金ノ定ナルニ第一ハ報告ニ依ル承認ニテ法定ノ效力ガ生ジ第ニハ特ニ認可ノ形式ヲ要スルコトアルガ其ノ差異如何

答 令第十七條ノ規定ニ於テ認可ノ形式ヲ要スルコトセルハ本條ガ令第十四條ノ賃金總額制限ノ例外規定ニシテ雇傭主ガ本條ニ依リ初給賃金及昇給規程ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ賃金總額ノ制限ノ適用ヲ除セラル、コト、ナルニ付特ニ認可事項トセルモノニ有之(昭和十五年十一月二十日 労働局長回答)

令第十八條 地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ前四條ノ規定ニ依ル認可ヲ取消スコトヲ得

- 一 詐偽又ハ不正ノ手段ニ依リ認可ヲ受ケタルモノナルトキ

二 認可ノ條件ニ違反シタルトキ

三 認可後ノ事情ニ著シキ變更アリタルトキ

令第十九條 厚生大臣ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ手當、實物給與、賞與又ハ臨時ノ給與ノ種類又ハ額ニ關シ賃金統制上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

○則第二十六條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ其ノ雇傭スル勞務者ニ就業ノ日又ハ時間ニ對スル賃金ヲ超ユル手當ヲ其ノ就業セザル日又ハ時間ニ對シ支給セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ノ申請書ハ様式第十一號ニ依リ其ノ申請ニハ手當ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫ヲ添付スベシ

○則第二十七條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ令第六條ノ規定ニ依リ地方長官ニ報告シタル賃金規則ニ依ルノ外其ノ雇傭スル勞務者ニ實物ヲ給與セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ノ申請書ハ様式第十二號ニ依リ其ノ申請ニハ實物給與ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫ヲ添付スベシ

○則第二十八條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ其ノ雇傭スル勞務者ニ賞與ヲ支給セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ賞與ノ各支給期ニ於ケル其ノ支給ヲ受クル勞務者ニ對スル平均金額ノ毎年ノ合計額ガ六十圓ヲ超エズ又ハ當該工場、事業場ニ於ケル勞務者ノ健康保險法施行令第三條ノ標準報酬日額ノ平

賃金統制令(實物給與)

均金額ノ四十日分ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ許可ノ申請書ハ様式第十三號ニ依リ其ノ申請ニハ最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ毎月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準ズベキ書面ヲ添附スベシ

○則第二十九條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ其ノ雇傭スル勞務者ノ全部又ハ大部分ニ時ヲ同ジクシテ臨時ノ給與ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ臨時ノ給與ノ其ノ給與ヲ受クル勞務者ニ對スル平均金額ノ毎年ノ合計額ガ二十圓ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ許可ノ申請書ハ様式第十四號ニ依リ其ノ申請ニハ最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ毎月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準ズベキ書面ヲ添附スベシ

○則第三十條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ勞務者ニ對シ厚生大臣ノ定ムル價格ヲ下ル代價ヲ以テ白米、精麥又ハ食事ノ販賣ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ其ノ販賣ノ委託ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

前項ノ許可ノ申請書ハ様式第十五號ニ依リ其ノ申請ニハ最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ毎月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準ズベキ書面及手當並ニ實物給與ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫ヲ添附スベシ

●賃金統制令施行規則第三十條第一項ノ規定ニ依ル

白米、精麥及食事ノ價格

(昭和十五年十月二十一日
厚生省告示第三百二十四號)

一、白米 價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ指定スル小賣價格ノ八割

二、精麥 價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ指定スル小賣價格ノ八割
三、食事 一日(三食) 男 二十五錢 女 二十錢
一食 男 十錢 女 八錢

●實物給與又ハ廉賣ニ代ル手當ノ件通牒(昭和十六年五月二十六日
厚生省勞働局長通牒)

米麥其ノ他食料品等物資ノ配給不圓滑トナリタルニ因リ工場事業場ニシテ從來ノ實物給與又ハ廉賣ノ制ヲ廢シ之ガ代價トシテ從來勞務者ノ受ケタル利益ノ範圍内ニ於テ新ニ手當ノ支給ヲ爲サントスル場合ニ於テハ爾今貴官限リ御處理相成様致度尙御許可ノ上ハ其ノ旨速カニ當省ニ御報告相煩度

問 二、三歳ノ幼兒ヲ養育シ居レル女工ヲ其ノ幼兒ニ對シテ無償ニテ食事ノ給與ヲ爲ス條件

ニテ雇傭シ居ルモノアルモ之等幼兒ニ給與スル食事ニ付テハ昭和十五年十月厚生省告示第

三二四號ノ價格ニ準據スベキヤ

答 右ハ實物給與トシテ賃金規則ニ記載ヲ要スルモ賃金ノ額ニ換算スル必要無之

(昭和十六年五月七日
厚生省勞働局長回答)

問 勞務者タル父兄ノ願出ニ依リ國民學校在學中借受ケタル金額(毎月二圓宛)ヲ卒業後五ヶ

年間會社ニ勤續シタル場合ハ返済ヲ免除スル規程ナルガ右ハ賃金統制上相當取締ルベキモノナリヤ

答 設問ノ如キ學資貸與規程ノ範圍内ニ於テハ格別取締ノ要無之(昭和十六年十二月二十七
日厚生省勞働局長回答)

問 規則第二十八條第一項但書ノ賞與額及規則第二十九條第一項但書ノ臨時ノ給與額算定方

賃金統制令(實物給與)

法如何

答 各支給期ニ支給セル賞與ノ總額ヲ其ノ支給ヲ受ケタル勞務者ノ數ヲ以テ除シタル額ノ歷年中ニ於ケル各期ノ和ヲ以テ算定ス、臨時ノ給與額ノ算定ニ付テモ右ニ同シ
尙標準報酬日額ノ平均額ハ全勞務者ノ平均給ヲ以テ算定ス(昭和十六年三月十五日)
(勞働局賃金課長回答)

問 賃金統制令施行規則第九條、第十三條及第二十一條ニ於テ夫々最低賃金、最高初給賃金、最高賃金及總額賃金ノ範圍ヲ限定シアリテ規則第三十條第一項ノ規定ニ依ル廉價販賣ノ差額ハ何レモ賃金ノ範圍ニ含ム様解セラル、モ解説書ノ解説ニ於テハ差額ハ「賃金ト看做サザル」旨記載シアルガ(解説書二十五頁)解説ノ通右差額ヲ賃金ニ含マザルモノトセバ如何ナル理由ニ因ルモノナルヤ

答 賃金統制令ニ於テハ物品ノ廉價ハ賃金トハ看做サズ物品ノ販賣行爲ト見做スコト、セルモ其ノ理由ハ物品ノ廉價ニ於ケル販賣價格ト市價トノ差額ヲ賃金ニ換算シ個々ノ勞務者ノ賃金ヲ計算スルコト困難ナルニ因ルモノニ有之(昭和十六年一月十三日)
(厚生省勞働局長回答)

令第二十條 厚生大臣ハ勞務者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ノ方法ニ依リ事實上賃金ノ額ガ増減セラルル處アル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ雇傭主ニ對シ勞務者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

問 貴局配布ノ賃金統制令解説中第十勞務者ニ對スル物品販賣制限ノ項ニ於テ雇傭主ガ相當部分ノ經費ヲ負擔シ第三者ニ委託販賣トアル相當部分トハ如何ナル程度ヲ指スモノナリヤ具體的ニ指示煩度

答 第三者ガ雇傭主ノ委任ヲ受ケ其ノ雇傭主ノ雇傭スル勞務者ニ對シ物品ノ販賣ヲ爲ス場合ハ雇傭主ノ經費ノ負擔ノ有無ニ不拘賃金統制令第二十條ニ謂フ委託ノ方法ニ依ル物品ノ販賣ト認ムベキ義ニ有之(昭和十六年二月三日)
(厚生省勞働局長回答)

令第二十一條 雇傭主相互間ニ於テ又ハ厚生大臣若ハ地方長官ノ指定スル組合若ハ團體ニ於テ賃金ノ協定ヲ爲シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ雇傭主又ハ其ノ組合若ハ團體ノ組合員若ハ團體員(組合又ハ團體ヲ組織スル組合又ハ團體ノ組合員又ハ團體員ヲ含ム以下同ジ)タル雇傭主ノ爲ス雇傭ニ於テハ其ノ協定ニ依ルベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

- 令第二十二條 賃金ノ協定ハ左ノ事項ニ付之ヲ爲スコトヲ得
- 一 最低賃金
 - 二 最高初給賃金
 - 三 最高賃金
 - 四 定額賃金制ニ於ケル定額給
 - 五 請負賃金制ニ於ケル保證給又ハ單位時間給
 - 六 請負賃金制ニ於ケル請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法
 - 七 手 當
 - 八 實物給與
 - 九 昇給規程
 - 十 其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

賃金統制令(協定賃金)

○則第三十一條 令第二十二條ノ規定ニ依ル賃金ノ協定ノ認可ノ申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 協定ヲ爲シタル雇傭主ノ氏名及住所又ハ協定ヲ爲シタル組合若ハ團體ノ名稱及所在地
- 二 協定ノ内容
- 三 協定ノ行ハルル區域
- 四 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

○則第三十二條 雇傭主ハ天災事變ニ際シ必要アルトキハ令第二十一條但書ノ規定ニ依リ同條ノ協定ニ依ラザルコトヲ得

雇傭主前項ノ規定ニ依リ令第二十二條ノ協定ニ依ラザリシトキハ令第三十一條第一項ノ規定ニ基キ其ノ要領ヲ具シ十四日以内ニ地方長官ニ報告スベシ

●賃金ノ協定ニシテ賃金統制令第十五條、第十六條及第十七條ノ事項ニ關スルモノノ取扱ニ關スル件通牒(昭和十六年十月十三日厚生省労働局長通牒)

賃金統制令第十五條、第十六條又ハ第十七條ニ規定スル事項ニ關スル賃金ノ協定ニシテ平均時間割賃金ノ公定前ニ認可シタルモノニシテ九月十一日厚生省發勞第六三號賃金統制令第十五條、第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ認可ニ關スル件依命通牒ノ趣旨ニ悖ルモノアルトキハ賃金統制令第二十六條ノ規定ニ依リ協定ヲ取消シ又ハ之ガ取消シヲ爲シタル上之ニ代ルベキ定ヲ爲ス等適宜ノ措置ヲ講ズル様致度

追テ特別ノ事由ニ因リ引續キ存續セシムベキモノアルトキハ其ノ事由ヲ具シ協定ノ内容ヲ折

返シ御報告相成度尙右協定賃金ノ範圍ハ令第十五條、第十六條及第十七條ノ賃金ノ範圍ト同一ト爲スベキ義ニ付爲念

問一、令第十四條ニ依リ平均時間割賃金ト協定賃金ノ關係ニ關シ、從來許可又ハ認可ヲ爲シタル協定賃金ノ内容ヲ概觀スルニ令第十五條乃至第十七條ノ規定ニ依リ認可スベキ事項ニ該當スルモノ又ハ該當セザルモノ或ハ兩者ヲ併セ協定セルモノ等アリテ之ヲ一律ニ處理シ得ザルモノ相當數ニ達スル狀況ニ在リ付テハ左記區別ニ依リ之ヲ措置致度

- 1 令第十五條第十六條又ハ第十七條(以下令第十五條等ト稱ス)ニ依リ認可スベキ賃金ト全ク異ナラザルモノニ付協定アルトキハ令第十四條ノ適用ナキモノト解シ將來其ノ協定ノ定メヲ認ムルコト(一般賃金統制令ノ施行上必要アル場合令第二十六條ニ依リ之ヲ制限スル場合ヲ除ク)

- 2 令第十五條等ニ依リ認可スベキ賃金ト全ク異ル事項ニ付キ協定アルトキハ該協定ハ令第十四條ノ規定ニ依リ平均時間割賃金ノ實施ト同時ニ其ノ効力ヲ失ヒタルモノト解シ令第十四條ノ適用ヲ受ケシムルコト

- 3 令第十五條等ニ依リ認可スベキ賃金ト全ク異ラザル事項ト全ク異ル事項ヲ併セ協定セルモノニ對シテハ右ニ準ジ其ノ協定ハ無効ト解スルコト(同一人ノ勞務者ニシテ令第十五條等ニ依リ認可ヲ受ケタル賃金ト然ラザル賃金ヲ併セ受クル結果ハ令第十四條ノ運用上一時間當平均賃金ノ算出上不合理ヲ生ズルヲ以テナリ)

- 4 令第十七條ニ所謂初給賃金ノ解釋ハ令第十條ノ規定ニ依リ公定サル、最高初給賃金ト

賃金統制令(協定賃金)

區別セラルベキハ勿論ナルモ協定ノ定メニ依ルモノガ最高初給賃金又ハ初給賃金又ハ初給額等ノ名稱ノ異ルモノアリト雖モ其ノ實體タル賃金ノ範圍ガ規則第二十五條ノ三ニ定ムル所ニ依リ令第十七條ニ所謂初給賃金ノ範圍ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ令第十七條ノ初給賃金ト解スルコト

二、規則第七條ニ所謂賃金ノ協定存スル場合以下云々ノ解釋ニ關シ協定賃金ノ定メニ於テ雇傭主ニ其ノ賃金支給ノ有無及其ノ支給額ノ決定ニ付意志ノ自由ヲ認メタル場合(例ヘバ初給賃金ノ最高額ヲ定メ其ノ範圍内ニ於テ雇傭主ハ任意初給額ヲ決定シ又ハ數種ノ手當ヲ支給シ得ル旨ノ定メヲ爲ス等)賃金規則ニ於テ其ノ最高額ノ範圍内ニ於テ初給額ヲ定メ又ハ其ノ支給ヲ爲ス旨ノ記載ナキ場合ニ於テハ賃金規則ノ定ムル處ニ依リ賃金支拂ヲ爲シ差支ナキヤ

答 一、十月十三日附勞發第八〇四號「賃金ノ協定ニシテ賃金統制令第十五條第十六條及第十七條ノ事項ニ關スルモノノ取扱ニ關スル件」通牒(第五四頁參照)ニ依リ處理セラレ度
二、御見解ノ通(昭和十六年十二月四日厚生省勞務局長回答)

令第二十三條 賃金ノ協定ニシテ最低賃金ノ額ヲ下リ又ハ最高初給賃金若ハ最高賃金ノ額ヲ超ユルモノニ付認可アリタルトキハ其ノ協定シタル事項ニ付テハ各第九條第二項、第十條第二項又ハ第十一條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

賃金ノ協定ニシテ第十五條、第十六條又ハ第十七條ノ事項ニ關スルモノニ付認可アリタルトキハ其ノ協定シタル事項ニ付テハ各第十五條、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタ

ルモノト看做ス

令第二十四條 賃金ノ協定ヲ爲シタル雇傭主又ハ組合若ハ團體ニ於テ其ノ協定ヲ廢止シ又ハ其ノ内容ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケベシ

〇則第三十三條 令第二十四條ノ規定ニ依リ賃金ノ協定ノ變更又ハ廢止ノ認可ノ申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 協定ヲ爲シタル雇傭主ノ氏名及住所又ハ協定ヲ爲シタル組合若ハ團體ノ名稱及所在地
- 二 廢止又ハ變更スベキ事項及其ノ内容
- 三 廢止又ハ變更セントスル協定ノ行ハルル區域
- 四 廢止又ハ變更ヲ要スル理由
- 五 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

令第二十五條 地方長官賃金ノ協定存スル場合ニ於テ賃金統制上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ協定ニ加ハラザル雇傭主又ハ協定ヲ爲シタル組合若ハ團體ノ組合員若ハ團體員ニ非ザル雇傭主ニ對シ協定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

〇則第三十四條 協定ノ行ハルル區域内ニ於テ協定ニ加ハリタル雇傭主ト同種若ハ類似ノ事業ヲ營ミ若ハ協定アリタル勞務者ト同種ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主又ハ協定ヲ爲シタル組合若ハ團體ノ地區内ニ於テ組合若ハ團體ノ組合員若ハ團體員(組合又ハ團體ヲ組織スル組合又ハ團體ノ組合員又ハ團體員ヲ含ム以下同ジ)タル資格ヲ有スルモ組合若ハ團體ノ組合員若ハ團體員ニ非ザルモノニ對シテハ令第二十五條ノ規定ニ依リ協定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

賃金統制令(協定賃金)

問一、貸金統制令第二十五條ノ規定ニ依ル協定加入命令ハ具體的ニ協定ニ加ハラザル特定人ニ對シテノミ發スルモノナリヤ又ハ協定ニ加ハラザルモノト雖モ協定ニ從フベキコトヲ一般抽象的ニ命ズルコトヲ得ルモノナリヤ

二、特定人ニ對シテノミ發スルモノトセバ其ノ都度命令書ヲ本人ニ交付スルト共ニ縣公報ニ登載スベキモノナリヤ

三、一般不特定人ニ命ジ得ルモノトセバ

(イ) 協定貸金認可ノ都度縣令ヲ制定スベキモノナリヤ

(ロ) 又ハ縣令ニ依ラズシテ協定貸金認可ノ告示ト同時ニ本協定ニ加ハラザルモノモ之ニ從フベキ旨ヲ告示スベキモノナリヤ

答一、令第二十五條ノ命令ハ特定人又ハ不特定人ニ對シ爲スコトヲ得ルコト

二、特定人ニ對シ命令ヲ發スル場合ニ付テハ縣公報ニ登載ノ要ナキコト

三、何レニ依ルモ差支無キコト(昭和十七年二月十六日 勞働局貸金課長四答)

令第二十六條 地方長官ハ貸金統制上必要アリト認ムルトキハ貸金委員會ノ意見ヲ聽キ貸金ノ協定ニ付第二十一條ノ規定ニ依リ爲シタル認可ヲ取消スコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ貸金ノ協定ニ付爲シタル認可ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ貸金ノ協定ニ代ルベキ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ爲シタル第二十一條ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可シタル貸金ノ協定ト看做ス

令第二十七條 地方長官ハ雇傭主又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ指定セラレタル組合若ハ團體ニ對シ期限ヲ指定シテ第二十二條各號ニ掲グル事項ニ關シ貸金ノ協定ヲ爲スコトヲ促スコトヲ得

雇傭主又ハ組合若ハ團體ニ於テ前項ノ期限内ニ貸金ノ協定ヲ爲サズ又ハ期限内ニ協定ヲ爲スモ其ノ協定ニ付認可ヲ得ザリシトキハ地方長官ハ貸金委員會ノ意見ヲ聽キ協定ニ代ルベキ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ爲シタル第二十一條ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可シタル貸金ノ協定ト看做ス

令第二十八條 削 (昭和十六年九月三日勅令第八百四十一號)
(價格等統制令中改正ノ件)ヲ以テ削除

〔價格等統制令第四條ノ二〕 修繕料其ノ他價格運送賃等以外ノ價格等(以下修繕料等ト稱ス)ニシテ主務大臣ノ指定スルモノハ主務大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 修繕料等ニ對スル給付ヲ爲スモノガ目的物ノ引渡ヲ受ケタル場合
 - 二 修繕料等ニ對スル給付ヲ爲スモノガ修繕料等ニ對スル給付ニ著手シタル場合
- 價格等統制令第四條ノ二ノ規定ニ依リ修繕料等及

年月日左ノ通指定ス

(昭和十六年九月三日 厚生省告示第三八一號)

修繕料等

年 月 日

貸金統制令(協定貸金)

勞務供給ノ請負料(派出婦及派出料ヲ含ム)

昭和十六年八月十一日

大工、左官、屋根職、疊職、建具職、塗裝職、植木職、畜職、(右同)

井戸職、鋤工及木挽職ノ手間賃

問 昭和十六年九月三日厚生省告示第三百八十一號中「勞務供給ノ請負料」ニ所謂勞務ノ供給トハ賃金統制令第二條各號ニ掲ゲラレタル勞務即チ鑛業、砂鑛業、石切業、土木建築業等ニ屬スル勞務ノ供給ハ勿論本條ニ列學セラレザル勞務例ハ荷造等社會通念上勞働力ノ供給ト認メラル、モノ一切ヲ含ムモノト解シ差支無キヤ

答 御見解ノ通(昭和十六年十月二十二日 日勞働局賃金課長同答)

問 厚生省告示第三百八十一號中所謂大工ノ手間賃ニハ船大工ノ手間賃ヲモ含ムモノト解シ差支無キヤ

答 御見解ノ通(右同)

問 國家總動員法第十九條ノ財産ノ給付ニ關シ厚生省ト農林省トノ所管區分如何

答 國家總動員法第十九條ノ財産ノ給付ニ關シ農林畜水産業ノ經營ト不可分一體ヲナス財産ノ給付ニ付テハ農林省所管トスルコト、尙所管ノ明瞭ヲ缺クモノニ付テハ其ノ都度農林厚生兩省間ニ於テ協議ノ上決定スルコト、右ニ基キ差當リ農林省ニ於テ統制實施ヲ計畫シツツアル財産ノ給付左ノ如シ

- 一、家畜ノ種付料、獸醫師診療費、裝蹄料、競馬場入場料、放牧料、繫留料
- 二、開墾、造林、斫材、耕地改良、漁港ノ修築ノ請負料及賃耕、賃揚水其他ノ農作業ニ關

スル請負料、但シ右ノ請負料ハ單ナル勞務ノ提供ニ對スル請負料ヲ含マザルコト

三、農林畜水産業ノ共同作業場ノ利用料

四、農機具及家畜ノ利用料

五、農林畜水産物、飲食料品及農林畜水産業專用品ノ包裝料ニ付テハ包裝材料ヲ包裝請負

人ニ於テ負擔スル場合ナルコト(昭和十六年九月十八日 厚生省勞働局長同答)

問 昭和十六年九月三日厚生省告示第三百八十一號價格等統制令第四條ノ二ノ規定ニ依ル修繕料等及年月日指定ニ關スル告示中「大工ノ手間賃」有之候處大工ヲ業トスル者ガ他人ノ家屋ヲ建築スルニ際シ一棟何圓(一坪當リ何圓トシテ總建坪數ニ對スル總額ノ見積ヲ爲ス)トシテ請負ヒ建築スル場合ノ請負料ノ如キモ右手間賃トシテ取扱フベキモノト思料シ差支無キヤ

答 家屋建築請負料中ニ材料費ガ包含セラレ居ラザル場合ハ手間賃トス(昭和十七年二月三日 厚生省勞働局長同答)

問 前問ニ於ケル同告示中「派出婦派出料」有之候處右派出婦中ニハ派出看護婦ヲモ包含セルモノト思料シ差支無キヤ

答 御見解ノ通(右同)

問 價格等統制令施行ニ關シ厚生大臣ヲ主務大臣トスル第十五條第八號ノ請負料ニ含ム派出料ハ家政婦ノ如キモノノ派出料ノミニシテ看護婦ニ許ラ有スル看護婦ノ派出料ハ含マザルモノナリヤ

答 第十五條第八號ノ請負料ニハ看護婦ノ派出料ヲ含ム義ニ有之(昭和十七年三月十八日 勞働局賃金課長同答)

賃金統制令(修繕料)

問 甲ト言フ施主、乙ト言フ雇傭主、丙丁戊ト言フ勞務者アリ今假リニ甲ノ依頼ニ依リ乙ガ丙丁戊ト共ニ或庭造仕事ヲ三日爲シタル場合從來ハ甲ヨリ乙ガ賃金トシテ一人一日四圓宛トシテ計四十八圓取下ゲ丙丁戊ニ一人一日三圓七十錢宛支拂ヒ三十錢宛所謂頭ヲハネ來リタル處最高賃金及手間賃金定ノ結果乙ハ甲ヨリ一人一日三圓七十錢宛ニテ取下ゲ丙丁戊ニ三圓七十錢宛支拂ヘバ雇傭主タル乙ハ自己ノ勞働ニ對スル報酬タル三圓七十錢ガ殘ルノミニテ諸道具ノ損料其ノ他諸雜費ハ赤字トナルニ付甲ヨリ乙ヘノ取下賃ノ協定最高賃金又ハ手間賃ノ最高額ノ一割増ノ認可ヲ得タキ旨陳情有之右認可シ得ラルルヤ否ヤ、認可シ得ルモノナリトスレバ其ノ根據法令如何

答 乙ガ甲ヨリ受クル取下賃ハ勞務供給ノ請負料ト見做スベキモノニシテ賃金統制令ニ謂フ賃金トハ解シ難シ勞務供給ノ請負料金ハ客年八月十一日ノ停止價格ニ依ルベキモノトス

(昭和十七年七月二十日
勞働局賃金課長四答)

問 乙ガ勞務供給業者ナル場合ハ供給請負料トシテ八・一一ノ實績アルトキハ最高賃金ニ一割相當額ヲ加算シタルモノヲ甲ヨリ取下ゲ得ルモ勞務供給業者ノ資格ハ庭造業者、左官職其ノ他土木建築業者ニアリテハ個人ノ資格ニテハ認可ヲ受クルコト不能ナルモノノ如シ仍テ前問ノ認可ガ得ラレザル場合不得已會社組織トナシコノ資格ヲ得ント是等組合ノ幹部間ニ於テ協議中ニ有之貴見承度

答 前問ノ答ヲ御參照相成度尙勞務供給業者ハ個人タルト會社タルトヲ問ハズ新ニ營業ヲ開始スルコトハ認メザル方針ニシテ從來ヨリ存續スルモノニ付テハソノ存續ヲ認ムルモノニ

有之(右同)

問 前々問ノ場合乙ガ其ノ仕事ヲ五十圓テ請負ヒ丙丁戊ニ一人一日三圓七十錢宛三日分十一圓十錢計三十三圓三十錢支拂ヒ殘リハ乙ノ收入ト爲ス事例アリ此ノ場合乙ガ甲ヨリ受領スル五十圓ハ最高賃金又ハ手間賃ノ最高額ノ統制外ト思料スルモ過誤ナキ哉

答 前々問ノ答ニ同ジ(右同)

問 登山案内人ニシテ

(イ) 案内ヲ主トシ荷物ノ運搬ヲ從トスル者ノ料金及

(ロ) 主トシテ荷物ノ運搬ヲナス者ノ料金ハ

價格統制令ノ修繕料等ニ包含サルベキモノト解スベキヤ即チ客年八月十一日指定セル勞務供給ノ請負料ト解シテ差支無キヤ

答 1、案内人組合ヲ通シテ案内ヲ依頼スル場合ハ御見解通

2、案内人ヲ直接個々ニ依頼スル場合ハ料金ハ賃金ナリ(右同)

問 總噸數百噸以上ノ船舶ノ水上運送ニ直接關聯スル岸壁ノ荷役請負料(船積及陸揚ニ關スル請負料)ニ關スル價格等統制令第四條ノ二但書又ハ第七條第一項但書ノ處分權ハ昭和十六年九月十一日厚生省告示第四百一號地方長官委任ノ範圍外ニ屬シ依然トシテ遞信大臣ニ在ルモノト思料シ差支無キヤ

答 御見解ノ通(右同)

問 價格等統制令第四條ノ二ノ規定ニ依ル厚生省告示第三八一號修繕料等ノ指定中「勞務供給金統制令(修繕料)」

給ノ請負料(派出婦派出料)トアルハ單ニ人的供給ノミナラズ主トシテ勞務ノ供給ニ依リ事業ノ完成ヲ目的トスル契約例(バ甲ガ乙ニ對シ人夫ノ提供ヲ請負ハシムル場合甲ガ乙ニ對シ肥料ノ配合、包裝、荷造、運搬等ヲ請負ハシムル場合等ニ於テ料金ヲ支拂フハ何レモ所謂勞務供給ノ請負料ト解シ差支無キヤ

答 御見解ノ通(右同)

令第二十九條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金臺帳ヲ作成シ其ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ備置クベシ

○則第三十五條 令第二十九條ノ雇傭主ハ同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時雇傭スル勞務者ノ數ガ十人ニ對シタルトキハ賃金臺帳ヲ作成シ勞務者ノ賃金ヲ記載スベシ但シ日日雇入ルル勞務者ノ賃金ハ記載ノ限ニ在ラズ

○則第三十六條 賃金臺帳ハ個人票、總括票、特別手當臺帳、生産臺帳及昇給臺帳トス個人票及總括票ハ同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時雇傭スル勞務者ガ十人ニ達シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ作成シ其ノ様式ハ常時三十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル工場、鑛山ニ在リテハ様式第十六號及第十七號、其ノ他ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ在リテハ様式第十八號及第十九號ニ依ルベシ

特別手當臺帳ハ第二十一條第一號ノ手當ヲ支給スルニ至リタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ作成シ同號ノ手當ノ種類毎ニ手當ヲ受クル勞務者ノ氏名、男女別、年齢及其ノ手當額ヲ記載スベシ

生産臺帳ハ令第十五條ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ作成シ一定ノ勞務者ニ支拂フ賃金ニ付單位生産量ニ對スル額ヲ定メタル生産品ノ毎月ノ生産量又ハ每賃金締切期間ノ生産量ヲ記載スベシ

昇給臺帳ハ令第十七條ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ作成シ認可アリタル昇給ノ規程ノ適用アル勞務者ノ氏名、男女別、初給賃金額(同條ノ認可アリタル際現ニ雇傭セララル者ニ付テハ當時支給スル賃金)、昇給期日及昇給額ヲ記載スベシ

雇傭主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ個人票ニ付第二項ノ様式ト異ル様式ヲ用フルコトヲ得前項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ雇傭主ノ用ヒントスル様式及申請ノ理由ヲ具スベシ

○第三十七條 賃金臺帳ノ記入ハ個人票、特別手當臺帳及生産臺帳ニ在リテハ毎月ノ賃金、第二十一條第一號ノ手當又ハ生産量ニ付翌月末日迄ニ之ヲ爲シ總括票ニ在リテハ賃金ニ付翌月末日迄ニ每賃金總額計算期間ノ賃金ニ付其ノ期間終了ノ翌月末日迄ニ之ヲ爲シ昇給臺帳ニ在リテハ毎月昇給額ノ昇給額ヲ昇給期ノ翌月末日迄ニ之ヲ爲スベシ

○則第三十八條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時三十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ令第三十一條第一項ノ規定ニ基キ毎月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫ヲ翌月末日迄ニ每賃金總額計算期間ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫ヲ其ノ期間終了ノ翌月末日迄ニ地方長官ニ報告スベシ

○則第三十九條 賃金臺帳ハ其ノ最後ノ記入ヲ爲シタル後三年間之ヲ保存スベシ

問 賃金臺帳個人票ノ就業時間數記入ニ當リ月給制勞務者ハ就業ノ有無ニ不拘月給全額支給

賃金統制令(賃金臺帳)

スルニ於テハ所定就業時間數ニ三十(一ヶ月ヲ)ヲ乘ジタルモノヲ一ヶ月ノ就業時間ト見做シテ差支ナキヤ又殘業ニ對スル時間割賃金ヲ支給スル制度アリトセバ別ニ就業時間數ニ計上シテ可ナルヤ

答 前段ニ付テハ其ノ月ニ於ケル休憩時間ヲ含ム總就業時間數ト御了知相成度尙後段ニ付テハ右總就業時間數ニ計上スベキ儀ニ有之(昭和十七年三月二十日 厚生省労働局長 回答)

問一、各種申請書若ハ報告書又ハ賃金臺帳ノ用紙ノ大サハ其ノ標準規格ト大差ナキモノハ用紙節約ノ爲既存ノ用紙ヲ使用セシメ差支ナキヤ

二、本令第十五條乃至第十七條、第二十一條、第二十五條及第二十七條ハ雇傭勞務者ノ數ニ關係ナク適用アルモノト解シ差支ナキヤ

答一、差支ナシ
二、御見解ノ通(昭和十六年二月三日 厚生省労働局長 回答)

問 毎賃金總額計算期間ノ賃金臺帳(總括票)ノ記入並ニ之ガ寫ノ報告ニ關シテハ賃金統制令施行規則第三十七條ニ依リ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ總テ賃金總額計算期間ノ賃金ニ付テモ記入ヲ要シ同規則第三十八條ニ依リ常時三十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ總テ報告ヲ要スル儀ト思料セラルルモ左記理由ニ依リ「毎賃金總額計算期間ノ賃金ニ付賃金臺帳(總括票)ノ記入ヲ要スルハ其ノ雇傭スル勞務者ノ賃金ニ付賃金統制令第十四條ニ依ル總額制限ヲ受クル雇傭主ノミヲ以テ足ル之ガ報告ニ付テモ亦同ジ」ト解シ支障ナキヤ

記

一、様式第十七號賃金臺帳(總括票)ノ備考(2)ニハ毎月ノ票ノ外賃金總額計算期間毎ノ票ヲモ作成スルヲ要スル旨特ニ明示シアルニ不拘様式第十九號ノ備考ニ依レバ毎月ノ票ノミニテ足ル如ク解セラル

二、様式第十七號第二段ニハ昭和 年 月分 ト明示シアルモ様式第十九號ニハ昭和 年 月分ノミ表示シ何期分ノ表示ナシ

三、様式第十七號ニ於テハ男女別年令階級別ニ一時間平均賃金ガ表示サレ直ニ總額制限ヲ超過スルヤ否ヤガ判断可能ナルモ様式第十九號ニ於テハ男女別ノミデアリ且一日平均賃金ノミニシテ平均時間割賃金ハ表示出來ズ然モ平均時間割賃金ノ公定ニ依リ總額制限方式ノ發動ヲ見ルモ何ラ監督上該臺帳ヲ利用スルノ途ナシ

四、物資勞力共ニ著シク不足ヲ來シ居ル折柄常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ總テ之ガ記入ヲ要シ常時三十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ總テ之ガ寫ノ報告ヲ要スルモノトスレバ何ラ實益ナキ不要ナル物資並ニ勞力ヲ消費セシムルコト、ナル處アリ

答 工場鑛山ニシテ常時三十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ニ限り令第十四條ニ依ル總額制限ノ適用如何ニ不拘毎賃金總額計算期間ノ賃金臺帳(總括票)ノ記入並ニ報告ヲ要スル義ニ有之(昭和十六年二月三日 厚生省労働局長 回答)

令第三十條 賃金ノ統制ニ關スル重要事項ヲ調査審議セシムル爲賃金委員會ヲ置ク
賃金委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

賃金統制令(賃金臺帳)

令第三十一條 厚生大臣又ハ地方長官ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ賃金ノ狀況ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

○則第四十條 令第三十一條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ様式第二十號ニ依ル

○則第四十一條 地方長官第二條第三號ノ承認又ハ第六條第四項、第二十六條第一項、第二十七條第一項、第二十八條第一項、第二十九條第一項若ハ第三十六條第六項ノ許可ノ申請書ヲ受理シタル後三十日以内ニ其ノ申請事項ニ關シ雇傭主ニ對シ文書ニ依ル指令又ハ照會若ハ通知ヲ發セザルトキハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ申請事項ニ付承認又ハ許可アリタルモノトス申請事項ニ關スル照會ニ對スル回答書ヲ受領シ又ハ申請事項ニ關シ雇傭主ニ通知ヲ發シタル後三十日以内ニ申請事項ニ關シ文書ニ依ル指令又ハ照會若ハ通知ヲ發セザルトキ亦同ジ

○則第四十二條 本令ノ規定ニ基キ地方長官ニ對シ爲スベキ申請又ハ報告ハ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所毎ニ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ之ヲ爲スベシ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ヲ管轄スル地方長官ナキ場合ニハ雇傭契約ヲ締結シタル場所ヲ管轄スル地方長官ニ對シ之ヲ爲スベシ

○則第四十三條 令第三十三條第二項ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ提出スル申請書ハ賃金ノ協定ヲ爲シタル雇傭主又ハ組合若ハ團體ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

○則第四十四條 本令ノ規定ニ依ル申請又ハ報告ニ關シ雇傭主ニ於テ代理人ヲ定メタルトキハ地方長官ニ届出ヅベシ其ノ代理權ヲ解除シタルトキ亦同ジ

問 規則第四十四條ニ「本令ノ規定ニ依ル申請又ハ報告ニ關シ雇傭主ニ於テ代理人ヲ定メタルトキハ地方長官ニ届出ヅベシ云々」トアルガ代理人ヲ届出タル場合違反ノ責任者ハ何人トナルヤ

答 規則第四十四條ノ代理人ハ申請又ハ報告ニ關スル事項ノミノ代理人ニ付違反ノ責任ハ當然雇傭主ニ於テ負フベキモノニ有之(昭和十五年十一月二十日労働局賃金課長回答)

令第三十二條 本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セズ

本令ハ國際條約又ハ之ニ基キ協定中賃金ニ關スル定アルトキハ其ノ制度ニ牴觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

令第三十三條 本令中地方長官トアルハ内地ニ於テ鑛夫(砂鑛業ニ於ケル鑛夫ニ準ズベキ者ヲ含ム以下同ジ)ニ關スルモノニ付テハ鑛山監督局長トス

第二十一條及第二十四條乃至第二十七條中地方長官トアルハ賃金ノ協定ノ效力ガ二以上ノ道府縣(内地ニ於テ鑛夫ニ關スルモノニ付テハ二以上ノ鑛山監督局ノ管轄區域)ニ及ブ場合ハ厚生大臣トス

○則第四十五條 本令中地方長官トアルハ鑛夫(砂鑛業ニ於ケル鑛夫ニ準ズベキ者ヲ含ム)ニ付テハ鑛山監督局長トス

令第三十四條 本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺

太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トス

令第三十五條 本令中賃金委員會ニ關スル規定ハ南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

附 則

令第三十六條 本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

令第三十七條 本令施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

令第三十八條 本令施行ノ際現ニ存スル從前ノ規定ニ依リ定ムル未經験勞働者ノ初給賃金ノ最低額ハ第九條ノ規定ニ依リ定ムル最低賃金ト看做シ其ノ最高額ハ第十條ノ規定ニ依リ定ムル最高初給賃金ト看做ス

令第三十九條 本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十五條ノ規定ニ依ル組合又ハ團體ノ指定ハ第二十一條ノ規定ニ依ル組合又ハ團體ノ指定ト看做ス

令第四十條 本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル勞務者ノ基本給、賃金基準又ハ昇給内規ノ定ハ第二十一條ノ規定ニ依リ認可シタル賃金ノ協定ト看做ス
令第四十一條 本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十六條第一項ノ規定ニ依リ定ニシテ勞務者ノ基本給又ハ賃金基準ノ最高額ニ關スルモノハ第十一條ノ規定ニ依リ定ムル最高賃金ト看

做ス

令第四十二條 賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ船員ニ關スルモノヲ除クノ外當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス但シ賃金ノ總額ニ付第十四條ノ規定ニ依ル制限ヲ受クベキ勞務者ノ賃金ニ付テハ同條ノ平均時間割賃金定マリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十條ノ最高初給賃金若ハ第十一條ノ最高賃金定マリタルトキ又ハ賃金ノ協定ニ付認可アリタルトキハ各其ノ限度ニ於テ第一項本文ノ規定ニ拘ラズ賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ

第一項但書及前項ノ規定ニ拘ラズ賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ第十四條ノ平均時間割賃金、第十條ノ最高初給賃金若ハ第十一條ノ最高賃金定マリタル時又ハ賃金ノ協定ニ付認可アリタル時迄ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

令第四十三條 賃金臨時措置令ハ船員ニ關スルモノヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

令第四十四條 本令施行ノ際第十九條ノ規定ニ依リ發スル命令ニ關シテハ同條中賃金委員會ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

賃金統制令(附則)

問 平均時間割賃金ノ決定ニ伴ヒ賃金臨時措置令ハ失効トナル趣ナルガ失効後ニ於ケル勞務者三十人未滿ノ雇傭主ニ對シテハ如何ナル方法ニ依リ取締リヲ爲スベキヤ
 答 平均時間割賃金決定シタル後ト雖モ常時三十人未滿ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ニ對シテハ賃金臨時措置令ガ仍其ノ效力ヲ有スルモノニ有之(昭和十五年十一月二十日勞務廳長官答)

附則 (施行規則)

- 則第四十六條 本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス
- 則第四十七條 令施行ノ際同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ニ付テハ第四條ノ期限ハ令施行ノ日ヨリ六十日トス
- 則第四十八條 令施行ノ際現ニ從前ノ賃金統制令施行規則第六條第三號ノ規定ニ依リ受ケタル許可ハ第十四條第一項第三號又ハ第十五條第一項ノ規定ニ依リ受ケタルモノト看做ス
- 則第四十九條 令施行ノ際現ニ賃金臨時措置令施行規則第四條ノ規定ニ依リ賃金臨時措置令第十六條第一項ノ規定ニ依ラザルコトニ付許可ヲ受ケタル雇傭主ハ第十五條第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 則第五十條 第二十六條ノ規定ニ依リ其ノ支給ニ付地方長官ノ許可ヲ受クベキ手當ヲ令施行ノ際現ニ支給シアル雇傭主ハ令施行ノ日ヨリ九十日以内ヲ限り其ノ支給ニ付同條ノ許可ヲ受クルヲ要セズ
- 則第五十一條 第二十七條ノ規定ニ依リ其ノ給與ニ付地方長官ノ許可ヲ受クベキ實物給與ヲ令施行ノ際現ニ給與シアル雇傭主ハ令施行ノ日ヨリ九十日以内ヲ限り其ノ給與ニ付同條ノ許可ヲ要セズ

受クルヲ要セズ

- 則第五十二條 令施行ノ際現ニ勞務者ニ對シ白米、精麥又ハ食事ノ販賣ヲ爲シ又ハ其ノ販賣ノ委託ヲ爲シアル雇傭主ニシテ第三十條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキモノハ令施行ノ日ヨリ九十日以内ヲ限り其ノ販賣又ハ委託ニ付同條ノ許可ヲ受クルヲ要セズ
- 則第五十三條 令施行ノ際同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ニ付テハ第三十五條ノ期限ハ令施行ノ日ヨリ九十日トス
- 則第五十四條 從前ノ賃金統制令施行規則第七條ノ規定又ハ賃金臨時措置令施行規則第十八條ノ規定ニ依リ作成シタル賃金臺帳ハ其ノ最後ノ記入ヲ爲シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ
- 則第五十五條 從前ノ賃金統制令施行規則第七條及第八條ノ規定ハ令施行ノ日ヨリ九十日間仍其ノ效力ヲ有ス但シ雇傭主ガ本令ノ規定ニ依リ賃金臺帳ヲ作成シ第三十八條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲ストキハ其ノ雇傭主ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 則第五十六條 賃金臨時措置令施行規則第一條乃至第十一條、第二十條及第二十一條ノ規定ハ船員ニ關スルモノヲ除クノ外當分ノ内仍其ノ效力ヲ有スルモノトス但シ賃金ノ總額ニ付令第十四條ノ規定ニ依ル制限ヲ受クベキ勞務者ノ賃金ニ付テハ同條ノ平均時間割賃金定マリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ
- 前項但書ノ規定ニ拘ラズ賃金臨時措置令施行規則第一條乃至第十一條、第二十條及第二十一條ノ規定ハ令第十四條ノ平均時間割賃金定マリタル時迄ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

賃金統制令(附則)

○則第五十七條 賃金臨時措置令施行規則第十八條ノ規定ハ前條ノ期間仍其ノ效力ヲ有スルモノトス但シ常時雇傭スル勞務者ガ十人ニ滿タザル雇傭主ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
雇傭主ガ本令ノ規定ニ依リ賃金臺帳ヲ作成シタルトキハ賃金臨時措置令施行規則第十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ作成ノ日ヨリ其ノ雇傭主ニ付其ノ效力ヲ失フ但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

○則第五十八條 令第十四條第一項ノ平均時間割賃金ノ定マリタル事業ヲ營ム雇傭主ノ雇傭スル令第十四條第一項各號ニ掲グル勞務者以外ノ勞務者ガ常時三十人ニ滿タザル場合ニ於テ雇傭主ノ之ニ對シ賃金總額計算期間ニ支拂フ賃金ノ總額ガ平均時間割賃金ニ其ノ就業時間ノ總數ヲ乘ジテ得タル額ノ合計額ヲ超エザルトキハ賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ其ノ雇傭主ノ雇傭スル令第十四條第一項各號ニ掲グル勞務者以外ノ勞務者ノ賃金ニ關シテハ之ヲ適用セズ

附 則

本令ハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十六年九月二十五日厚生省令第四十五號)

○賃金統制令改正勅令施行ニ關スル件(昭和十五年十月十九日厚生省勞働局長依命通牒)

今回賃金統制令改正セラレ十月二十日ヨリ施行ノコトト相成候處右ハ賃金臨時措置令ノ失效後ノ賃金統制ノ措置ニ有之利潤統制其ノ他ノ産業統制方策ニ照應シテ戰時物價政策ノ圓滑ナル遂行ニ資セントスルノミナラズ併セテ戰時下ニ於ケル勞働者ノ生活ヲ確保シ勞働生産性ノ向上ヲ圖リ勞

務需給ノ適正ヲ期スルノ趣旨ニ出デタルモノナルヲ以テ之ガ實施ニ當リテハ此ノ趣旨ヲ普ク管内ニ周知徹底セシメ雇傭主ノ指導ニ力ヲ效スト共ニ常ニ地方産業勞働界ノ實情、物價ノ動向及勞務者生活ノ實相ニ留意シ克ク地方ノ實情ニ即應スルニ努ムルハ勿論特ニ左記各項ニ留意シ以テ本令ノ趣旨達成ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

記

- 一、賃金ハ重要ナル勞働條件ナルヲ以テ其ノ扱ニ當リテハ特ニ慎重ヲ期シ徒ニ紛議ヲ誘發スルガ如キコトナカラシムルトモ雇傭主ノ提出スル報告、申請ニ依リ又ハ臨檢検査ヲ通ジテ知り得タル工場事業場等ノ内情ハ關係官吏ニ於テ猥ニ漏洩スルガ如キコトナキヤウ嚴ニ戒ムルコト
- 二、本令ノ施行ニ伴ヒ官廳事務ノ輻輳豫想セラルルニ付今回輕易ナル事項及特ニ迅速ナル處理ノ要アル事項ニ付テハ申請受理ノ後一定期間内ニ指令、照會、通知ナキトキハ法定ノ效果ヲ生ズルコトトナレルモ其ノ他ノ事項ニ付テモ多數勞務者ニ關係アルヲ以テ出來得ル限リ迅速ナル處理ヲ爲サシムベキハ勿論ナルモ之ガ爲必要アラバ輕易ナル事項ヲ下級官廳ニ委任スル等事務ノ簡捷ヲ計ラレ度尙此ノ機會ニ關係官吏ノ指導教養ニ努メ事務ノ能率ヲ一段ト發揮セシムルヤウ配意アリタキコト
- 三、賃金關係ノ法規ノ勵行ハ雇傭主及勞務者ノ理解ト協力ヲ得ルニ非ザレバ其ノ實效ヲ期シ難キ所ナルヲ以テ法規ノ内容ヲ普及シ趣旨ノ徹底ヲ圖リ以テ雇傭主勞務者双方ヲシテ進ンデ統制ニ協力セシムルヤウ特ニ之ガ指導ニ留意スルトモニ取締ニ當リテモ法ノ不知又ハ誤解ニ基ク反則ニ對シテハ將來ヲ戒メ之ヲ指導シ惡質ノ違反ニ對シテハ斷乎タル措置ニ出ヅル等克ク寬嚴宜

シキヲ得以テ法規ノ運用ニ遺憾ナキヲ期スルコト

四、勞務者ニシテ工場、會社、商店、事業場ニ於テ給與其ノ他ノ待遇上職員トシテ取扱フ者ハ從來漫然賃金臨時措置令ノ適用ヲ除外シアリタルモ今回適用除外ニ付テハ貴官ノ承認ヲ要スルコトトナリタルニ付承認ニ際シテハ業務ノ性質及待遇等ニ付充分實情ヲ調査シ眞ニ其ノ必要アル者ニ限り之ヲ認ムルコト

五、賃金規則ハ賃金ニ關スル事項ヲ明確ニシ賃金ニ關聯スル紛争ヲ豫防スルトトモニ賃金ニ對スル監督ヲ容易ナラシムル趣旨ニ出デタルモノナルヲ以テ其ノ記載ノ正確ニシテ遺漏ナカラシムルハ勿論其ノ内容ノ適當ナリヤ否ヤ事實ニ適合セリヤ否ヤ許可、認可ヲ要スル事項ニ付手續了リタルヤ否ヤ等ノ點ニ付調査ノ上必要ニ應ジテハ之ガ變更ヲ命ズル等特ニ之ガ監督ヲ嚴ニスルコト

六、従前ノ規定ニ依リ定メタル未經験勞働者ノ初給賃金ノ最低額ハ今回最低賃金ト定メラレ單ニ雇入後三月間ノミナラズ二十歳未満ノ總テノ工場、鑛山勞働者ニ適用セラルル儀ニ付指導上特ニ留意スルコト尙最低賃金除外ノ許可ニ關シテハ當分ノ内處分前申請書類ヲ具シ當局ニ協議セラレタキコト

七、本令施行ニ伴フ許可又ハ認可ノ申請ニシテ其ノ處理ニ付會社經理統制令ニ依ル主務大臣ノ處分ト相伴フ要アリト認メラルル事項ヲ受理シタルトキハ直ニ其ノ要領竝ニ處分ニ關スル意見ヲ具シテ當局ニ報告セラレタキコト

八、未經験勞務者ニ關スル最高初給賃金除外ノ許可ニシテ不特定勞務者ニ關スルモノハ別ニ通牒

スルモノ及常時雇傭スル勞務者ノ數ガ百人ニ滿タザル工場、事業場ニ係ルモノヲ除クノ外當分ノ内處分前申請書類ヲ具シ當局ニ協議セラレタキコト尤モ「ツイスコース」式人絹、人織製造工業ニ於ケル作業中一般公定最高初給賃金ノ定ニ依リ難キモノニ付テハ引續キ本年七月十二日發勞第四六號通牒ニ依リ處理スルコト

九、單位生産量ニ對スル賃金額、請負賃金制又ハ初給賃金及昇給規程ノ認可ニ付テハ平均時間割賃金ノ公定ノ際賃金總額制限額超過ノ認可ト併セテ通牒スルニ付其迄ハ必ズ認可セザルコト

十、就業ノ日又ハ時間ニ對スル賃金以上ノ手當ヲ就業セザル日又ハ時間ニ對シ支給スルニ付テハ許可ヲ要スルコトトナレルモ從來支給シアリタル手當及勞務者ノ賃金額ニ關係ナク一率又ハ一定標準ヲ以テ支給セラルルモノニ付テハ特別ノ支障ナキ限り許可セラレタキコト

十一、實物給與及臨時ノ給與ニ付テハ其ノ事由又ハ額ノ不相當ナルモノ又ハ賃金ノ統制ヲ免ルル意圖ニ出デタルコト明白ナルモノ等特ニ支障アルモノヲ除クノ外許可シ差支ナキコト

十二、賞與ノ許可ニ付テハ左ノ方針ニ依ルコト
(イ) 常時雇傭スル勞務者一人平均賞與額ガ前年同期ノ一人平均賞與額ヲ超エザルトキ又ハ前

年同期ト同ジ基礎ニ依リ支給セラルルモノナルトキハ許可スルコト
(ロ) 前年同期ニ比シ賞與ガ増加スル場合ト雖モ職員ノ賞與トノ權衡上妥當ナルモノハ許可スルコト

(ハ) 前年同期ニ比シ賞與ガ増加スル場合ト雖モ勞働繁劇ヲ加ヘタル等特別ノ事由アルモノハ許可スルコト

賃金統制令(通牒)

(三) 鐵道、軌道従業員、商店員、事務所關係者等給與ノ點ニ於テ一般勞務者ト異リ比較的賞與ノ多額ナルモノハ其ノ實情ニ照シ取扱上劃一的處理ニ陥ルコトナキヤウ特別ノ考慮ヲ拂フコト

十三、勞務者ニ對スル白米、精麥及食事ノ販賣ニ付テハ本日別途告示アリタル價格以下ノ代價ニ依ルモノハ許可ヲ要スルコトナレドモ右ハ極メテ例外的ノ措置ナルヲ以テ右許可ニ際シテハ當該工場、事業場等ノ從前ノ慣行アルモノト雖モ其ノ賃金ヲ同一地方ノ同種事業ノ賃金ニ對比シ彼此ノ權衡ヲ考慮ノ上處理スルコト

十四、日傭勞働者ノ賃金ニ付テハ詳細ニ其實情ヲ調査シ從來ノ協定賃金又ハ公定賃金ニシテ地域又ハ事業ニ依リ著シク高低アルモノ其ノ他不適當ト認メラルモノハ最高賃金ノ改訂ヲ爲シ又ハ協定ノ認可ノ取消及協定ニ代ルベキ定ヲ爲ス等出來得ル限り其ノ適正化ヲ圖リ賃金統制ノ實ヲ擧グルコト

十五、賃金ノ協定ニ付テハ左ノ如クスルコト

(イ) 賃金協定ニ關スル規定ハ今回整備セラレタルヲ以テ關係者ヲ指導シ一段ト協定ノ普及ヲ圖リ特ニ日傭勞働者等ノ賃金ノ統制ニハ遺漏ナカラシムルヤウ努ムルコト

(ロ) 作業ノ性質、勞務者ノ技能程度其ノ他特別ノ事由ニ依リ一般ノ基準ト異ル基準ヲ定ムル要アルモノニ付テハ其ノ基準ヲモ併セテ協定セシムルコト

(ハ) 賃金ノ最低額又ハ賃金ノ最高額ニ關シ協定ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ賃金ノ範圍ヲモ併セテ協定スル要アルモノハ必ズ其ノ協定ヲ爲サシムルコト

(ニ) 賃金ノ協定ニシテ最低賃金、最高賃金又ハ最高初給賃金ノ除外ニ關スルモノノ許可ニ際シテハ豫メ當局ニ協議ノコト

(ホ) 賃金ノ協定又ハ其ノ廢止變更ヲ許可シ又ハ協定ヲ廢止變更シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示ニ依リ公示スルトトモニ關係雇主ヲシテ周知セシムルヤウ措置スルコト

十六、賃金臺帳ハ從來一定ノ様式ヲ設ケザリシモ賃金ニ關スル帳簿書類ノ整備ハ賃金監督上最モ重要ナルニ鑑ミ今回様式ヲ一定セラレタルガ雇主ニ於テ個人票ノ様式ニ掲ゲタル配置ヲ變更シ又ハ便宜ノ欄ヲ加ヘ賃金ニ關スル經理其ノ他ノ用途ヲ兼ネシムルハ妨ナキコト尤モ右様式ニ掲ゲタル項目ニシテ備考ニ於テ特ニ省略ヲ認メタルモノ以外ノモノヲ省略スルコトハ監督上支障アルニ付様式變更ノ許可ニ際シテハ此ノ點ニ留意セシムルコト

十七、平均時間制賃金ノ公定アル迄ハ賃金臨時措置令ノ適用アルヲ以テ基本給、賃金基準ノ變更ハ引續キ同令ノ許可ヲ要スル儀ニ付此ノ點特ニ雇主ノ留意ヲ促サレ度尙右ノ結果トシテ賃金規則ノ審査ニ際シテハ就業時間數、定額給、請負賃金制、手當、實物給與ニ關スル記載ハ同令ニ依ル許可ヲ受ケタル場合ノ外當該工場、事業場ノ現狀ト異ルコトナキヤウ嚴ニ監督スルコト
十八、同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ガ二以上ノ府縣ニ跨ル場合ニ於テハ許可又ハ認可ノ申請ハ其ノ處理ニ付豫メ關係應ト協議スルコト

○最高初給賃金ノ適用ニ關スル經驗年數ノ算定方法

(昭和十六年七月二十六日
厚生省告示第三百十一號)

賃金統制令施行規則第十一條第三項ノ規定ニ依リ最高初給賃金ノ適用ニ關スル經驗年數ノ算定方法ヲ左ノ通定メ昭和十六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 従事スル勞働又ハ之ト同種ノ勞働ニ付前歴ヲ有スル者ニ付テハ其ノ前歴年數ヲ以テ其ノ者ノ經驗年數トス

前項ノ同種ノ勞働ノ範圍ハ賃金統制令施行規則第十一條第一項ノ同種ノ勞働ノ範圍ニ依ル

第二條 前條ニ規定スル者以外ノ者ニシテ同一ノ業種ニ於ケル勞働ニ付前歴ヲ有スルモノニ付テハ其ノ前歴年數ニ〇・七ヲ乘ジテ得タル年數ヲ以テ其ノ者ノ經驗年數トス

前項ノ同一ノ業種ノ範圍ハ賃金統制令施行規則第十一條第三項ノ規定ニ依リ定ムル業種區分表ノ大分類(其ノ他ノ工業ヲ除ク)ニ依ル但シ金屬工業ト機械器具工業トハ之ヲ同一業種ト看做ス

第三條 第一條ニ規定スル者以外ノ者ニシテ鑛山ニ於テ勞働ニ従事シタル前歴ヲ有スルモノニ付テハ其ノ者ガ鑛山ニ於ケル作業ニ従事スルトキハ其ノ前歴年數ニ〇・七ヲ乘ジテ得タル年數ヲ以テ其ノ者ノ經驗年數トス

第四條 前三條ニ規定スル者以外ノ者ニシテ工場鑛山ニ於テ勞働ニ従事シタル前歴ヲ有スルモノニ付テハ其ノ前歴年數ニ〇・三ヲ乘ジテ得タル年數ヲ以テ其ノ者ノ經驗年數トス

第五條 工業又ハ鑛業ニ關スル國立若ハ公立ノ養成施設ニシテ三月以上ノ修業期間ヲ有スルモノ又ハ私立ノ養成施設ニシテ地方長官ニ於テ之ト同等以上ノモノト認定シタルモノノ課程ヲ修了シタル者ニ付テハ從事スル作業ガ修了シタル課程ト同一ナルトキハ其ノ學習ノ年數ヲ以テ、從事スル作業ガ修了シタル課程ト異ルトキハ其ノ學習ノ年數ニ〇・六ヲ乘ジテ得タル年數ヲ以テ

其ノ者ノ經驗年數トス

第六條 工業又ハ鑛業ニ關スル學校ニ於テ二年以上學習シタル者ニ付テハ其ノ學習ノ年數ニ〇・六ヲ乘ジテ得タル年數ヲ以テ其ノ者ノ經驗年數トス

第七條 國民學校初等科修了程度又ハ國民學校高等科修了程度ヲ入學資格トスル工業又ハ鑛業ニ關スル學校以外ノ學校ノ課程ヲ修了シタル者ニ付テハ其ノ學習ノ年數ニ〇・四ヲ乘ジテ得タル年數ヲ以テ其ノ者ノ經驗年數トス

○賃金統制令施行規則第十一條第一項第一號ノ

同種ノ勞働ノ範圍

(昭和十六年七月二十六日
厚生省告示第三百十號)

一、木工關係作業

- 1 大工作業——家屋大工、堂宮大工、舟大工、車大工其ノ他ノ大工ノ作業
- 2 木工作業——艦船、航空機、車輛類其ノ他ノ機械器具ノ木部ノ製造作業
- 3 製材作業——製材又ハ製板ノ作業
- 4 木製品製造作業——建具、家具、木型其ノ他各種木製品製造ノ作業

二、炉關係作業

- 1 乾式製鍊作業——金屬又ハ非金屬ノ乾式製鍊ノ作業
- 2 炉作業——熔融爐、加熱爐、燒培爐、熔燒爐、燒成爐、瓦料發生爐、骸炭爐等ノ操作、築造修理等ニ關スル作業

賃金統制令(通牒)

三、製鍊作業——金屬又ハ非金属ノ製鍊ノ作業
四、金屬材料關係作業

- 1 鑄造作業——金屬鑄物ノ製造ノ作業
- 2 金屬材料製造加工作業——金屬材料ノ壓延、伸張、鍛造、剪斷、プレス及熔接、板金、製罐打、填隙、銅工、撈鐵、鐵木工、鐵工並ニ現圖ノ作業
- 3 熱處理作業——金屬ノ焼入、焼鈍、焼戻、焼準、滲炭窒化等ノ熱處理ノ作業
- 4 金屬熔融作業——鑄物用金屬、合金用金屬其ノ他ノ金屬ノ熔融ノ作業
- 5 金屬爐作業——金屬加熱爐ノ操作ニ關スル作業
- 6 金屬取附作業——金屬材料ノ取附ノ作業

五、取附据附作業

- 1 取附作業——金屬材料ノ取附、保温材等ノ取附及艦船ノ艙裝ノ作業
- 2 据附作業——各種機械器具ノ据附ノ作業

六、金屬工作作業

- 1 金屬工作機械作業——旋盤、タレット旋盤、中グリ盤、研磨盤、ボール盤、平削盤、形削盤、フライス盤、齒切盤其ノ他ノ工作機ヲ依ル金屬ノ加工ノ作業
- 2 金屬對書作業——金屬加工ノ爲ノ對書及心出ノ作業
- 3 金屬仕上作業——工具其ノ他ノ金屬品ノ仕上作業

七、金屬機械關係作業

- 1 金屬機械組立作業——原動機、工作機械、採鑛選鑛精鍊機械、化學工業用機械、紡織機械、起重機、昇降機、機關車、ポンプ、送風機、壓縮機等製造加工運搬用其ノ他ノ金屬製機械ノ仕上、組立、調整及檢査ノ作業
- 2 金屬機械保繕作業——金屬機械ノ保繕及修繕ノ作業
- 3 金屬機械運轉作業——金屬機械ノ運轉ノ作業

八、電氣機械器具關係作業

- 1 電氣機械器具組立作業——電動機、發電機變壓器、配電盤、開閉器、抵抗器、整流器、電熱器等電氣機械器具ノ仕上、組立、調整及檢査ノ作業
- 2 電氣機械器具保繕作業——電氣機械器具ノ保繕及修繕ノ作業
- 3 電氣機械器具運轉作業——電氣機械器具ノ運轉ノ作業

九、通信用電氣機械器具關係作業

- 1 通信用電氣機械器具組立作業——電信機、電話機、交換機、電寫裝置、電視裝置、ラジオ受信機、ラジオ發信機等電氣通信用機械器具ノ仕上、組立、調整及檢査ノ作業
- 2 通信用電氣機械器具保繕作業——通信用電氣機械器具ノ保繕及修繕ノ作業
- 3 通信用電氣機械器具操作作業——通信用電氣機械器具ノ操作ニ關スル作業

十、精密機械器具關係作業

- 1 精密機械器具組立作業——計測器、學術用機械器具、醫療用機械器具、光學機械器具、照像用機械器具、蓄音機等精密機械器具ノ仕上、組立、調整及檢査ノ作業

賃金統制令(通牒)

- 2 精密機械器具保繕作業——精密機械器具ノ保繕及修繕ノ作業
- 十一、航空機等關係作業
 - 1 航空機等組立作業——航空機、自動車、鐵道車輛其ノ他ノ車輛類ノ仕上、組立、艤裝、調整及檢査ノ作業
 - 2 航空機等保繕作業——航空機、自動車、鐵道車輛其ノ他ノ車輛類ノ保繕及修繕ノ作業
 - 3 航空機等運轉作業——航空機、自動車、鐵道車輛其ノ他ノ車輛類ノ運轉ノ作業
- 十二、金屬手仕上作業——主トシテ鋳、タガネ等ノ手道具ニ依ル金屬品ノ仕上ノ作業
- 十三、試験分析作業
 - 1 試験作業——物理的又ハ化學的ノ試験及實驗ニ關スル作業
 - 2 化學分析作業——化學分析ニ關スル作業
- 十四、電線關係作業
 - 1 電線被裝作業——電線又ハ電纜ノ被覆、鍍裝及被鉛ノ作業
 - 2 金屬撚線作業——金屬ノ撚線、合線及鋼索ノ製造ノ作業
 - 3 金屬卷線作業——電線コイルノ卷線作業
 - 4 電氣絕緣作業——電氣裝置又ハ電氣器具ノ絕緣被覆ノ作業
- 十五、運轉作業——原動機、ポンプ、壓縮機、卷上機等ノ機械類、起重機類、蒸汽機關車、內燃機關車、電車、電氣機關車又ハ自動車ノ運轉ノ作業
- 十六、電路作業——電線架設、保線、屋內配線及送配電ノ作業並ニ電氣機械器具ノ設備及保繕ノ

作業

- 十七、化學藥品類關係作業
 - 1 化學藥品類製造作業——醫療用藥品、工業藥品、染料及中間物、塗料及顔料並ニ發火物、人造石油、肥料、セルロイド、石鹼、人造レヂン、タンニン、殺虫劑及防腐劑製造ノ化學工程作業
 - 2 鑛物油製造作業——コールドタルノ分溜及コールドタル分溜物ノ精製作業並ニ石油ノ蒸溜分解、精製及洗滌ノ作業
 - 3 化學分析作業
- 十八、動植物質關係作業
 - 1 動植物質油脂類製造作業——動植物油脂類ノ抽出、精製、分解、鹼化及硬化ノ作業
 - 2 動植物質肥料製造作業
 - 3 化學分析作業
- 十九、化學纖維關係作業
 - 1 化學纖維製造作業——化學纖維、セロファン紙又ハバルブノ製造ノ化學工程作業
 - 2 化學分析作業
- 二十、ガス壓縮關係作業——壓縮ガス又ハ氷ノ製造、アンモニア又ハメタノールノ合成等ノガス壓縮關係工程作業
- 二十一、窯業爐作業——セメント、石灰、陶磁器、煉瓦又ハ耐火物ノ燒成ノ作業、ガス又ハロツ

賃金統制令(通牒)

- クウールノ爐熔融ノ作業及ガスノ燒鈍等ノ熱處理ノ作業
- 二十二、紡織關係作業——製絲、製麻、製綿、紡績、撚絲、織物ノ製造、編物組物ノ製造其ノ他纖維品及紡織物ノ製造、染色、捺染、漂白、精練、整理、仕上及検査ノ作業
- 二十三、裁縫作業——布、皮革等ノ裁縫及裁斷ノ作業
- 二十四、穀類關係作業
 - 1 精穀作業——米、麥等穀類ノ粗摺搗精、選別等ノ作業
 - 2 製粉作業——小麥粉其ノ他ノ穀粉ノ製造ニ於ケル原料ノ選別及粉碎ノ作業
 - 3 澱粉製造作業——馬鈴薯澱粉其ノ他ノ澱粉ノ製造ノ作業
- 二十五、飲料等關係作業
 - 1 釀造作業——和酒、麥酒、其ノ他ノ酒類、醬油、味噌又ハ酢ノ製造ノ作業
 - 2 清涼飲料製造作業——サイダー、ラムネ、シロップ等清涼飲料ノ製造ノ作業
- 二十六、菓子類製造作業——菓子、パン又ハ餡類ノ製造ノ作業
- 二十七、罐詰類作業——罐詰又ハ壘詰食料品ノ製造ニ於ケル容器ノ洗滌、原料詰、加熱殺菌、密封等ノ作業
- 二十八、印刷製本作業——活字ノ鑄造、文選、植字、解版印刷原版ノ製造、印刷及製本ノ作業
- 二十九、紙關係作業
 - 1 製紙作業——紙料ノ製造及紙ノ抄造ノ作業
 - 2 紙類關係製造作業——紙箱其ノ他ノ紙製品ノ製造ニ關スル作業

三十、竹類等關係製造作業——竹、杞柳、籐、棕櫚、蘆、麥稈、經木、木皮類等ノ製造ニ關スル作業

- 三十一、皮革類關係製造作業——皮革及皮革製品製造ノ作業
- 三十二、履物類關係製造作業——下駄、草履、靴等各種履物ノ製造ニ關スル作業
- 三十三、刷毛、毛筆等關係製造作業——刷毛、刷子、毛筆等ノ製造ニ關スル作業
- 三十四、帽子類關係製造作業——フェルト製帽子其ノ他ノ帽子類ノ製造ニ關スル作業
- 三十五、玩具、文房具類等關係製造作業——玩具類及萬年筆、鉛筆、クレイヨン其ノ他ノ文房具類ノ製造ニ關スル作業
- 三十六、骨類等關係作業
 - 1 骨類等關係製造作業——骨、角、蹄、甲、牙、貝類等ノ製造ニ關スル作業
 - 2 寶石製作作業——寶石類ノ細工及加工ノ作業
- 三十七、樂器類關係製造作業——樂器類ノ製造ニ關スル作業
- 三十八、採鑛關係作業
 - 1 鑛物採掘作業——鑛物採掘ノ作業
 - 2 鑛物選別作業——金屬、石炭其ノ他ノ鑛物ノ選別ノ作業
- 三十九、雜役作業
 - 1 包裝作業——物品ノ包裝及荷造ノ作業
 - 2 運搬作業——物品ノ運搬ノ作業但シ運搬ノ作業ヲ除ク

賃金統制令(通牒)

3 其ノ他ノ雜役作業——清掃ノ作業及土工、嵩ノ雜役作業

○特殊作業ニ従事スル勞務者ノ最高初給賃金

除外ニ關スル件

(昭和十六年七月二十三日
厚生省勞働局長通牒)

賃金統制令施行規則第十五條第一項第一號ノ規定ニ依リ不特定勞務者ニ關スル最高初給賃金除外ノ許可ヲ爲スニ當リテハ豫メ當局ニ協議相成様豫テ及通牒置候處爾今左ノ各號ニ掲グル作業ニ従事スル勞務者ニ關スルモノニシテ一日ノ就業時間ガ十時間以内ノ場合ニ於ケル其ノ賃金ガ各號ニ定ムル金額ノ範圍内ニ止マルモノニ付テハ貴官限リ御處理相成様致度

追テ右許可ノ上ハ其ノ申請書ノ寫ヲ遲滯ナク當局ニ報告相成度尙昭和十五年七月十二日厚生省發勞第四六號本官通牒賃金統制令ノ運用ニ關スル件ハ爾今失效ノ儀ト御了知相成度

記

一、A級賃金 最高初給賃金ヲ超過スル額ガ一日十時間以内ノ就業ノ場合ニ於テ六十錢以内

一、製鐵高爐作業

製鐵用高爐ニ於ケル爐ノ操作、熔銑ノ取出及運搬ノ作業(鑿滓除去ノ作業ヲ含ム)

二、鋼A級爐作業

製鋼用轉爐又ハ製鋼用若ハ鑄鋼用ノ平爐、坩堝爐ニ於ケル原料ノ裝入及爐ノ操作並ニ熔鋼ノ

取出及運搬ノ作業(鋼滓除去ノ作業ヲ含ム)

三、鋼造塊作業

鋼塊ト爲ス爲熔鋼ヲ鑄型ニ鑄入スル作業

四、鋼壓延A級作業

鋼ノ壓延ノ作業、其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐又ハ均熱爐ノ操作及加熱材料ノ運搬ノ作業

五、金屬鍛造A級作業

三噸以上ノ鎚又ハ千噸以上ノプレスニ依ル金屬ノ鍛鍊若ハ鍛造、其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作並ニ加熱材料ノ運搬ノ作業

六、造船A級作業

造船ニ於ケル船體用鋼板又ハ鋼材ノ鋸打ノ作業

七、瓦斯爐A級作業

石炭瓦斯爐、骸炭爐及瓦斯發生爐ニ於ケル石炭ノ裝入、爐ノ操作及骸炭又ハ殘滓ノ取出ノ作業

八、跳降轉轍作業

進行中ノ機關車ヨリ跳降り轉轍ヲ爲ス作業

二B級賃金 最高初給賃金ヲ超過スル額ガ一日十時間以内ノ就業ノ場合ニ於テ四十錢以内

一、燒結爐焙燒爐作業

燒結爐、焙燒爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及生成物ノ取出又ハ運搬ノ作業(殘滓ノ取出ノ作業ヲ含ム)

二、金屬B級爐作業

賃金統制令(通牒)

- 混銑爐、製鋼用若ハ鑄鋼用電氣爐、金屬鑄物用若ハ合金用坩堝爐又ハ金屬電解爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作並ニ熔融金屬ノ取出及運搬ノ作業
- 三、鋼壓延B級作業
赤熱中ノ壓延鋼製品ノ剪斷、矯正及成形ノ作業（壓延鋼材ノ酸洗及アセチレンガス焰ニ依ル表面整理ノ作業ヲ含ム）
- 四、金屬鍛造B級作業
一噸以上ノ錠又ハ五百噸以上ノプレスニ依ル金屬ノ鍛鍊、鍛造及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作並ニ加熱材料ノ運搬ノ作業
- 五、鋼厚板B級作業
厚六耗以上ノ鋼板又ハ型鋼類ノ鋸打及火造並ニ火造ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作及加熱材料ノ運搬ノ作業
- 六、金屬熱處理B級作業
大物金屬ノ焼入、焼鈍、焼戻及焼準ノ作業
- 七、金屬鑄造B級作業
金屬鑄物製造ニ於ケルハツリ及砂落ノ作業
- 八、金屬噴砂作業
サンドブラストニ依ル金屬品ノ仕上ノ作業
- 九、造船B級作業

- 船體用鋼板又ハ鋼材ノ填隙及取付ノ作業、船臺、船渠若ハ船舶ニ於テ行フ船體用鋼板又ハ鋼材ノ孔明、船體又ハ船舶ニ於ケル電弧又ハガスニ依ル金屬ノ熔接及焼切並ニ船舶用鋼材ノ撓曲、成形及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作又ハ加熱材料ノ運搬ノ作業
- 十、船舶ノ出入渠作業
船渠ニ於ケル支柱、足場ノ取付、取外シ其ノ他船舶出入渠ノ準備ノ作業
- 十一、高起重機運轉作業
三十米以上ノ高所ニ於ケル起重機ノ運轉ノ作業
- 十二、アルカライド劑製造作業
鹽酸モルヒネ、磷酸ヒドロコロゲン、鹽酸ババベリン、鹽酸エフエドリン其ノ他ノアルカロイド劑ノ製造ノ作業
- 十三、臟器劑製造作業
テトロトキシン、アドリナリン、インシユリン、リエナリン、ホルモン其ノ他ノ臟器劑ノ製造ノ作業
- 十四、工業藥品製造B級爐作業
カーバイト、黃燐若ハ無水鹽化アルミニウムノ製造用又ハ重クロム酸ソーダ若ハ硫化ソーダノ製造用反射爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及生成物ノ取出ノ作業
- 十五、工業藥品製造B級作業
五鹽化燐、鹽化スルホン酸、シアン水素、ヂエチルエーテル又ハヂメチルエーテル、粗製ヂ

エチル硫酸又ハ粗製ヂメチル硫酸ノ製造、粗製ヂエチル硫酸又ハ粗製ヂメチル硫酸ノ真空蒸溜ニ依ル精製及生産物ノ取出竝ニピリヂン精製ノ作業

十六、發火物製造B級作業

硝酸鹽ヲ主トスル有鹽火藥、ニトログリセリン、ダイナマイト、硝安ダイナマイト又ハ起爆劑ノ製造及ダイナマイト又ハ起爆劑ノ包裝ノ作業

十七、硝化綿製造作業

硝化綿製造ノ爲ニスル硝化及酸分離ノ作業

十八、B級瓦斯爐作業

混成瓦斯爐又ハ水性瓦斯爐ニ於ケル原料ノ装入、爐ノ操作及殘滓ノ取出ノ作業（石炭瓦斯高壓壓送機ノ操作ノ作業ヲ含ム）

三C級賃金 最高初給賃金ヲ超ユル額ガ一日十時間以内ノ就業ノ場合ニ於テ二十五錢以内

一、金屬濕式電解作業

金屬電解槽ニ於ケル電極又ハ電解液ノ装入、電解槽ノ操作及生産物ノ取出ノ作業（殘滓ノ取出ノ作業ヲ含ム）

二、金屬電爐作業

金屬製鍊ノ爲ニスル電氣爐ニ於ケル原料ノ装入、爐ノ操作及熔融金屬ノ取出及運搬ノ作業

三、金屬熔融作業

鑄物用又ハ合金用ノ金屬ノ熔融及熔融金屬ノ運搬ノ作業

四、金屬鑄造C級作業

金屬鑄物鑄型ノ製作、熔融物ノ運搬及鑄込ノ作業

五、非鐵金屬壓延作業

非鐵金屬ノ壓延、押出及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作竝ニ加熱材料ノ運搬ノ作業

六、金屬鍛造C級作業

一 砲未滿ノ機械鎚又ハ五百砲未滿ノ機械プレスニ依ル金屬ノ鍛鍊、鍛造及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作竝ニ加熱材料ノ運搬ノ作業

七、鋼厚板C級作業

厚六耗以上ノ鋼板又ハ型鋼類ノ加工、組立及填隙ノ作業

八、金屬熱處理C級作業

大物以外ノ金屬ノ焼入、焼鈍、焼戻及焼準ノ熱處理竝ニ金屬ノ滲炭ノ作業

九、金屬熔接作業

電弧又ハガスニ依ル金屬ノ熔接及焼切ノ作業

十、造船C級作業

船體又ハ船舶ニ於ケルベイント塗裝ノ作業

十一、工業藥品製造C級作業

過酸化ソーダ、シアンナトリウム、黃血鹽及粗製ニ硫化炭素製造、苛性ソーダ、鹽素酸鹽ノ製造ノ爐又ハ電解槽ノ作業、硫酸又ハ醋酸ノ製造、蒸溜、煮詰及廢酸回收ノ作業、メタノール

賃金統制令(通牒)

- ル及アンモニアノ合成並ニ晒粉ノ室出ノ作業
- 十二、壓縮ガス製造作業
液體空氣、液體鹽素、壓縮酸素又ハ壓縮水酸ノ製造ノ作業
- 十三、發火物製造C級作業
芳香族ノ三硝化以上ノ高級硝化物、綿藥、無煙火藥及硝安爆藥ノ製造、硝酸鹽ヲ主トスル有煙火藥及硝安ダイナマイトノ包裝並ニダイナマイト及起爆劑ノ收函作業
- 十四、礦物油蒸溜作業
コールタル又ハ石油ノ蒸溜、其ノ蒸溜物ノ精製、人造石油ノ合成及其ノ合成物ノ精製ノ作業
- 十五、ビスコース纖維製造C級作業
防糸關係ニ屬スル臺持、見廻、金板取替、ポンプ取替及計量、ビスコース纖維凝固液ノ調製及回收、セントル式ニ於ケルケーク運搬、ボビン式ニ於ケル紡糸直後ノボビン運搬及水洗並ニ人織製造ニ於ケル紡糸直後ノ運搬及水洗ノ作業
- 十六、人造肥料製造作業
過磷酸石灰、硫酸アンモン又ハ石灰窒素ノ製造ノ作業
- 十七、人造樹脂合成作業
フェノールレジン又ハ尿素レジンノ製造ノ作業
- 十八、硝子熔解爐作業

原料ノ裝入、爐ノ操作及硝子生地ノ取出ノ作業

十九、セメント製造C級作業

セメント製造用廻轉窯ニ於ケル原料ノ裝入、窯ノ操作及燒成物ノ取出ノ作業

二十、D級賃金 最高初給賃金ヲ超ユル額ガ一日十時間以内ノ就業ノ場合ニ於テ十五錢以内

一、鍛冶作業

鎚ニ依ル金屬ノ鍛鍊及鍛冶ノ作業

二、金屬鑄造D級作業

鑄型用砂ノ混合ノ作業

三、金屬酸洗作業

金屬品ノ酸洗ノ作業

四、工業藥品製造D級作業

精製二硫化炭素若ハ珪酸ソーダノ製造爐、硫化ソーダ製造ノ機械式爐、苛性ソーダ煮詰爐又ハ水電解槽ノ作業、鹽酸又ハ晒粉製造並ニ晒粉ノ粉碎、篩別及包裝ノ作業（濃酸及濃硫酸ノ混合ノ作業ヲ含ム）

五、染料顏料製造D級作業

染料製造用熔融釜又ハ顏料製造用熔融爐ニ於ケル原料ノ裝入、釜又ハ爐ノ操作及生成物ノ取出ノ作業並ニ染料又ハ顏料ノ粉碎、篩別及配合ノ作業

六、發火物製造D級作業

發火物製造D級作業

賃金統制令(通牒)

過鹽素酸鹽又ハ鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ノ製造、綿藥、無煙火藥又ハ硝安爆藥ノ包裝及收函

並ニ硝酸鹽ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝安ダイナマイトノ收函ノ作業

七、コールド加工作業

ターカーボン、塗裝タール、舗裝タール又ハ瀘過タールノ製造ノ作業

八、テレピン油蒸溜作業

蒸溜ニ依ル粗製テレピン油又ハ精製テレピン油ノ製造ノ作業

九、パルプ製造作業

パルプ製造用蒸溜釜ニ於ケル原料、藥液又ハ鹽素ガスノ送入、釜ノ操作及パルプノ取出ノ作

業

十、ビスコース纖維製造D級作業

ビスコース纖維製造又ハセロファン紙製造ニ於ケル加硫、捏和、ビスコース液ノ瀘過及調整

ビスコース纖維ノ精鍊並ニビスコース纖維精鍊液ノ調整ノ作業

十一、セメント製造D級作業

セメント製造ニ於ケル原料ノ乾燥、粉碎、篩別、混合及調整並ニ燒成用石炭ノ粉碎ノ作業

○土木建築業、運輸取扱業、農業及林業勞務

者ノ最低賃金及最高賃金決定ノ件依命通牒(昭和十七年二月三日厚生次官通牒)

土木建築業、運輸取扱業、農業及林業勞務者ノ最低賃金及最高賃金ハ左記ニ準據シ可成二月末日

迄ニ告示シ四月一日ヨリ實施スル様致度

追テ參考ノ爲告示例一部及送付候

記

第一 土木建築業勞務者ノ最高賃金、最低賃金及標準賃金

一 土木建築業者(常備、日傭ヲ含ム)ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別紙第一ニ

準據シ且地方ノ實情ヲ斟酌ノ上之ヲ定ムルコト

二 別紙第一ニ記載ナキ職種ノ勞務者ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ類似職種ノ

賃金トノ均衡ヲ考慮シ之ヲ定ムルコト

三 地方ニ於テ主トシテ單價請負ニ依ルヲ實情トスル作業ニ付テハ別紙第一ノ請負賃金制ノ

場合ノ賃金トノ均衡ヲ考慮シ請負單價ヲ以テ其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額ヲ定ムルコト

四 地方ノ實情ニ依リ必要アルトキハ地域ニ依リ異ル定ヲ爲スヲ妨ゲザルコト

五 地方ノ實情ニ依リ危険作業其ノ他特殊ノ作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃

金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト

六 地方ノ實情ニ依リ年末、年始等繁忙時期又ハ祝祭日等地方慣習上ノ休日ニ於ケル作業ニ

付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト

七 一日二交替ニ依ル作業ニシテ其ノ所定就業時間ガ十一時間乃至十二時間ナルモノニ付必

要アルトキハ其ノ所定就業時間ヲ基準トシ別段ノ最高賃金額又ハ最低賃金額ノ定ヲ爲スコ

ト

賃金統制令(通牒)

- 八 年少者(十八歳未満ノ者)ニ付テハ別表ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ八割程度ヲ基準トシテ地方ノ實情ヲ斟酌ノ上其ノ最高賃金額ヲ定ムルコト
- 九 大工、左官、石工等特ニ技能ヲ要スル勞務者ニ付テハ實情ヲ斟酌ノ上徒弟又ハ初心者(經驗三年未満)等ニ對シ別表ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ八割程度ヲ基準トシテ別段ノ最高賃金額ヲ定ムルコト
- 十 實物給與ノ慣習アル地方ニ在リテハ地方ノ慣習ヲ基礎トシ之ガ品名、數量等ヲ明示スルコト
- 十一 本件ニ關スル道府縣賃金委員會ヘノ諮問ニ際シテハ豫メ其ノ諮問案ヲ具シ勞働局長ニ協議スルコト
- 第二 海上ニ於ケル貨物取扱勞務者 (沖仲仕)及波止場、岸壁、河川沿岸ニ於ケル貨物ノ取扱勞務者(陸仲仕、沿岸仲仕)最高賃金、最低賃金及標準賃金
 - 一 海上ニ於ケル貨物取扱勞務者(沖仲仕)及波止場、岸壁、河川沿岸ニ於ケル貨物ノ取扱勞務者(陸仲仕、沿岸仲仕)ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別紙第二ニ準據シ且地方ノ實情ヲ斟酌ノ上之ヲ定ムルコト
 - 二 別紙第二ニ記載ナキ職種ノ勞務者ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ類似職種ノ賃金トノ均衡ヲ考慮シ之ヲ定ムルコト
 - 三 地方ニ於テ主トシテ單價請負ニ依ルヲ實情トスル作業ニ付テハ別紙第二ノ請負賃金制ノ場合ノ賃金トノ均衡ヲ考慮シ請負單價ヲ以テ其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額ヲ定ムルコト

- 四 港灣ノ事情ニ依リ必要アルトキハ別紙第二ノ第一號ニ定ムル一日ノ就業時間ヲ日出ヨリ日没迄ノ時間ト定ムルコト
- 五 地方ノ實情ニ依リ必要アルトキハ地域ニ依リ異ル定ヲ爲スコトヲ妨ゲザルコト
- 六 地方ノ實情ニ依リ危険作業其ノ他特殊ノ作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト
- 七 地方ノ實情ニ依リ年末、年始等繁忙時期又ハ祝祭日等地方慣習上ノ休日ニ於ケル作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト
- 八 中食及夜間作業ヲ爲ス場合ニ於テ食事ヲ給スル習慣アル地方ニ在リテハ別紙第二ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ食事ヲ加給シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額ト定ムルコト
- 九 本件ニ關スル道府縣賃金委員會ヘノ諮問ニ際シテハ豫メ其ノ諮問案ヲ具シ勞働局長ニ協議スルコト
- 第三 陸上ニ於ケル一般貨物ノ取扱勞務者 最高賃金、最低賃金及標準賃金
 - 一 陸上ニ於ケル一般貨物ノ取扱勞務者(常備ヲ除ク)ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別紙第三ニ準據シ且地方ノ實情ヲ斟酌ノ上之ヲ定ムルコト
 - 二 別紙第三ニ記載ナキ職種ノ勞務者ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ類似職種ノ賃金トノ均衡ヲ考慮シ之ヲ定ムルコト
 - 三 地方ニ於テ主トシテ單價請負ニ依ルヲ實情トスル作業ニ付テハ別紙第三ノ請負賃金制ノ賃金トノ均衡ヲ考慮シ請負單價ヲ以テ其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額ヲ定ムルコト

- 四 地方ノ實情ニ依リ必要アルトキハ地域ニ依リ異ル定ヲ爲スヲ妨ゲザルコト
- 五 地方ノ實情ニ依リ危險作業其ノ他特殊ノ作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト
- 六 地方ノ實情ニ依リ年末、年始等繁忙時期又ハ祝祭日等地方慣習上ノ休日ニ於ケル作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト
- 七 夜間作業ヲ爲ス場合ニ於ケル食事ヲ給スル慣習アル地方ニ在リテハ別紙第三ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ食事ヲ加給シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額ト定ムルコト
- 八 本件ニ關スル道府縣賃金委員會ヘノ諮問ニ際シテハ豫メ其ノ諮問案ヲ具シ勞働局長ニ協議スルコト

第四 農業勞務者 最高賃金、最低賃金及標準賃金

- 一 農業勞務者(常備ヲ除ク)ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別紙第四ニ準據シ且地方ノ實情ヲ斟酌ノ上之ヲ定ムルコト
- 二 別紙第四ニ記載ナキ職種ノ勞務者ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ類似職種ノ賃金トノ均衡ヲ考慮シ之ヲ定ムルコト
- 三 地方ニ於テ主トシテ單價請負ニ依ルヲ實情トスル作業ニ付テハ別紙第四ノ請負賃金制ノ場合ノ賃金トノ均衡ヲ考慮シ請負單價ヲ以テ其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額ヲ定ムルコト
- 四 地方ノ實情ニ依リ必要アルトキハ地域ニ依リ異ル定ヲ爲スヲ妨ゲザルコト
- 五 地方ノ實情ニ依リ危險作業其ノ他特殊ノ作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト

金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト

- 六 地方ノ實情ニ依リ年末、年始等繁忙時期又ハ祝祭日等地方慣習上ノ休日ニ於ケル作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト
- 七 宿泊費支拂ノ慣習アル地方ニ在リテハ別紙第四ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ宿泊費(地方ノ慣習ヲ基礎トシテ其ノ金額ヲ明示スルコト)ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額ト定ムルコト
- 八 實物給與ノ慣習アル地方ニ在リテハ地方ノ慣習ヲ基礎トシ之ガ品名、數量等ヲ明示スルコト
- 九 本件ニ關スル道府縣賃金委員會ヘノ諮問ニ際シテハ豫メ其ノ諮問案ヲ具シ勞働局長ニ協議スルコト

第五 林業勞務者 最高賃金、最低賃金及標準賃金

- 一 林業勞務者ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別紙第五ニ準據シ且地方ノ實情ヲ斟酌ノ上之ヲ定ムルコト
- 二 別紙第五ニ記載ナキ職種ノ勞務者ノ最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ類似職種トノ均衡ヲ考慮シ之ヲ定ムルコト
- 三 地方ニ於テ主トシテ單價請負ニ依ルヲ實情トスル作業ニ付テハ別紙第五ノ請負賃金制ノ場合ノ賃金トノ均衡ヲ考慮シ請負單價ヲ以テ其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額ヲ定ムルコト
- 四 地方ノ實情ニ依リ必要アルトキハ地域ニ依リ異ル定ヲ爲スヲ妨ゲザルコト

賃金統制令(通牒)

- 五 地方ノ實情ニ依リ危險作業其ノ他特殊ノ作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト
- 六 地方ノ實情ニ依リ年末、年始等繁忙時期又ハ祝祭日等地方慣習上ノ休日ニ於ケル作業ニ付必要アルトキハ最高賃金額又ハ最低賃金額ニ付別段ノ定ヲ爲スコト
- 七 實物給與ノ慣習アル地方ニ在リテハ地方ノ慣習ヲ基礎トシ之ガ品名、數量等ヲ明示スルコト
- 八 本件ニ關スル道府縣賃金委員會ヘノ諮問ニ際シテハ豫メ其ノ諮問案ヲ具シ勞働局長ニ協議スルコト

別紙第一

- 一 土木建築勞務者(常備、日傭ヲ含ム)ノ一日ノ就業時間(休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ)ガ三月、四月、九月及十月ニ於テハ十時間、五月、六月、七月及八月ニ於テハ十一時間、十一月十二月、一月及二月ニ於テハ九時間(日出ヨリ日没迄ノ時間ガ九時間ニ滿タザル場合ハ日出ヨリ日没迄ノ時間、一日三交替作業ノ場合ニ於テ所定就業時間ガ八時間乃至九時間ナルトキハ其ノ所定就業時間)ノ場合ニ於ケル最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別表第一號ニ依ル
- 二、一日ノ就業時間ガ前號ニ定ムル就業時間ヲ超ユル場合ハ之ヲ超ユル一時間毎ニ最高賃金ニ在リテハ前號ノ最高賃金額ノ一割五分、最低賃金ニ在リテハ前號ノ最低賃金額ノ一割ニ相當スル額(一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ各此ノ割合ヲ以テ算出シタル額)ヲ加算シタルモノ

- ヲ以テ各其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額トス
- 三、一日ノ總就業時間ガ第一號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ第一號ノ最高賃金額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス但シ三時間ニ滿タザル就業ノ場合ハ第一號ノ最高賃金額ノ三割ニ相當スル額ヲ最高賃金額トス
- 四、大工、頭梁、人夫頭等ノ世話役ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ三割増ヲ以テ其ノ最高賃金額トス
- 五、雇傭主ノ都合ニ依リ高キ最高賃金額ノ定アル地域ヨリ出張シ作業ヲ爲ス者ニ付テハ其ノ地域ノ最高賃金額ヲ以テ其ノ最高賃金額トス
- 六、最高賃金額ヲ異ニスル地域ニ跨ル土木建築工事ニ就業スル者ニ付テハ其ノ高キ地域ノ最高賃金額ヲ以テ其ノ最高賃金額トス
- 七、雇傭主ノ都合ニ依リ居住地ヲ離レテ就業スル者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ交通費又ハ宿泊費ノ實費ニ相當スル額ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス
- 八、作業能率特ニ優秀ナル勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ特別加給金(握金)トシテ就業一日ニ付五十錢ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス
- 九、請負賃金制ノ場合ニ於ケル最高賃金額ハ第一號乃至第六號ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ三割増ニ前二號ノ給與ヲ加算シタル額トス
- 請負賃金制ニ依ル常備勞務者ノ最高賃金額ハ月額ニ依ルコトトシ毎月ノ稼働日毎ニ前項ニ依

賃金統制令(通牒)

リ算出シタル最高賃金額ノ合計額ヲ以テ其ノ最高賃金額トス

別紙第二

- 一、海上ニ於ケル貨物取扱勞務者(沖仲仕)及波止場、岸壁、河川沿岸ニ於ケル貨物ノ取扱勞務者(陸仲仕、沿岸仲仕)ノ一日ノ就業時間(休業時間ヲ含ム以下之ニ同シ)ガ三月、四月、九月及十月ニ於テ八十時間、五月、六月、七月及八月ニ於テ八十一時間、十一月、十二月、一月及二月ニ於テ八九時間ノ場合ニ於ケル最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別表第二號ニ依ル。
- 二、一日ノ總就業時間ガ前號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ前號ノ最高賃金額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス但シ三時間ニ滿タサル就業ノ場合ハ前號ノ最高賃金額ノ三割ニ相當スル額ヲ最高賃金額トス
- 三、夜間作業ノ場合ハ其ノ一時間毎ニ最高賃金額ニ在リテハ第一號ノ最高賃金額ノ一割五分、最低賃金額ニ在リテハ第一號ノ最低賃金額ノ一割ニ相當スル額(一時間ニ滿タサル就業ニ對シテハ各此ノ割合ヲ以テ算出シタル額)ヲ加算シタルモノヲ以テ各其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額トス
- 四、特殊取扱及特殊作業ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ左ノ率ニ依ル割増ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス
- (イ) 石灰、磷礫石、礫石、粘土、石膏、岩鹽、撒鹽、徹硫酸、硝石、曹達灰、
ピツチコークス、其ノ他之ニ準ズル特殊品(品名ヲ明示スルコト) 二割五分

- (ロ) セメント、生牛皮、黒鉛、オイルコークス、揮發油、爆發物、木材、内地
筏材、銑鐵、屑鐵、鋼材鑛塊、鐵板、鋏刀板、樽入油、魚油、冷凍物、鹽魚、鹽
皮、有毒礫、特殊品礫石、パイプ、板締洋紙、晒粉、生石灰、ピツチ、無煙炭 三 割
其ノ他之ニ準ズル皮、特殊品(品名ヲ明示スルコト)

- (ハ) 荒天時ノ強行荷役 三割
- 五、波止場、岸壁、河川沿岸ニ於テ外米等一個二十五貫以上ノ重量貨物ノ取扱ニ付テハ前號ニ拘ラズ三割ノ割増ヲ其ノ最高賃金額ニ加算ス
- 六、常備勞務者ニ對スル最高賃金額ハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ左ノ率ニ依ル割増ヲ加算シタルモノトス

世話役及荷役責任者 十割
世話役補助者 五割

- 七、作業能率特ニ優秀ナル勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ特別加給金(握金)トシテ就業一日ニ付五十錢ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス
 - 八、請負賃金制(荷役出來高制)ノ場合ニ於ケル最高賃金額ハ第一號乃至第六號ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ二割増ニ前號ノ給與ヲ加算シタル額トス
- 請負賃金制ニ依ル常備勞務者ノ最高賃金額ハ月額ニ依ルコトトシ毎月ノ稼働日毎ニ前項ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ合計額ヲ以テ其ノ最高賃金額トス

別紙第三

賃金統制令(通牒)

- 一、陸上ニ於ケル一般貨物ノ取扱勞務者(常備ヲ除ク)ノ一日ノ就業時間(休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ)十時間ノ場合ニ於ケル最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別表第三號ニ依ル
- 二、一日ノ就業時間十時間ヲ超ユル場合ハ之ヲ超ユル一時間毎ニ最高賃金ニ在リテハ前號ノ最高賃金額ノ一割五分、最低賃金ニ在リテハ前號ノ最低賃金額ノ一割ニ相當スル額(一時間ニ滿タサル就業ニ對シテハ各此ノ割合ヲ以テ算出シタル額)ヲ加算シタルモノヲ以テ各其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額トス
- 三、一日ノ總就業時間ガ十時間ニ滿タサル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ第一號ノ最高賃金額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス但シ三時間ニ滿タサル就業ノ場合ハ第一號ノ最高賃金額ノ三割ニ相當スル額ヲ最高賃金額トス
- 四、特殊取扱、繁忙期作業及特殊作業ニ就テハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ左ノ率ニ依ル割増ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス
 - (イ) 特ニ危険、有害、過重及嵩高ノ品 二割五分
 - (ロ) 自十二月三十一日ノ繁忙期ノ作業 二割
 - (ハ) 荒天時ノ強行荷役 三割
- 五、作業能率特ニ優秀ナル勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ特別加給金(握金)トシテ就業一日ニ付五十錢(荷馬車持ノ荷馬車曳ニ付テハ二圓)ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス

- 六、波止場、岸壁、河川沿岸ト密接ナ關係ニ在ル場所ニ於ケル荷物積却作業ニ付テハ第二ニ依ル陸仲仕ノ最高賃金額又ハ最低賃金額ト同額ヲ以テ其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額トス
- 七、請負賃金制ノ場合ニ於ケル最高賃金額ハ第一號乃至第四號ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ三割増ニ前號ノ給與ヲ加算シタル額トス

別紙第四

- 一、農業勞務者(常備ヲ除ク)ノ一日ノ就業時間(休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ)ガ一月、二月、三月、四月、九月、十月、十一月及十二月ニ於テハ十時間、五月、六月、七月及八月ニ於テハ十一時間ノ場合ニ於ケル最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別表第四號ニ依ル一日ノ就業時間ガ前號ニ定ムル就業時間ヲ超ユル場合ハ之ヲ超ユル一時間毎ニ最高賃金ニ在リテハ前號ノ最高賃金額ノ一割五分最低賃金ニ在リテハ前號ノ最低賃金額ノ一割ニ相當スル額(一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ各此ノ割合ヲ以テ算出シタル額)ヲ加算シタルモノヲ以テ各其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額トス
- 三、一日ノ總就業時間ガ第一號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間ガ第一號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ第一號ノ最高賃金額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス但シ三時間ニ滿タザル就業ノ場合ハ第一號ノ最高賃金額ノ三割ニ相當スル額ヲ最高賃金額トス
- 四、特殊作業ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額トス

牛馬使作業

賃金統制令(通牒)

自動耕耘機操縦作業

其ノ他特殊技能ヲ要スル作業(作業名ヲ明示スルコト)

三 割

- 五、牛馬又ハ農業用機械器具持ノ場合ニ於ケル最高賃金額ハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ價格等統制令ニ基ク牛馬又ハ農業用機械器具ノ公定賃賃料ヲ各加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス
- 六、請負賃金額ノ場合ニ於ケル最高賃金額ハ第一號乃至第四號ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ三割増ニ前號ノ給與ヲ加算シタル額トス

別紙第五

- 一、林業勞務者ノ一日ノ就業時間(休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ)ガ一月、二月、三月、四月、九月、十月、十一月及十二月ニ於テハ十時間、五月、六月、七月及八月ニ於テハ十一時間ノ場合ニ於ケル最高賃金額、最低賃金額及標準賃金額ハ別表第五號ニ依ル
- 二、一日ノ就業時間ガ前號ニ定ムル就業時間ヲ超ユル場合ハ之ヲ超ユル一時間毎ニ最高賃金額ニ在リテハ前號ノ最高賃金額ノ一割五分、最低賃金額ニ在リテハ前號ノ最低賃金額ノ一割ニ相當スル額(一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ各此ノ割合ヲ以テ算出シタル額)ヲ加算シタルモノヲ以テ各其ノ最高賃金額又ハ最低賃金額トス
- 三、一日ノ總就業時間ガ第一號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ第一號ノ最高賃金額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス但シ三時間ニ滿タザル就業ノ場合ハ第一號ノ最高賃金額ノ三割ニ相當スル額ヲ最高賃金額トス

額トス

- 四、特殊作業ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額ニ左ノ率ニ依ル割増ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス

泊リ掛作業
風雨雲等荒天時作業
夜間等非常勤務作業

三 割

其ノ他特ニ危険ナル作業(作業名ヲ明示スルコト)

- 五、牛馬持ノ場合ニ於ケル最高賃金額又ハ最低賃金額ハ前各號ニ依リ算出シタル最高賃金額又ハ最低賃金額ニ就業一時間(飼料持)ニ付左ノ額(一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額)ヲ加算シタル額トス

	最 高	標 準	最 低
北 海 道	一〇〇錢	八〇錢	五〇錢
其ノ他ノ府縣	六〇	四〇	三〇

- 六、作業能率特ニ優秀ナル勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ特別加給金(握金)トシテ就業一日ニ付五十錢ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高賃金額トス
- 七、請負賃金額ノ場合ニ於ケル最高賃金額ハ第一號乃至第四號ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ三割増ニ前號ノ給與ヲ加算シタル額トス請負賃金額ニ於ケル最高賃金額ハ月額ニ依ルコトトシ毎月ノ稼働日毎ニ前項ニ依リ算出シタル最高賃金額ノ合計額ヲ以テ其ノ最高賃金額トス

賃金統制令(通牒)

會社經理統制令

(昭和十五年十月十九日勅令第六八〇號)
(改正昭和十六年十二月二十七日勅令第一二三四號)

會社經理統制令施行規則

(昭和十五年十月十九日閣令第一三三號)
(改正昭和十七年十一月二日閣令第二七號)

第一章 總 則

令第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第十一條ノ規定ニ依ル會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關スル命令ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

令第二條 會社ハ國家目的達成ノ爲國民經濟ニ課セラレタル責任ヲ分擔スルコトヲ以テ經營ノ本義トシ其ノ經理ニ關シ左ノ各號ニ掲グル事項ノ遵守ヲ旨トスベシ

一 資金ハ之ヲ最モ有益ニ活用シ苟モ人的及物的資源ノ濫費ニ陥ルガ如キコトハ嚴ニ之ヲ避クルコト

二 經費ノ支出及資産ノ償却ヲ適正ナラシムルコト

三 役員、社員其ノ他從業者ノ給與及其ノ支給方法ヲ適正ナラシムルコト

四 利益ノ分配ヲ適正ナラシメ自己資金ノ蓄積ニ努ムルコト

第二章 利益配當及積立金

令第三條 資本金(出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計金)又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ)二十萬圓以上ノ會社ハ毎事業年度ニ付左ノ各號ノ率ノ中低キ率ヲ超ユル率ニ依リ利益配

當(基金利息又ハ基金配當ヲ含ム以下同ジ)ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 配當金額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ八ニ相當スル金額ト爲ル配當率

二 直前ノ事業年度ノ配當率

左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル率ヲ前項第二號ノ率ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

一 直前ノ事業年度ノ配當率ガ年百分ノ十二達セザルトキハ其ノ配當率ニ年百分ノ一(六月ニ

非ザル期間ヲ事業年度トスルモノニ在リテハ當該事業年度ノ月數ノ六ニ對スル割合ヲ年百分

ノ一ニ乘ジテ得タル率)ヲ加ヘタル率但シ其ノ率ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ年百分ノ六

トシ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

二 直前ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サザリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ノ利益配當ナル

トキハ年百分ノ六

三 資本金二十萬圓未滿タリシ會社資本増加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタル後最初ノ事

業年度ニ付爲ス利益配當ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ年百分ノ六

四 配當金總額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ト爲ル配當率ガ前三號ノ率

ヨリ高キトキハ其ノ率但シ其ノ率ガ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

前二項ノ自己資本ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

○附第一條 會社經理統制令(以下單ニ令ト稱ス)第三條第一項及第二項ノ自己資本ハ當該事業年

度中ニ於ケル左ノ各號ニ掲グル金額ノ日割平均額ノ合計金額ヨリ繰越缺損金額ノ日割平均額ヲ

控除シタル金額トス但シ當該決算確定前課税ノ決定ヲ受ケタル最終ノ事業年度末ニ於ケル固定

經理統制令(利益配當)

資産償却ノ累計金額中課税上損金ニ算入セラレザリシ金額ニ付稅務署長ノ證明ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ之ヲ當該事業年度ノ自己資本ニ加算スルコトヲ得

一 拂込資本金額

二 積立金其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ會社ガ各事業年度ノ利益金額中利益金處分ニ依リ留保シタル金額但シ退職積立金及退職手當法ニ依リ積立テタル退職手當積立金及税金引當金ヲ除ク

三 前號ニ該當スルモノヲ除クノ外額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テ其ノ額面ヲ超ユル金額中積立テタル金額

四 第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外合併ニ因リ生ジタル差益金又ハ資本減少ニ因リ生ジタル差益金中積立テタル金額

五 第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外主務大臣ノ命令ニ依リ積立テタル金額

主務大臣ガ引當金トシテ必要ナルモノト認定シタル金額又ハ償却ノ不足、評價ノ不適正其ノ他ノ事由ニ因リ會社資産ニ缺陷アルモノト認定シタル金額ハ之ヲ前項ノ金額ヨリ控除スルモノトス

○則第二條 令第三條第一項ノ規定ニ依リ利益配當ヲ爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第一號様式ニ依リ許可申請書ニ當該事業年度ノ貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

(許可方針)

(一) 第三條第一項第一號ノ配當率(以下「一號配當率」ト稱ス)ヲ超ユル率ニ依ル配當ハ原則

トシテ之ヲ許可セザルコト

但シ本令施行直前ノ事業年度ノ配當率ガ「一號配當率」ヲ超過シ居ル場合ニハ本令施行後三事業年度ヲ限リ直前ノ事業年度ノ配當率ヨリ年二分(一年ヲ一事業年度トスルモノ)ニ在リテハ年三分)減ノ率迄ハ「一號配當率」ヲ超ユル配當ヲ許可スルコト

(二) 第三條第一項第二號ノ配當率ヲ超ユル率ニ依ル配當ハ左ニ掲グルガ如キ例外トシテ認ムルヲ適當トスル場合ノ外原則トシテ之ヲ許可セザルコト

(イ) 後配株ニ對スル配當ヲ普通株ト同一率迄引上グル場合

(ロ) 一年ノ内ニ於テ上期及下期ニ付配當率ニ付定例的ナル高低ヲ存スル會社ニシテ直前ノ事業年度ニ其ノ低キ率ニ依リ配當シタルモノガ其ノ高キ率ニ依リ配當ヲ爲サントスル場合(此ノ場合ニ於テハ前年相當期ノ配當率ヲ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做スコトトス但シ此ノ場合ニハ次期ノ事業年度ノ配當ニ關シテハ之ヲ直前ノ事業年度ノ配當率トセザル様措置スルコト)

(ハ) 直前ノ事業年度ノ配當率ガ當該事業年度ノ突發的ノ事情ニ依リ臨時ニ減配セラレタリト認メラルル場合ニ從前ノ例ニ鑑ミ相當ト認メラルル配當ヲ復活スル場合

(ニ) 新設會社ノ初度配當ニ關シ從來相當高率ナル配當ヲ爲シ得タル會社ヨリ其ノ事業ノ一部ヲ分割シ之ヲ主體トシテ新會社トナシタルモノニシテ之ヲ新會社ノ原則ニ依リ取扱フコトガ不適當ナリト認メラルル場合

(ホ) 資本金二十萬圓未滿タリシ會社ガ資本増加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタル後

經理統制令(利益配當)

最初ノ事業年度ニ付爲ス配當ナル場合(此ノ場合ニ於テハ當該會社ニ會社經理統制令ノ適用アリタルモノト假定シテ得ベキ率ニ依ルコトス)(昭和十五年十月二十二日會社經理審査委員會決定)

問 本令ニ於テ資本金二十萬圓以上ノ會社トアルハ公稱資本金ナリヤ拂込資本金ナリヤ又ハ積立金、繰越金等ヲモ含ムモノナリヤ

答 公稱資本金ヲ謂フ、從テ積立金及繰越金ヲ含マズ猶合名會社、合資會社ノ場合ノ勞務、信用等ノ出資ヲ包含セズ

問 令第三條第一項第一號ニ「配當金總額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ八ニ相當スル金額ト爲ル配當率」トアルハ如何ナル率ヲ謂フヤ

答 配當金總額ガ自己資本ニ年百分ノ八ヲ乘ジテ得タル金額ニ爲ル配當率ヲ謂フ、例ヘバ自己資本ガ百五十萬圓デアルトスレバ配當金總額ガ十二萬圓ニナル配當率ヲ謂フ

問 自己資本ノ計算方法如何

答 自己資本ノ計算方法ハ施行規則第一條ニ規定セラレテ居ル通り當該事業年度中ニ於ケル左ニ掲グル(一)自己資本ニ加算セラルルモノノ合計金額ヨリ(二)自己資本ヨリ控除セラルル合計金額ヲ控除シテ計算スルモノナリ

(一) 自己資本ニ加算セラルルモノ

1 拂込資本金額ノ日割平均額

2 利益金處分ニ依リ留保シタル金額ノ日割平均額、但シ退職積立金及退職手當法ニ依ル退職手當積立金及税金引當金ヲ除ク

3 株式ノ額面超過金額中直接積立タル金額ノ日割平均額

4 合併差益金又ハ減資差益金中直接積立タル金額ノ日割平均額

5 主務大臣ノ命令ニ依リ積立タル金額ノ日割平均額

6 固定資産償却金中稅務署長ノ証明ヲ受ケタル否認額

(二) 自己資本ノ計算ニ於テ控除セラルルモノ

1 繰越缺損金額ノ日割平均額

2 主務大臣ニ於テ引當金トシテ必要ナルモノト認定シタル金額又ハ償却ノ不足、評價ノ不適正其ノ他ノ事由ニ依リ會社資産ニ缺陷アルモノト認定シタル金額

問 當該事業年度ノ利益金ハ自己資本トナルヤ

答 自己資本トナラズ

令第四條 主務大臣ハ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ會社ニ對シ期間ヲ定メ將來ノ配當率ニ付適當ト認ムル率ヲ指定スルコトヲ得

一 當該會社ノ利益ノ實情ニ照シ配當金ガ過大ナリト認メラルルトキ

二 當該會社ノ資金計畫ニ照シ自己資金ノ蓄積ガ必要ナリト認メラルルトキ

會社ハ前項ノ規定ニ依リ配當率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ當該配當率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當ヲ爲スコトヲ得ズ

令第五條 合併ニ因リテ設立シタル資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ合併後存続スル資本金二十萬圓以上ノ會社ハ合併後最初ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サントスルトキハ利益配當ノ率ガ年百

分ノ六ヲ超エザル場合ヲ除キ前二條ノ規定ニ拘ラズ閣令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ申請ニ基キ主務大臣ガ從前ノ利益配當其ノ他各會社ノ經理ノ實情ヲ參酌シテ指定シタル率ヲ超エザル利益配當ノ率ニ依ルベシ

○則第三條 令第五條ノ規定ニ依リ合併後最初ノ事業年度ノ利益配當ノ率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケントスル會社ハ別表第二號様式ニ依ル指定申請書ニ當該事業年度ノ貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類並ニ合併前ノ各會社ノ合併前三事業年度ノ貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ
(許可方針)

合併會社ノ配當率ノ指定ハ原則トシテ左記標準ニ依ルコト

(イ) 合併前ノ會社ノ最終ノ事業年度ノ配當金ノ合計額(各會社相互間ニ授受シタルモノヲ除ク)ヲ合併後ノ拂込資本金ヲ以テ除シテ得タル率ヲ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做シ
シ一、第三條關係ヲ準用スルコト

合併前ノ會社ニ資本金二十萬圓未満ノモノアル場合ニハ當該會社ニ會社經理統制令ノ適用アリタルモノト假定シテ得ベキ利益配當ノ金額ニ依リ前項ノ計算ヲ爲スモノトスル事
(ロ) 企業ノ合理化上特ニ(イ)ノ原則ニ依ルヲ適當トセザルモノニ付テハ其ノ實情ニ從ヒ特別ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ルコト(昭和十五年十月二十二日 會社經理統制委員會決定)

問 當社ハ去ル十月十五日某社ヲ合併セルガ會社經理統制令第五條ニ規定スル合併後最初ノ事業年度トハ合併年度タル自六月至十一月ノ事業年度ナリヤ次期ノ自十二月至五月ノ事業

年度ナリヤ

答 合併ノアリタル事業年度、即チ自六月至十一月ノ事業年度ヲ謂フ

令第六條 主務大臣ハ會社收益ノ狀況其ノ他經理ノ實情ニ照シ必要アリト認ムルトキハ當該會社ニ對シ法定準備金ノ外特別ノ積立金ノ積立ヲ命ジ又ハ當該積立金ノ運用方法ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ積立金ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

○則第四條 令第六條第二項ノ規定ニ依リ積立金ノ使用ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第三號様式ニ依ル許可申請書ニ最近ニ於ケル總勘定元帳殘高表ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三章 役員及社員給與

令第七條 本章ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル會社ニ之ヲ適用ス

一 資本金二十萬圓以上ノ會社
二 前號ニ規定スルモノヲ除クノ外役員及社員ノ合計數當時三十人以上ノ會社

令第八條 本章ニ於テ役員ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 機關トシテ會社ノ業務ニ從事スル者
二 顧問、相談役其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ賞與ニ關シ會社ガ前號ニ該當スル者ニ準ジテ取扱フ者

經理統制令(役員給與)

令第九條

本章ニ於テ社員ト稱スルハ船員及貸金統制令第二條ノ勞務者ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 會社ニ雇傭セララル者

二 顧問、囑託其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ繼續シテ會社ノ業務ニ從事スル者但シ役員タル者ヲ除ク

令第十條

本章ニ於テ給與ト稱スルハ報酬、給料、手当、賞與、交際費、機密費其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ會社ガ役員又ハ社員ノ職務ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

令第十一條

役員ノ給與ヲ分テ左ノ各號ニ掲グル給與トス

一 報酬(會社ガ役員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ニシテ經費トシテ經理スルモノヲ謂フ但シ在勤手當其ノ他第二十條各號ニ掲グル社員手當ニ準ズル手當ヲ除ク)

二 賞與(會社ガ役員ニ對シ定期ニ利益金處分ニ依リ支給スル給與ヲ謂フ)

三 退職金(會社ガ退職シタル役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ)

四 臨時ノ給與(會社ガ役員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ)

五 雜給與(前各號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ)

令第十二條

會社ハ每事業年度ノ役員報酬ヲ支給セントスル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 支給セントスル役員報酬ノ合計金額ガ昭和十五年十月二十日(朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年十一月五日)以後終了シタル各事業年度ニ付支給シタル役員報酬又ハ本條

ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル役員報酬ノ事業年度毎ノ合計金額(當該事業年度ノ月數ト異ル月數ノ事業年度ニ付テハ閉令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額)ノ中最モ多キ金額(以下最高報酬額ト稱ス)ヲ超ユルトキ

二 昭和十五年十月二十日(朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年十一月五日)以後終了シタル各事業年度ニ付役員報酬ヲ支給セザリシトキ

三 設立後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ

四 合併後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ但シ其ノ役員報酬ノ合計金額ガ合併後存続スル會社ノ最高報酬額ヲ超エザルトキヲ除ク

五 第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ

○則第五條

令第十二條ニ於ケル當該事業年度ノ月數ト異ル月數ノ事業年度ノ金額ハ其ノ事業年度ニ付支給シタル役員報酬又ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル役員報酬ノ合計金額ヲ其ノ事業年度ノ月數ヲ以テ除シテ得タル金額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジテ得タル金額トス

○則第六條

令第十二條ノ規定ニ依リ役員報酬ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第四號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

(許可方針)

●(一) 役員報酬ノ増加支給ハ左ニ掲グルガ如キ例外トシテ認ムルヲ適當トスル場合ノ外原則

經理統制令(役員給與)

トシテ之ヲ許可セザルコト

(イ) 役員報酬が營業規模、事業種目、所在地域及營業成績ノ類似スル他ノ會社ノ一般水準ニ比シ劣レル會社ガ一般水準迄之ヲ改善スルガ爲ニ増給スル場合(從來報酬ガ過少ニシテ賞與ガ過大ナリシ會社ガ本令施行ノ結果減額セラルベキ賞與ノ一部ヲ報酬ニ組入レントスル場合ヲ含ム)

(ロ) 増資其ノ他ノ事由ニ依リ營業規模ガ擴大シタル會社ガ其ノ營業規模ノ擴大ニ應ジタル増給ヲ爲サントスル場合

(二) 直前ノ事業年度ニ於テ役員報酬ヲ支給セザリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキハ營業規模、事業種目、所在地域及營業成績ノ類似スル他ノ會社ノ一般水準ヲ勘案シテ適當ト認メラルル額ヲ限度トシテ之ヲ許可スルコト

(三) 合併後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキハ原則トシテ合併前ノ各會社ノ最終ノ事業年度ノ役員報酬ノ合計額ノ範圍内ニ於テ(一)ヲ準用シテ適當ト認メラルル額ヲ限度トシテ之ヲ許可スルコト

(四) 令第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社令第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキハ原則トシテ直前ノ事業年度ノ報酬額ヲ參酌シ(一)ヲ準用シテ適當ト認メラルル額ヲ限度トシテ之ヲ許可スルコト

(昭和十五年十月二十二日)
會社經理審査委員會決定

●會社職員給與臨時措置令ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ同令ニ基キ報告シ承認ヲ受ケ若ハ許可ヲ受

ケタル準則ニ依リ役員報酬ヲ増額シタル結果本令施行後最初ニ終了スル事業年度ノ役員報酬ノ合計金額ガ直前ノ事業年度ニ支給シタル役員報酬ノ合計金額ヲ超ユルコトトナル場合ニ於テハ原則トシテ之ヲ許可スルコト(昭和十五年十二月十日)
會社經理審査委員會決定

問 取締役ニシテ社員タル職務、例ヘバ支配人、技師長、工場長等ヲ兼任セル者ヲ從來ヨリ役員及社員ノ資格ヲ有スル者トシテ取扱來レル場合經理統制令ニ於テモ從來通り取扱ヒ差支ナキヤ

答 從來通り役員ト社員ト各別ニ取扱ヒ差支ナシ

問 特定ノ役員ニ機密費、交際費又ハ車馬賃等ノ名儀ニテ一定ノ金額ヲ經費ヨリ支給セル場合報酬ナリヤ雜給與ナリヤ

答 一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給シ經費トシテ經理シ渡切リノモノハ名稱ノ如何ヲ問ハズ本令ニ於テハ報酬トシテ取扱ハル

問 社員ヨリ役員ニ昇格シタル場合ノ最高報酬額ニ本人社員時代ノ給料金額ヲ加算スルモ差支ナキヤ

答 昇格社員ノ給料ハ最高報酬額ニ加算シ得ズ

問 技師長ガ取締役技師長ニ昇格セル場合技師長トシテ從來支給シ居リタル給料、賞與ハ引續キ支給シテ差支ナキヤ

答 社員基本給料、社員賞與トシテ支給スルハ差支ナシ

問 役員ヲ増員シタル場合役員報酬ノ増額ハ許可セラルルヤ

經理統制令(役員給與)

答 役員ヲ増員シタ理由ノミニテハ直ニ許可セラレナイガ現在支給シ居ル役員報酬ガ營業規模、事業種目、營業成績ノ類似スル他ノ會社ノ一般水準ニ比シ劣レル場合ハ一般水準ト認めラルル限度迄許可セラル

令第十三條 會社ハ每事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セントスル場合ニ於テ其ノ合計金額ガ左ノ各號ノ金額(百圓未満ノ端數ハ之ヲ百圓ニ切上グ)ノ中少キ金額ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 法定賞與額(閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル當該事業年度ノ純益金ニ閣令ノ定ムル割合ヲ乘ジテ得タル金額ヲ謂フ以下同ジ)

二 前期賞與額(直前ノ事業年度ニ付支給シタル役員賞與ノ合計金額ヲ謂フ但シ當該事業年度ノ月數ガ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ謂フ以下同ジ)

左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額ヲ前項第二號ノ金額ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

一 前期賞與額ガ法定賞與額ニ達セザルトキハ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額但シ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額ガ法定賞與額ニ對シ百分ノ七十ノ割合ニ達セザルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額

二 直前ノ事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セザリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額

三 合併後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキ又ハ第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額

則第七條 令第十三條第一項第一號ノ當該事業年度ノ純益金ハ當該事業年度ノ會社ノ決算上總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ得タル金額トス

左ノ各號ニ掲グル金額ハ之ヲ前項ノ總益金ニ算入セザルモノトス

一 直前ノ事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ積立金ヨリ戻入レタル金額

二 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テ其ノ額面ヲ超ユル金額

三 合併ニ因リ生ジタル差益金

四 資本減少ニ因リ生ジタル差益金

左ノ各號ニ掲グル金額ハ之ヲ第一項ノ總損金ニ算入セザルモノトス

一 直前ノ事業年度ヨリ繰越シタル損金

二 會社ガ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人税、臨時利得税、第一種所得税、第一種所得稅附加稅及法人稅法施行規則第二十九條ニ規定スル租稅

當該事業年度ノ利益金處分ニ基キ資産償却ニ充テタル金額ハ之ヲ第一項ノ總損金ニ算入ス

則第八條 令第十三條第一項第一號ノ割合ハ會社ノ當該事業年度ニ於ケル拂込資本金額ノ日割平均額ニ應ジ左ニ掲グル割合トス
拂込資本金二十萬圓以下ナルトキ

百分ノ一〇・四五

經理統制令(役員給與)

拂込資本金二十萬圓ヲ超エ三十萬圓以下ナルトキ	百分ノ九・三五
拂込資本金三十萬圓ヲ超エ五十萬圓以下ナルトキ	百分ノ八・一〇
拂込資本金五十萬圓ヲ超エ七十萬圓以下ナルトキ	百分ノ七・四〇
拂込資本金七十萬圓ヲ超エ百萬圓以下ナルトキ	百分ノ六・七〇
拂込資本金百萬圓ヲ超エ百五十萬圓以下ナルトキ	百分ノ六・〇〇
拂込資本金百五十萬圓ヲ超エ二百萬圓以下ナルトキ	百分ノ五・五〇
拂込資本金二百萬圓ヲ超エ三百萬圓以下ナルトキ	百分ノ四・九五
拂込資本金三百萬圓ヲ超エ四百萬圓以下ナルトキ	百分ノ四・五五
拂込資本金四百萬圓ヲ超エ五百萬圓以下ナルトキ	百分ノ四・三〇
拂込資本金五百萬圓ヲ超エ七百萬圓以下ナルトキ	百分ノ三・九〇
拂込資本金七百萬圓ヲ超エ千萬圓以下ナルトキ	百分ノ三・五五
拂込資本金千萬圓ヲ超エ千五百萬圓以下ナルトキ	百分ノ三・一五
拂込資本金千五百萬圓ヲ超エ二千萬圓以下ナルトキ	百分ノ二・九〇
拂込資本金二千萬圓ヲ超エ二千五百萬圓以下ナルトキ	百分ノ二・七五
拂込資本金二千五百萬圓ヲ超エ三千萬圓以下ナルトキ	百分ノ二・六〇
拂込資本金三千萬圓ヲ超エ四千萬圓以下ナルトキ	百分ノ二・四〇
拂込資本金四千萬圓ヲ超エ五千萬圓以下ナルトキ	百分ノ二・二五
拂込資本金五千萬圓ヲ超エ七千萬圓以下ナルトキ	百分ノ二・〇五

拂込資本金七千萬圓ヲ超エ一億圓以下ナルトキ	百分ノ一・八五
拂込資本金一億圓ヲ超エ一億五千萬圓以下ナルトキ	百分ノ一・六五
拂込資本金一億五千萬圓ヲ超エ二億圓以下ナルトキ	百分ノ一・五五
拂込資本金二億圓ヲ超エ二億五千萬圓以下ナルトキ	百分ノ一・四五
拂込資本金二億五千萬圓ヲ超エ三億圓以下ナルトキ	百分ノ一・四〇
拂込資本金三億圓ヲ超エ四億圓以下ナルトキ	百分ノ一・二五
拂込資本金四億圓ヲ超エ五億圓以下ナルトキ	百分ノ一・二〇
拂込資本金五億圓ヲ超エルトキ	百分ノ一・〇〇

○則第九條 令第十三條第一項第二號ニ於ケル當該事業年度ノ月數ガ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於ケル金額ハ直前ノ事業年度ニ付支給シタル役員賞與ノ合計金額ヲ直前ノ事業年度ノ月數ヲ以テ除シテ得タル金額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジテ得タル金額トス

○則第十條 令第十三條第一項ノ規定ニ依リ役員賞與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第五號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

(許可方針)

●(一)法定賞與額ヲ超ユル賞與支給ハ原則トシテ之ヲ許可セザルコト
但シ(イ)本令施行前ニ最終ニ決算ヲ確定シタル事業年度ニ付支給シタル役員賞與額ガ其ノ役員賞與ヲ支給セントスル事業年度ノ法定賞與額ヲ超ユル會社ニ付テハ

經理統制令(役員給與)

- (A) 本令施行後最初ニ決算ヲ確定スル事業年度ノ役員賞與ニ在リテハ前期賞與額ノ五分ノ四(一年ヲ一事業年度トスルモノニ在リテハ三分ノ二以下同ジ)ニ相當スル金額ヲ限度トシテ許可スルコト
- (B) 本令施行後第二回目ニ決算ヲ確定スル事業年度ノ役員賞與ニ在リテハ(A)ニ基ク許可ヲ受ケテ支給シタル前期賞與額ノ五分ノ四ニ相當スル金額ヲ限度トシテ許可スルコト
- (C) 本令施行後第三回目ニ決算ヲ確定スル事業年度ノ役員賞與ニ在リテハ(B)ニ基ク許可ヲ受ケテ支給シタル前期賞與額ノ五分ノ四ニ相當スル金額ヲ限度トシテ許可スルコト
- (ロ) 事業ノ性質上又ハ操業開始ニ至ラザル等ノ爲メ利益率著シク低ク法定賞與額ヲ其ノ儘適用スルヲ不適當トスル場合ニ在リテハ其ノ實情ニ從ヒ特別ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ルコト
- (二) 法定賞與額ヲ超エザル限度ニ於テ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額ヲ超ユル賞與ノ支給ハ原則トシテ之ヲ許可セザルコト
- (イ) 一年ノ内ニ於テ上期及下期ニ付利益金ニ定例的ナル高低ヲ存スル會社ニ在リテハ前年相當期ノ賞與額ヲ前期賞與額ト看做スコトトス但シ此ノ場合ニハ前期賞與額ヲ超エテ許可シタル金額ニ付テハ之ヲ次期ノ賞與支給ニ關シ前期賞與額ニ算入セザル様措置スルコト

コト

- (ロ) 前期賞與額ガ當該事業年度ノ突發的事情ニ依リ減額セラレタリト認めラレル場合ニ在リテハ前々期ノ經常的ト認めラレベキ賞與額ヲ前期賞與額ト看做スコトトス
- (三) 直前ノ事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セザリシ會社ガ法定賞與額ノ百分ノ七十ヲ超ユル賞與ヲ支給セントスル場合ハ原則トシテ之ヲ許可セザルコト
- (四) 設立後最初ノ事業年度ニ付法定賞與額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額ヲ超ユル役員賞與ヲ支給セントスルモノハ原則トシテ之ヲ許可セザルコト
但シ既設會社ヨリ其ノ事業ノ一部ヲ分割シ之ヲ主體トシテ新會社トナシタルモノ、個人經營ガ會社トナリタルモノ等ニシテ既設會社ノ役員賞與ノ實情ニ鑑ミ之ヲ新會社ノ原則ニ依リ取扱フコトガ不適當ナリト認めラレル場合ハ法定賞與額ノ範圍内ニ於テ適當ト認めラレル金額ヲ限度トシテ之ヲ許可スルコト
- (五) 合併後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ニ關シテハ原則トシテ法定賞與額ノ範圍内ニ於テ合併前ノ各會社ノ最終ノ事業年度ノ役員賞與ノ合計額ヲ前期賞與額ト看做シテ得ベキ金額ヲ限度トシテ之ヲ許可スルコト
尙合併前ノ各會社ノ賞與ノ合計額ガ著シク法定賞與額ヲ超ユル場合ニシテ法定賞與額迄急激ニ減少セシムルヲ不適當ト認めラレル場合ニ於テハ四ノ(一)ノ(イ)ニ準ジテ取扱フコト
- (六) 令第七條各號ノ一ニ該當セザリシ會社令第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ原則トシテ法定賞與額ノ範圍内ニ於テ前期

經理統制令(役員給與)

賞與額ノ百分ノ百二十ヲ限度トシテ之ヲ許可スルコト(昭和十五年十月二十二日
會社經理審査委員會決定)

●直前事業年度迄ハ經費處分ニ依リ役員賞與ニ相當スル金額ヲ支給シ來リタル會社ガ本事業年度ニ於テ役員賞與ヲ支給セントスルトキハ令第十三條第二項第二號ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノナル所之ガ許可ニ際シテハ直前ノ事業年度ニ於テ經費處分ニ依リ支給シタル役員賞與相當額ヲ前期賞與額ニ代用シテ令第十三條ノ規定及第一回委員會決定ノ運用方針ヲ準用スルコト(昭和十五年十二月十日
會社經理審査委員會決定)

問 役員賞與總額ガ令第十三條第一項第一號ノ法定賞與額ヲ超ユル爲許可申請ヲ爲セルモ總會當日迄ニ許可ヲ得ラレザリシ場合如何ニ處理スベキヤ、例ヘバ條件附決議ノ如キモノトシテ差支ナキヤ

答 條件附決議トシテモ差支ナシ

令第十四條 會社ハ退職シタル役員ニ對シ退職金ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 閉令ノ定ムル限度ヲ超エザル退職金ヲ支給セントスルトキ

二 閉令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル準則ニ依リ退職金ヲ支給セントスルトキ

○則第十一條 令第十四條第一號ノ限度ハ會社ガ退職金ヲ支給セントスル當該退職役員ニ對シ其ノ退職前一年間ニ支給シタル報酬金額ニ當該退職役員ノ在職年數(會社ガ當該退職役員ニ對シ退職金ヲ支給シタルコトアル場合ハ其ノ退職金支給後ニ於ケル在職年數)ノ二分ノ一ヲ乘ジテ得タル金額トス

前項ノ年數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一年未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一年トス

○則第十二條 令第十四條第二號ノ規定ニ依リ役員ノ退職金ノ準則ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第六號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル役員ノ退職金ノ準則ヲ變更セントスル會社ニ付亦同ジ

○則第十三條 令第十四條ノ規定ニ依リ退職シタル役員ニ對スル退職金ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第七號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

(許可方針)

(一) 役員退職金準則ノ許可ハ當分ノ内會社ノ營業規模、事業種目、所在地域、營業成績、役員ノ在職年數、資格等ヲ勘案シ又當該會社ニ於ケル從來ノ役員退職金ニ關スル内規、從來ノ役員退職金支給ノ實績等ヲ參酌シ不適當ナリト認メラザル限り之ヲ許可スルコト

(但シ右ノ準則ニ付テハ「取締役會」ノ決議ニ依リ「ト定ムルガ如キ支給ノ金額、割合等」ノ不確定ナルモノハ之ヲ認メザルコト)

(二) 準則ニ依ラサル役員退職金支給ノ許可ハ當分ノ内會社ノ經理ノ狀況、營業規模、從來ノ役員退職金支給ノ實績及退職役員ノ功績、在職年數等ニ照シ不適當ナリト認メラザル限り之ヲ許可スルコト

(三) 役員退職金許可ノ標準ニ付會社經理統制令施行後ノ在職期間ニ對スルモノニ關シテハ漸次適正ナル規程ヲ設クルコト(其ノ結果必要アリト認ムルトキハ(一)ニ依リ許可ヲ受ケタル準則ヲ變更セシムル爲ノ措置ヲ講ズルコト)(昭和十五年十二月十日
會社經理審査委員會決定)

經理統制令(役員給與)

問 合併ニ因リ消滅スル會社ノ役員ハ存續スル會社ノ役員ニ就職シタル場合ト雖モ退職トシテ退職金ヲ支給スルハ差支ナキヤ

答 準則ガアレバ準則ニ依リ、準則ノナイ場合ハ許可ヲ得テ支給スルハ差支ナシ

問 社員ヨリ累進シテ役員トナル者ガ退職セル場合ニ於テ、社員ヲ退職セル際退職金ノ支給ヲ受ケ居ラザルトキハ施行規則第十一條中ノ在職年數ノ計算ハ社員ノ在職年數ヲ通算シテ差支ナキヤ

答 施行規則第十一條中ノ在職年數ハ役員トシテノ在職年數ナルニ付社員ノ在職年數ハ之ヲ計算スルコトヲ得ズ

問 役員ニシテ工場長ヲ兼務シテ居ル者ガ退職セル場合退職金ノ支給ニ付役員ノ在職年數ノ役員退職金ト、社員ノ在職年數ノ社員退職金ト二本建トシテ計算シテ差支ナキヤ

答 法文上ハ差支ナシ

令第十五條 會社ハ役員ニ對シ臨時ノ給與ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

○則第十四條 令第十五條ノ規定ニ依リ役員ニ對スル臨時ノ給與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第八號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

令第十六條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外役員ニ對シ雜給與ヲ支給スルコトヲ得ズ

令第十七條 社員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ掲グル給與トス

一 基本給料 (會社ガ社員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ノ中基本ト爲ルベキ固
定給ヲ謂フ)

二 手当 (基本給料ヲ除クノ外會社ガ社員ニ對シ定期ニ若ハ職務ニ關シ一定ノ事實アル場合ニ
一定ノ金額、數量若ハ割合ニ依リ支給スル給與又ハ繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設
ヲ謂ケ)

三 賞與 (前二號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ社員ニ對シ定期ニ支給スル給與ヲ謂フ)

四 退職金 (會社ガ退職シタル社員ニ對シ支給スル給與又ハ之ニ相當スル金額ニシテ在職中ノ
社員ニ對シ前拂スルモノヲ謂フ)

五 臨時ノ給與 (前四號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ社員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ)

問 囑託(社員)ニ毎月支給スル囑託手当ハ基本給料ナリヤ手当ナリヤ

答 基本トナル固定給ノ場合ハ基本給料ト解スベキデアル

問 毎期末ニ一定ノ金額ニ依ラズ期末手当ヲ支給スル場合ハ手当、賞與ノ何レニ該當スルヤ

答 定期ニ支給スルモノ一定ノ金額、數量又ハ割合ニ依ラザルモノハ賞與デアル、從テ設問ノ
如キ場合ハ名稱ハ期末手当デアアルモ賞與ト看做スベキデアル

令第十八條 會社ハ法令ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ初任基本給料ヲ支給スルコトヲ得ズ但シ轉
職者(前職ニ於テ役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同様ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケ居リタル者
ヲ謂フ)又ハ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有スル者ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケテ爲ス初任基本給料ノ
支給ニ付テハ此ノ限リニ在ラズ

○則第十五條 令第十八條ノ限度ハ別表ニ掲グル金額ヲ月額(年俸者ニ付テハ年俸額ノ十二分ノ一、週給者ニ付テハ週給額ノ七分ノ三十、日給者ニ付テハ日給額ノ三十倍トス以下同ジ)トシタル金額トス但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額トス

一 特別ノ經歷若ハ技能又ハ特別ノ學歷ヲ有スル者ニ付其ノ初任基本給料ノ準則ニ關シ主務大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ金額

二 轉職者ニ付前職ニ於テ最後ニ受ケタル役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同様ノ性質ヲ有スル給與ノ月額ノ百分ノ百十二相當スル金額ガ別表ニ掲グル金額ヲ超ユルトキハ其ノ金額但シ前號ニ該當スル場合ヲ除ク

○則第十六條 前條第一號ノ規定ニ依リ特別ノ經歷若ハ技能又ハ特別ノ學歷ヲ有スル者ノ初任基本給料ノ準則ニ付主務大臣ノ承認ヲ受ケントスル會社ハ別表第九號様式ニ依ル承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第十六條ノ二 令第十八條ノ規定ニ依リ轉職者又ハ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有スル者ノ初任基本給料ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第九號ノ二様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

別	區分	標準	基本給料	月額
大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者			八十五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ八十五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付三圓ヲ加算シタル金額	

大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者			七十五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ七十五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付三圓ヲ加算シタル金額	
專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル專門學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者			七十圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ七十圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓五十錢ヲ加算シタル金額	
專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル專門學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者			六十圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ六十圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額	
實業學校令ニ依ル實業學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者			四十五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ四十五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額	
實業學校令ニ依ル實業學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者			四十二圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ四十二圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額	
中學校令ニ依ル中學校卒業者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者			四十二圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ四十二圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額	
高等女學校令ニ依ル高等女學校卒業者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者			三十三圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ三十三圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付一圓五十錢ヲ加算シタル金額	
國民學校令ニ依ル國民學校高等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者			二十四圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ二十四圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付一圓五十錢ヲ加算シタル金額	

經理統制令(社員給與)

國民學校令ニ依ル國民學校初等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者

二十一圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ二十一圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付一圓五十錢ヲ加算シタル金額

(許可方針)

轉職者又ハ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有スル社員ニ對スル法定ノ限度ヲ超ユル初任基本給料ノ支給ハ左ニ掲グル如キ例外トシテ認ムルヲ適當トスル場合ノ外原則トシテ之ヲ許可セザルコト一、從來自家營業ヲ營ミ居リタル者等轉職者ニ該當セザルモノニシテ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有シ其ノ初任基本給料ニ付法定ノ限度ヲ適用スルヲ不適當トスル場合

二、前職ニ於テ最後ニ受ケタル役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同様ノ性質ヲ有スル給與ガ其ノ社員ノ學歷、經歷、技能等ニ照シ著シク少額ニシテ法定ノ限度ヲ超エテ初任基本給料ヲ支給スルノ必要アリト認メラルル場合

三、前職ニ於テ手當賞與其ノ他役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同様ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケ居リタル者ニ付轉職後之等ノ給與ガ減額セラルル結果總收入ノ減額ヲ來サザル様法定ノ限度ヲ超エテ初任基本給料ヲ支給スルノ必要アリト認メラルル場合(昭和十五年十月二十二日會社經理審査委員會決定)

問 初任基本給料ニ關スル別表(前掲参照)ノ定ハ最高限度ナリヤ、又官公私立大學ヲ同一ニ取扱フベキヤ

答 最高限度ヲ規定シタルモノデアル、官公私立大學ノ差別ハナイ併シ會社ニ於テ官公私立大學ニ差等ヲ設クルコトハ勿論差支ナイ

問 學歷別ノ事務、技術ハ學習科目ニ依ルベキヤ又ハ會社ノ職務ニ依ルベキヤ

答 會社ノ職務ニ依リ區別シ右ニ依リ難キ場合ハ學習科目ニ依リ區別ス

問 乙種ノ實業學校、夜間學校(但シ專門學校令又ハ實業學校令ニ依ラザルモノ)、諸養成施設等ノ卒業者ハ初任給ノ限度ニ關スル別表中「之ニ準ズル學歷ヲ有スル者」ト看做シテ夫々其ノ資格ニ應ジ別表記載金額ノ範圍内ニ於テ初任給ヲ適宜決定シ差支ナキヤ、又ハ施行規則第十五條第一號ノ「特別ノ經歷若ハ技能又ハ特別ノ學歷ヲ有スル者」トシテ取扱ヒ準則ノ承認ヲ受クベキヤ

答 施行規則第十六條ノ規定ニ依リ準則ノ承認ヲ受クベキデアル

問 施行規則第十五條第二號ニ關シ大學卒業事務系統ノ者ハ初任給七十五圓デアルガ此ノ者ガ卒業後滿五年後ノ今日拔擢其ノ他ニ依リ月額一〇〇圓ノ給與ヲ受ケ居ル場合、此ノ者ヲ轉職採用スルトキハ別表ノ計算ニ依レバ $75 + (3 \times 5) = 90$ 圓 トナルガ此ノ者ノ轉職初任給ハ

- (一) 九〇圓ニ止ムルノ意ナリヤ
- (二) 一〇〇圓ニ止ムルノ意ナリヤ

答 前職ニ於テ最後ニ受ケタル基本給料ノ一割増ノ金額ガ別表ニ掲グル金額ヲ超ユルトキハ前者ノ金額(即チ最終ノ基本給料ノ百分ノ百十)迄ハ差支ナイ、從テ設問ノ如キ場合ハ一一〇圓迄差支ナイコトナル

問 施行規則第十五條第一項第二號中「之ト同様ノ性質ヲ有スル給與」トハ具體的ニ如何ナル

經理統制令(社員給與)

モノヲ謂フヤ

答 官公吏ノ俸給、個人企業、組合、公益法人等ニ使用セラレ居タル者ノ月給等ヲ謂ヒ手當又ハ賞與ノ性質ヲ有スルモノハ之ニ含マザルモノトス

問 轉職者ノ基本給料ハ本人ノ申立タル前職ノ基本給料ヲ基礎トシ之ヲ決定シテ差支ナキヤ答 本人ノ申立ノミニ依ルコトハ不可ナリ即チ會社ハ遺漏ナキ調査ヲ爲シ正確ナル前職ノ基本給料ヲ基礎トスベキデアル

令第十九條 會社ハ閣令ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ基本給料ノ増加支給(以下昇給ト稱ス)ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル昇給ニハ之ヲ適用セズ

- 一 入營シタル社員(陸軍衛生部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第四條第一項若ハ陸軍技術部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第七條第一項ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル將校又ハ海軍々醫科、藥劑科、主計科、造船科、造機科及造兵科士官現役期間特例第一條ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル士官ト爲リタル者ヲ含ム)召集セラレタル社員又ハ徵用セラレタル社員退營シ又ハ召集若ハ徵用ヲ解除セラレ會社ノ勤務ニ復シタル後一年以内ニ當該社員ニ付爲ス昇給
- 二 基本給料ガ閣令ノ定ムル金額ニ達セザル社員ニ付爲ス昇給ニシテ其ノ昇給後ノ基本給料ガ閣令ノ定ムル金額ヲ超エザルモノ

○則第十七條 令第十九條ノ限度ハ各昇給期ニ於ケル昇給該當者(令第十九條第二項各號ノ昇給

該當者ヲ除ク以下同ジ)ノ基本給料月額ノ昇給額ノ總額ニ付各昇給該當者ノ當該昇給直前ニ於ケル基本給料月額ニ各昇給該當者ノ直前ノ昇給日(初メテ昇給スル者ニ付テハ採用ノ日)後當該昇給日迄ニ經過シタル月數ノ十二分ノ一ヲ乘ジテ得タル金額ノ合計金額ニ平均昇給率百分ノ七ヲ乘ジテ得タル金額トス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ十五日ヲ超ユルトキハ之ヲ一月トシ十五日以下ナルトキハ之ヲ切捨ツ

○則第十七條ノ二 令第十九條第二項第二號ノ金額ハ別表ニ掲グル金額ヲ月額トシタル金額トス

○則第十八條 令第十九條ノ規定ニ依リ社員ノ基本給料ノ増加支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

(許可方針)

法定ノ限度ヲ超ユル昇給ハ原則トシテ之ヲ許可セザルコト

但シ

- (一) 基本給料ガ所在地域、事業種目ノ類似スル他ノ會社ノ一般水準ニ比シ劣レル會社ガ之ヲ一般水準迄引上グル爲ノ昇給ハ之ヲ許可スルコト(從來基本給料ガ過少ニシテ一般的手當、賞與ガ過大ナリシ會社ガ本令施行ノ結果減額セラルベキ一般的手當、賞與ノ一部ヲ基本給料ニ組入レントスル場合、初任基本給料ノ改訂ニ伴ヒ古參社員ノ基本給料ヲ改訂セントスル場合ヲ含ム)
- (二) 左ニ掲グル場合ノ昇給ハ原則トシテ許可スルコト

經理統制令(社員給與)

(イ) 應召者又ハ入營者(短期現役士官ヲ含ム)ニシテ應召又ハ入營中昇給ヲ停止セラレ居リタル者ニ付召集解除又ハ除隊ニ依リ復務シタル後ノ最初ノ昇給

(ロ) 社員ガ當該會社ニ勤務中新ナル學歷ヲ取得セル場合ニ於テ其ノ新學歷ニ付施行規則ノ別表ニ定メラルル金額迄其ノ社員ノ基本給料ヲ引上グル爲メノ昇給

(三) 高級社員ト下級社員トニ付昇給期ヲ異ニスル會社ニ於テ其ノ昇給金額ノ合計ガ一年(昭和十五年十月二十日ヲ起算點トス)ヲ通ジテ則第十七條ノ限度ヲ超エザル場合ニ於テハ之ヲ許可スルコト此ノ場合ニ於テハ當該一年間ニ於ケル昇給期毎ニ昇給實績ノ届出ヲ爲サシムルコト

(四) 會社ノ社員構成ガ比較的下級ノ社員ヲ主トシテ昇給率ニ關シ特別ノ取扱ヲ爲スヲ必要ト認メラルルモノニ關シテハ特別ノ考慮ヲ爲スコト(昭和十五年十二月十日)
會社經理審査委員會決定

問 令第十九條ニ所謂昇給該當者トハ定期昇給經過期間ヲ經テ昇給スル者ノ外期間滿了セザルモ特ニ昇給セシムル者ヲモ含ムヤ

答 見解ノ通デアル

問 社員全部ノ基本給料ニ七分ヲ乘ジテ得タル額例ヘバ社員百人ニシテ平均給料百圓トスレバ基本給料壹萬圓トナル、之ヲ定期昇給ニ達シタル者七十人ニ對シ適當ニ昇給ヲ與ヘルコトハ不可ナリヤ

答 不可ナリ、七十人ノミ昇給セシムルモノトスレバ其ノ七十人ノミニ付施行規則第十七條ノ計算ヲナスベキデアル

問 一昇給期ニ於ケル昇給限度不要許可額ノ一部ヲ次期昇給期ニ繰入レ融通シ得ルヤ

答 繰越融通ハ不可ナリ

問 社員基本給料ヲ法定ノ限度内ニ於テ隨時昇給セシムルコトヲ得ルヤ

答 差支ナシ

問 昇給期日ノ變更(四月、十月トアルヲ五月、十一月トスル如キ)ハ許可申請若ハ届出ヲ要スルヤ

答 昇給期日ノ變更ハ許可、届出ヲ要セズ自由ナリ

問 基本給料低ク賞與ヲ以テ調節シ居リタル場合、賞與ヲ基本給料ニ組入レ昇給スルニハ法定率以上ニテモ許可サルルヤ

答 從來ノ基本給料ガ一般水準ヨリ低ク賞與ニ依リ調節シ居タル場合其ノ賞與ノ一部ヲ基本給料ニ組替ヘル爲ナラバ特別ニ許可セラルルコトアルベシ

問 社員ニ現在支給シ居ル戰時手當(本給ノ一割)ヲ本給ニ繰入レル場合許可ヲ要スルヤ

答 手當ヲ基本給料ニ繰入レルコトハ昇給トナルニ付施行規則第十七條ノ限度ヲ超ユル場合ニハ許可ヲ要ス

問 命令ノ定ムル限度ヲ超ヘテ昇給セシメントスル場合ハ如何ナル手續ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキヤ

答 特別昇給ノ準則ヲ設定シ之ガ許可ヲ經レバ足ルト思料セラルルモ如何
施行規則第十八條ノ規定ニ基キ許可ヲ受クベキデアル

經理統制令(社員給與)

準則ヲ設定シ許可ヲ受クルト謂フガ如キコトハ出來ヌ

一四〇

令第二十條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ左ノ各號ニ掲グル手當ヲ支給スルコトヲ得ズ

- 一 在勤手當、僻地手當其ノ他特殊地域ニ在勤スルニ因リ支給スル手當
- 二 危険手當其ノ他生命、健康等ニ關シ危険又ハ有害ナル特定ノ勤務ニ従事スルニ因リ支給スル手當
- 三 居殘手當、宿直手當其ノ他特定ノ追加勤務ニ對シ支給スル手當
- 四 閑令ヲ以テ定ムル家族手當
- 五 食事手當又ハ被服手當
- 六 歩合ニ依リ支給スル手當
- 七 現物ヲ以テ支給スル手當
- 八 其ノ他閑令ヲ以テ定ムル手當

○則第十九條 令第二十條第四號ノ家族手當ハ社員ニ對シ其ノ扶養家族一人ニ付月五圓ノ割合ニ依リ計算シタル金額ヲ超エザル金額ニ依リ支給スルモノニ限ル

前項ノ扶養家族ハ左ニ掲グル者ニシテ主トシテ當該社員ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ヲ謂フ

- 一 配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム)
- 二 滿六十歳以上ノ直系卑屬ニシテ本人ト同一戸籍内ニ在ル者

- 三 滿十八歳未滿ノ直系卑屬及弟妹ニシテ本人ト同一戸籍内ニ在ル者
- 四 不具發疾者ニシテ本人ト同一戸籍内ニ在ル者

○則第二十條 令第二十條第八號ノ手當ハ左ノ各號ニ掲グル手當トス

- 一 傷病手當
- 二 休職者ニ對スル手當
- 三 應召者又ハ入營者ニ對スル手當
- 四 集束手當、出札手當等金錢取扱ニ對スル手當
- 五 特殊地域通勤手當
- 六 交通業ニ従事スル社員ニ對スル無事故手當又ハ乗務手當
- 七 電力供給業又ハ瓦斯供給業ニ従事スル社員ニ對スル電力又ハ瓦斯ノ盗用防止手當
- 八 保険料ノ補給
- 九 繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設又ハ便益
- 十 其ノ他前各號ニ準ズルモノ

問 海外(外國)在勤者ニ在勤手當ノ外ニ妻子手當ヲ支給スル場合ハ在勤手當ト同様ニ認メラルヤ

答 在勤手當トシテ認メラル

問 當社ニ於テ支給スル

(一) 社員ノ役手當

經理統制令(社員給與)

(一) 社宅料(一部)ノ社員ニ對シ現物貸與、他ノ社員ニ對シ金錢ヲ以テスル場合)

(二) 現場手當

(三) 技術者實習手當

ハ令第二十條ノ特殊手當又ハ令第二十二條ノ一般的手當ノ何レニ該當スルヤ

答 必ズシモ一概ニ斷定スルコトハ困難デアリ個々ノ場合ニ於ケル手當ノ性質如何ニ依リ決定スルノ外ナキモ、一般的ニ謂ヘバ(一)及(四)ハ共ニ令第二十條各號ニ該當セズ令第二十一條ノ手當ト認メラル、(二)ハ社宅ヲ貸與シタルモノハ令第二十條第七號ニ該當シ金錢ヲ以テ支給スル所謂住宅料ハ令第二十一條ノ一般的手當デアアル、(三)ハ令第二十條第一號又ハ第三號ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤニ依ル、即チ特殊地域ニ在ル現場ニ勤務スル者ニ對スル手當ナラバ令第二十條第一號ニ該當シ、現場ニ勤務スルコトガ本社又ハ支社ニ比シ勤務時間永ク即チ追加勤務トナレバ之ニ對スル手當トシテ令第二十條第三號ニ該當スル、要スルニ具體的事例ニ依リ決定スルノ外ナシ

問 非番出勤、休日出勤、早出等ニ對スル手當ハ追加勤務ニ對スル手當ニ入ルヤ

答 見解ノ通デアアル

問 食事、被服等ノ現物給與ハ手當トシテ準則主義ニ依ルベキヤ

答 準則ニ依ル(令第二十條ノ手當ハ總テ準則主義ニ依ル)

問 販賣員ノ賣上手數料(例ヘバ自動車一臺ニ付百圓ノ如キ)ハ令第二十條第六號ノ「歩合ニ依ル手當」ニ該當スルヤ

答 見解ノ通デアアル

問 令第二十條各號ニ掲グル手當以外ノ手當ヲ新設スルニ付テハ許可ヲ要セザルヤ

答 許可ヲ要セズ

問 危険區域ニ在勤スル職員ヲ傷害保險ニ加入セシメ其ノ保險料ヲ會社ニ於テ負擔シ、保險事故ノ際該保險金ヲ社員ニ給スル場合其ノ保險料ハ社員ニ對スル給與トナルヤ又ハ給與以外ノ見舞金トナルヤ

答 見舞金デアリ給與ニ非ズ

問 社員ノ旅行會又ハ之ニ類似ノ會ニ對スル補助ハ福利施設ナリヤ

答 福利施設デアアル

令第二十一條 會社ガ毎賞與期間ニ付社員ニ對シ支給スル賞與ノ總額ト前條各號ニ掲グル手當以外ノ手當ノ當該賞與期間中ニ於ケル支給總額トノ合計金額ハ關令ノ定ムル限度ヲ超ユル事ヲ得ズ但シ關令ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項但書ノ規定ニ依リ前項ノ限度ヲ超エテ支給スル金額ニ付テハ會社ハ之ヲ經費トシテ經理スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第一項ノ賞與期間ハ關令ヲ以テ之ヲ定ム

○則第二十一條 令第二十一條第一項ノ限度ハ會社ガ當該賞與期間ニ於テ社員ニ支給シタル基本給料ノ合計金額ノ四分ノ三ニ相當スル金額トス

○則第二十二條 令第二十一條第一項ノ賞與期間ハ各事業年度ノ期間トス但シ會社ガ之ト異ル期

經理統制令(社員給與)

間ヲ定メテ主務大臣ニ届出デタルトキハ其ノ期間ニ依ル

○則第二十三條 前條但書ノ届出ハ本令施行ノ際第三章ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ニ在リテハ本令施行後三十日以内ニ、其ノ他ノ會社ニ在リテハ令第三章ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル後三十日以内ニ別表第十一號様式ニ依ル届書ヲ主務大臣ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

會社ハ前條ノ賞與期間ヲ變更セントスルトキハ別表第十一號様式ニ依ル届書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第二十四條 令第二十一條第一項但書ノ場合ハ左ノ各號ニ掲グル場合トス

一 當該賞與及手當ノ合計金額中令第二十一條第一項ノ限度ヲ超ユル部分ヲ左ノ方法ニ依リ支給スルトキ但シ其ノ超過金額ハ當該賞與期間中ニ於ケル基本給料ノ支給總額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

(甲) 國債證券貯蓄債券若ハ報國債券ヲ以テ支給シ又ハ郵便貯金銀行ヘノ預金若ハ信託會社ヘノ金錢信託ト爲サシメ當該會社ニ於テ當該國債證券貯蓄債券若ハ報國債券又ハ當該郵便貯金銀行預金若ハ金錢信託ノ通帳若ハ證書ヲ本人又ハ家族病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ヲ生ジタル場合ノ外當該社員ノ退職ニ至ル迄保管スルモノ

(乙) 當該會社ニ於ケル國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄(國債證券、貯蓄債券若ハ報國債券ノ買入又ハ郵便貯金銀行ヘノ預金若ハ信託會社ヘノ金錢信託ニシテ組合規約ノ定ムル所ニ依リ當該國債證券、貯蓄債券若ハ報國債券ノ賣却又ハ當該郵便貯金、銀行預金若ハ信託シタル金錢ノ拂戻ニ付組合長ノ承認ヲ要スルモノニ限ル)ト爲サシムルモノ

(丙) (甲)又ハ(乙)ニ規定スルモノノ外主務大臣ノ承認ヲ受ケタル方法

二 主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ

前項第一號(丙)ノ規定ニ依リ主務大臣ノ承認ヲ受ケントスル會社ハ別表第十二號様式ニ依ル承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第二十五條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十三號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第二十六條 令第二十一條第二項但書ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十四號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

(許可方針)

●(一) 施行規則第二十四條第一項第二號ノ許可ハ原則トシテ之ヲ爲サザルコト

但シ昭和十五年中ニ終了スル賞與期間ノ一般的手當及賞與ノ合計金額ガ令第二十一條ノ制限ニ依ルトキハ前年同期ニ比シ減少ヲ來スベキ場合ハ前年同期ノ率ヲ限度トシテ許可スルコト

(D) 令第二十一條第二項ノ許可ハ原則トシテ之ヲ爲サザルコト

但シ會社方創業當初ニシテ比較的高給ナル社員ガ多數占ムル爲基本給料ノ九箇月分ヲ超ユル一般の手當及賞與ノ支給ヲ必要トスルニ拘ラズ會社方缺損ノ状態ニアル場合ノ如キ例外ノ場合ハ許可スルコトアルベキコト(昭和十五年十月二十二日
會社經理總務委員會決定)

●(二) 施行規則第二十四條第一項第二號ノ許可ニ關シ、昭和十六年一月一日以後同年六月末

經理統制令(社員給與)

日以前ニ終了スル賞與期間ノ一般的手當及賞與ノ合計金額ガ令第二十一條第一項ノ制限ニ依ルトキハ前年同期ニ比シ減少ヲ來スベキ場合ニ於テハ前年同期ノ率(前年同期ニ於ケル一般の手當及賞與ノ合計金額ノ基本給料總額ニ對スル割合)ヲ限度トシテ之ヲ許可スルコト但シ右ノ許可ニ際シテハ原則トシテ其ノ支給總額ノ五分ノ一ニ相當スル金額ニ付キ施行規則第二十四條第一項ニ掲グル支給方法ニ依ラシムベキ條件ヲ附スルコト
前項ノ方針ハ當該賞與期間終了以前ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケテ施行規則第十七條ノ限度ヲ超エテ基本給料ノ一般の改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ニ依ツテ修正ノ上之ヲ準用スルモノトスルコト

(二) 施行規則第二十四條第一項第一號(丙)ノ承認

(1) 支給額ガ安全ニ保管セラレ購買力ノ散佚ヲ來サザル限リハ原則トシテ承認スルコト
例ヘバ左ニ掲グル如キ場合ニシテ通帳其ノ他ノ證書ノ保管ニ關シ當該社員退職ニ至ル迄本人ノ自由處分ヲ爲サシメザル措置ヲ講ズル場合ハ承認スルコト

(イ) 銀行定期預金トスル場合(昭和十六年九月十七日改正(甲)支給方法トナル)

(ロ) 金銭信託トスル場合(同上)

(ハ) 生命保險ノ掛金ニ充當スル場合

(2) 本人又ハ其ノ家族ノ病氣災害等會社ガ眞ニ已ムヲ得ザルモノト認メタル場合ニ於テ現金ノ拂出證書ノ交付等ノ途ヲ開クコトハ之ヲ承認スルコト(昭和十五年十二月十日
會社整理審査委員會決定)

問 許可ヲ要セズシテ支給シ得ル賞與ノ限度ハ如何

答 社員賞與支給ノ限度ハ施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ其ノ賞與期間中ニ支給シタル基本給料ノ四分ノ三即チ年九ヶ月分迄ハ現金ヲ以テ自由ニ支給シ得ル

國債ヲ以テ支給スル場合、郵便貯金、銀行預金等ニ爲サシムル場合、國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル貯蓄ト爲サシムル場合、其ノ他主務大臣ノ承認ヲ受ケタル方法ニ依ル場合等、即チ施行規則第二十四條第一項(甲)、(乙)、(丙)ノ方法ニ依リ賞與ヲ支給スル場合ハ利益金處分ニ依ルコトヲ條件トシテ年九ヶ月分ヲ超エテ尙年六ヶ月分(合計十五ヶ月分)迄ノ賞與ヲ支給シ得ル

右ノ國債等ヲ以テ賞與ヲ支給スル場合ハ夫々證券、通帳等ヲ會社ニ於テ保管スベキ條件ガ附サレテ居リ、國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル貯蓄ニ付テモ夫々條件ガ附サレテキル(施行規則第二十四條參照)

問 當社ハ物價手當ヲ毎月給料日ニ社員ノ階級ニ應ジ最高月四十圓ヨリ最低月十圓ヲ支給シテ居リ今期中ノ支給總額ハ基本給料ニ對シ三ヶ月分ニ該當シ居レリ、此ノ場合現金ヲ以テ支給シ得ル賞與ノ限度ハ基本給料ノ年九ヶ月分ヨリ右ノ三ヶ月分ヲ控除シタ六ヶ月分トナルト思料セラルルガ如何

答 見解ノ通デアル

問 施行規則第一項第二號ノ社員賞與支給ノ許可ヲ受ケタル場合年九ヶ月分ヲ超ユル金額ニ付テハ之ヲ損金トシテ經理シ差支ナキヤ

答 社員賞與ノ支給ノ許可ト社員賞與ノ經費支出ノ許可ハ各々別個デアリ、假令社員賞與支

經理統制令(社員給與)

給ノ許可アリタル場合ト雖モ施行規則第二十一條ノ規定ニ依ル限度ヲ超過スル金額ニ付テハ施行規則第二十六條ノ規定ニ依ル社員賞與支出ノ許可ナキ限リ經費トシテ經理スルコトヲ得ズ

令第二十二條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ退職金ヲ支給スルコトヲ得ズ

(許可方針)

一、役員退職金ノ一部國債支給

役員退職金ノ支給ニ付テハ其ノ支給總額中一部ヲ國債證券、貯蓄證券又ハ報國債券ヲ以テ支給セシムルモノトスルコト

二、會社合併ノ場合ニ於ケル引繼役員又ハ引繼社員ニ對スル退職金ノ新會社ニ於ケル保管

會社設立合併又ハ吸收合併ノ場合ニ於テ合併ニ因リ解散スル會社ノ役員又ハ社員ニシテ合併ニ因リ設立セラレ又ハ合併後存續スル會社ニ引繼ガルル者ニ對シ退職金ヲ支給スル場合

ニ於テハ分類所得稅ヲ控除シタル金額ヲ施行規則第二十四條第一項第一號ニ掲グル支給方法ニ依ラシムルモノトシ其ノ引繼後ハ新會社ニ於テ同號(甲)(乙)又ハ(丙)ノ保管方法ヲ講

ゼシムルモノトスルコト(昭和十六年十一月十四日
會社經理審査委員會決定)

令第二十三條 會社ハ社員ノ全部若ハ大部分又ハ社員數當時三十人以上ヲ有スル事務所、工場若ハ事業場ニ付其ノ所屬社員ノ全部又ハ大部分ニ對シ時期ヲ同ジクシテ臨時ノ給與ヲ支給セント

スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

○則第二十七條 令第二十三條ノ規定ニ依ル社員ニ對スル臨時ノ給與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十五號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

令第二十四條 本令施行ノ際本章ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ本令施行ノ際ニ於ケル役員雜給與、第二十條各號ニ掲グル社員手當及社員退職金ノ準則ヲ主務大臣ニ報告スベシ

第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社ニシテ本令施行後第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタルモノハ役員雜給與、第二十條各號ニ掲グル社員手當及社員退職金ノ準則ニ付主務大臣ノ承認ヲ受クベシ

○則第二十八條 令第二十四條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ本令施行後三十日以内ニ別表第十六號様式、第十七號様式又ハ第十八號様式ニ依ル役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第二十九條 令第二十四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ別表第十六號様式、第十七號様式又ハ第十八號様式ニ依ル役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

令第二十五條 會社ハ役員雜給與、第二十條各號ニ掲グル社員手當又ハ社員退職金ノ準則ヲ制定シ又ハ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

○則第三十條 令第二十五條ノ規定ニ依リ役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ制定又

ハ變更ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十六號様式、第十七號様式又ハ第十八號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

令第二十六條 主務大臣ハ役員又ハ社員ノ給與及其ノ支給方法ノ適正ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ役員若ハ社員ノ給與ノ金額若ハ支給方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ役員雜給與、役員退職金、第二十條各號ニ掲グル社員手當若ハ社員退職金ノ準則ノ制定、變更若ハ廢止ヲ命ズルコトヲ得

令第二十七條 削 除

令第二十八條 本章ノ規定ハ裁判所ガ決定ヲ以テ定メタル報酬ニハ之ヲ適用セズ

第四章 經費及資金

令第二十九條 昭和十六年九月十六日(朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年九月三十日)現在ニ於テ資本金百萬圓以上ノ會社(第二項後段ノ會社ヲ除ク)ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ機密費、交際費、接待費又ハ廣告宣傳費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下機密費等ト稱ス)ノ基準月額ヲ主務大臣ニ報告スベシ

昭和十六年九月十七日(朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年十月一日)以後設立(合併ニ因リ設立ヲ含ム以下本項ニ於テ同ジ)セラレタル資本金百萬圓以上ノ會社若ハ資本増加(合併ニ因リ資本増加ヲ含ム以下本項ニ於テ同ジ)ニ因リ資本金百萬圓以上ト爲リタル會社又ハ同年九月十六日(朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年九月三十日)以前設立セラレタル資本金百萬圓以上ノ會社若ハ資本増加ニ因リ資本金百萬圓以上ト爲リタル會社ニシテ同日以前其ノ設立若ハ資本増加後決算確定シタル事業年度ナキ會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ機密費等ノ基準月額ヲ定メ主務大臣ノ承認ヲ受クベシ

資本金百萬圓以上ノ會社ハ機密費等ノ基準月額ヲ増額セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ資本金百萬圓以上ノ會社ニ對シ機密費等ノ基準月額ヲ減額スベキコトヲ命ズルコトヲ得

資本金百萬圓以上ノ會社ハ毎事業年度ニ於テ支出セントスル機密費等ノ合計金額ガ前四項ノ規定ニ依リ報告シ、承認ヲ受ケ、増額シ又ハ減額シタル基準月額ニ當該事業年度ノ月數(曆ニ從ヒ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月ニ切上グ)ヲ乘ジテ得ベキ金額ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前五項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニハ之ヲ適用セズ

令第三十一條 令第二十九條第一項ノ基準月額ハ昭和十六年九月十六日以前最終ニ決算確定シタル二事業年度(同日以前決算確定シタル事業年度二以上ナキ會社ニ在リテハ一事業年度)ニ於テ支出シタル機密費等ノ合計金額ヲ其ノ二事業年度(同日以前決算確定シタル事業年度二以上ナキ會社ニ在リテハ一事業年度)ノ月數ヲ以テ除シ得タル金額トス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

令第二十九條第一項ノ規定ニ依リ機密費等ノ基準月額ヲ主務大臣ニ報告スベキ會社ハ昭和十六年十月十六日迄ニ別表第十九號様式ニ依ル報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第三十二條 令第二十九條第二項ノ規定ニ依リ機密費等ノ基準月額ニ付主務大臣ノ承認ヲ受クベキ會社ハ昭和十六年九月十七日以後設立セラレタル會社又ハ合併ニ因リ設立セラレタル會社ニ在リテハ其ノ設立又ハ合併後、資本増加又ハ合併ニ因リ資本金百萬圓以上ト爲リタル會社ニ在リテハ其ノ資本増加又ハ合併後三十日以内ニ、同月十六日以前設立セラレタル會社若ハ合併ニ因リ設立セラレタル會社又ハ資本増加若ハ合併ニ因リ資本金百萬圓以上ト爲リタル會社ニ在リテハ其ノ設立後、資本増加後又ハ合併後決算確定シタル事業年度ナキ會社ニ在リテハ同年十月十六日迄ニ別表第二十號様式ニ依ル承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第三十三條 令第二十九條第三項ノ規定ニ依リ機密費等ノ基準月額ノ増額ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第三十四條 令第二十九條第五項ノ規定ニ依リ同項ニ規定スル金額ヲ超ユル機密費等ノ支出ヲ爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十一號様式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

(許可方針)

一、令第二十九條第二項ノ機密費等ノ基準月額ノ承認ハ營業規模、事業種目ノ類似スル他ノ會社ノ一般水準ヲ標準トシ當該會社ノ所在地、支店出張所等ノ狀況、營業成績及事業經營ノ特殊性ヲ勘案シテ適當ニ認メラルル場合ニ於テハ合併前ノ各會社ノ基準月額ヲ

モ斟酌シテ適當ト認メラルル金額ヲ限度トシテ承認スルコト

二、令第二十九條第三項ノ機密費等ノ基準月額ノ増額ノ許可ハ原則トシテ之ヲ爲サザルコト但左ニ掲グルガ如キ眞ニ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ之ヲ許可スルコト

(イ) 基準月額ガ營業規模事業種目ノ類似スル他ノ會社ノ一般水準ヲ標準トシ、當該會社ノ所在地、支店出張所等ノ狀況、營業成績、營業規模擴張ノ程度及事業經營ノ特殊性ヲ勘案シテ適當ト認メラルル金額ニ比シ著シク少額ナリト認メラルル場合ニシテ且増額申請ノ事由眞ニ已ムヲ得ザルモノト認メラルル場合

(ロ) 基準月額算定ノ基準タル事業年度ニ於テ特別ノ事由ニ依リ機密費等ノ基準月額ヲ特ニ減少シタルコトガ過去數期間ノ實績ニ徴シ明カナル場合ニ於テ過去ノ平均實績ノ範圍内ニ於テ基準月額ヲ増額セントスル場合

三、令第二十九條第五項ノ基準月額ニ依ル金額ヲ超ユル支出ノ許可ハ原則トシテ之ヲ爲サザルコト但シ當該事業年度ノ支出ガ總テ緊要ナルモノニシテ簡減ノ餘地ナキ會社ガ基準月額ニ依ル金額ヲ超エテ必要ナル廣告宣傳費ノ支出ヲ爲サントスル場合ノ如ク眞ニ已ムヲ得ザル事由アリト認メラルル場合ニ於テ許可スルコトアルベキコト (昭和十六年十一月十四日 會社經理審判委員會決定)

問 令第二十九條ノ機密費、交際費、接待費、廣告宣傳費等ハ夫々各別ニ規制ヲ受クルヤ

答 各別デナク其ノ合計金額ニ付規制ヲ受クルモノデアル

問 令第二十九條ノ機密費、交際費、接待費、廣告宣傳費等ノ區分ハ如何

答 一應ノ標準ヲ示セバ左ノ通りデアル

經理統制令(經費)

機密費トハ會社ノ業務遂行ニ關シテノ支出ニシテ業務上ノ機密保持ノ爲其ノ使途ノ糾明ヲ爲スコトナク支出スルコトヲ認メラレ會社ノ役員又ハ高級社員ニ其ノ使途ヲ一任セララルル經費(但シ役員又ハ社員ニ對シテ渡切ヲ以テ支給セラルルモノハ給與トシテ別ノ制限ヲ受クル)

交際費トハ會社遂行ニ關シテ外部トノ連絡上又ハ社交上必要ナル經費デアツテ例ヘバ同業俱樂部會費、同業者會合費、會食費、謝禮費、得意先ノ宴會催物等ニ對スル密附金、病氣見舞費等ガ含マルル

接待費トハ會社ノ業務遂行ニ關スル招客、又ハ來客ノ接待費並ニ業務遂行上ノ披露、案内等ニ要スル經費デアル

廣告宣傳費トハ廣告、宣傳又ハ商品ノ陳列等ノ方法ニ依リ會社ノ營業ヲ周知セシムル爲ノ經費デアツテ例ヘバ新聞雜誌等ノ廣告料、パンフレット、ビラ等ノ印刷及頒布費廣告用マツチ、カレンダー、手帳等ニ關スル費用、商品陳列費、看板及裝飾費、共進會、展覽會等ニ對スル商品出品費等デアル

令第二十九條ノ二 資本金百萬圓以上ノ會社ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閉令ノ定ムル所ニ從ヒ每事業年度ニ於ケル密附金其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下密附金等ト稱ス)ノ豫定額ヲ主務大臣ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル會社ハ其ノ報告シタル金額ヲ超エテ當該事業年度ニ於テ密附金ヲ支出セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前二項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニハ之ヲ適用セズ

令第三十四條ノ二 令第二十九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ密附金等ノ豫定額ヲ主務大臣ニ報告スベキ會社ハ每事業年度開始ノ三十日前迄(設立又ハ合併ニ因ル設立後最初ノ事業年度ニ在リテハ其ノ事業年度開始後三十日以内)ニ別表第二十二號様式ニ依リ報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ但シ昭和十六年八月十九日以後同年十一月十六日以前ニ開始スル事業年度(同年九月十七日以後ノ設立又ハ合併ニ因ル設立後最初ノ事業年度ヲ除ク)ニ關スル報告書ハ同年十月十六日迄ニ之ヲ提出スベシ

會社ガ前項ノ報告ヲ爲シタル後當該事業年度終了前他ノ會社ヲ合併シタル爲密附金等ノ豫定額ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テ合併後三十日以内ニ變更シタル豫定額ヲ別表第二十二號様式ニ依リ主務大臣ニ報告シタルトキハ其ノ變更シタル豫定額ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ報告シタル金額ト看做ス

令第三十四條ノ三 令第二十九條ノ二第二項ノ規定ニ依リ報告額ヲ超ユル密附金等ノ支出ヲ爲スニ付主務大臣ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十三號様式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

令第二十九條ノ三 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ機密費等、密附金等、福利施設費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム)又ハ研究費其ノ他之ト同様ノ性質ヲ有スル支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム)ノ金額又ハ其ノ經理ノ方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

○工場事業場ニ於ケル福利施設費ニ關スル件(昭和十五年十二月十四日厚生省労働局長通牒)

十一月二十日會社經理統制令ノ施行ニ依リ資本金百萬圓以上ノ會社(特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ヲ除ク)ノ經營スル工場事業場ニ於ケル福利施設費ハ同令第二十九條ノ規定ノ適用ヲ受クルコトト相成候處右ハ會社ノ支出(利益金處分ニ依ルモノヲ含ム)中不當ナルモノヲ抑制シ以テ會社經理ノ適正ヲ期セントスルモノニシテ健全ナル福利施設ヲ抑制スル趣旨ニ非ザルヲ以テ之ヲ周知徹底セシメ本令實施ニ依リ工場事業場ニ於ケル福利施設ノ進展ヲ阻害シ延イテ國家勞働力ノ保全増強並ニ作業能率ノ増進上支障ヲ來スガ如キコトナキ様事業主ノ指導ニ力ヲ致サレ度尙同令第二十九條第一項第三號ニ定ムル福利施設費ノ範圍ニ關シ同施行規則第三十條ノ規定ニ依リ本月四日内閣告示第十七號ヲ以テ指走相成タルハ特定ノ施設ニ付其ノ規模及經費ノ限度ヲ定メ手續ノ簡易ヲ圖ラントスル趣旨ニ出デタルモノニシテ其ノ限度ヲ超ユルモノト雖モ妥當ナルモノニ付テハ之ヲ抑制セントスル趣旨ニ非ザルヲ以テ左記各項御留意ノ上之ガ指導ニ付特段ノ御配慮相成度

追テ本件ニ關シテハ内閣法制局並ニ大藏省ト打合濟ニ付爲念

記

一 法令ニ定アル施設ニ關スル支出ニ付テハ

(一) 健康保險、職員健康保險ニ於ケル保險料ノ負擔、退職手當積立金及準備積立金又ハ青年學校ニ要スル經費ニ付テハ當該事業年度ニ於ケル妥當ナル豫定額ヲ算出シ令第二十九條第一項第三號ノ施設費(以下第三號ノ施設費ト稱ス)トシテ報告スルコト

(二) 工場法其ノ他ノ法令ニ依リ義務ヲ命ゼラレタル扶助危害豫防衛生又ハ技能者養成等ニ關スル支出ハ本令ニ定ムル福利施設ニ非ザルヲ以テ本令ニ依リ報告ヲ要セザルコト、但シ工場危害豫防及衛生規則第二十九條ニ定ムル浴場ニ要スル經費ハ告示ノ限度ヲ超エザルトキハ施行規則第三十一條第一項第二號ノ支出トシテ告示ノ限度ヲ超ユルトキハ令第二十九條第一項第四號ノ施設費(以下第四號ノ施設費ト稱ス)トシテ報告ヲ要スルコト

二 保健衛生施設ニ關スル支出ニ付テハ

- (一) 告示ニ定ムル福利施設ハ勞務者ヲ對象トスルモノナルヲ以テ社員ノミヲ對象トスル施設ヲ設ケンストスルトキハ第四號ノ施設トシテ取扱フモノナルコト
- (二) 臨時資金調整法ト本令ハ夫々適用セラルルモノナルヲ以テ本令ノ手續ヲ經タル支出ト雖モ同法ノ適用ヲ受クルモノニ付テハ許可ヲ受クルコトヲ要スルト共ニ同法ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ト雖モ尙本令ノ手續ヲ爲スコトヲ要スルモノナルコト
- (三) 第四號ノ施設費ニ付テモ從來指導勸奨セルモノハ經費ニシテ妥當ナル限り本令ニ依リ抑制スベキ趣旨ニ非ザルコト
- (四) 各施設ニ付其ノ建設費(若ハ建築費)又ハ初度調辨費ガ告示ニ定ムル額ヲ超ユルモ其ノ合計額ヲ超エザルトキハ仍第三號ノ施設費トシテ取扱フベキモノナルコト
- (五) 各施設ノ維持管理並ニ給食費ハ會社ノ經營スル施設ニ要スル經費ナルヲ以テ之ヲ他ニ委託シ又ハ請負ハシムル場合ノ如キハ第四號ノ施設ナルコト
- (六) 給食費ノ範圍ハ炊事場及寄宿舎ニ付テハ事業主ノ負擔スル經費ニシテ貸金統制令ニ依

經理統制令(經費)

リ賃金ノ一部タルモノヲ除キタル残額、保育所ニ付テハ乳幼児ニ對スル牛乳菓子等ノ經費ニシテ事業主ノ負擔スルモノナルコト

(七) 告示備考四、五、八及九ハ當該金額算出ノ基礎ヲ示シタルモノナルヲ以テ告示ノ金額ノ範圍内ナルトキハ總テ第三號ノ施設費ナルコト從ツテ之ニ該當セザル設置ヲ設ケ又ハ告示ノ金額ノ範圍ヲ超ユルトキハ第四號ノ施設費トシテ取扱フベキモノナルコト

(八) 告示備考三後段ハ既存設備ノ見積價格ヲ現在ニ於ケル賣買ノ見積價格ニ依リ計算セントスル趣旨ナルヲ以テ其ノ見積價格著シク高額ニシテ告示ニ定ムル金額ヨリ控除シタル殘額ヲ以テシテハ其ノ施設困難ナルトキハ第四號ノ施設トシテ取扱フベキモノナルコト

(九) 建物ノ敷地購入費ニ付テハ限度ヲ設ケザルモ備考六ニ依リ本表ニ掲グル施設ノ經費トシテ報告スベキモノナルコト

(十) 備考八ノ初度調辦費ニ掲グル設備以外ノモノニ付經費ヲ支出シタルトキハ維持管理費トシテ取扱フモノナルコト

(十一) 病院ニ於ケル醫師、寄宿舎ニ於ケル舍監等ノ如ク其ノ施設ノ専務職員ニ要スル經費ハ備考九但書前段ニ依リ維持管理費トシテ報告スベキモノナルモ會社ノ勞務係員ニ要スル經費ノ如キハ令第二十九條ノ報告ヲ要セザルモノナルコト

(十二) 地代又ハ家賃ニ付テモ第三號ノ施設ニ要スルモノハ備考九但書後段ニ依リ維持管理費トシテ報告スベキモノナルコト

(十三) 既存ノ施設ニシテ告示ニ掲グル範圍ヲ超ユル場合ニ於テハ設備ノ縮少ヲ命ズベキ限

リニ非ラザルモ其ノ維持管理費ニ付テハ第四號ノ施設費トシテ取扱フベキモノナルコト

三、福利施設ニ當リテハ告示ニ定ムル施設タルト否トヲ問ハズ努メテ實用ヲ旨トシテ必要妥當ナル範圍ヲ超エザル様指導スルコト

四、産業報國會同地方組織及同中央組織ニ對スル支拂ハ令第二十九條ノ支出ニ非ザルモノナルコト

五、本令施行ノ主務官廳トハ常時緊要ナル連繫ヲ保チ適正ナル福利施設ノ綜合的進展ニ努ムルコト

○工場事業場ニ於ケル福利施設費ニ關スル件(昭和十六年十月二十日厚生省労働局長通牒)

昭和十六年九月十六日勅令第八百五十九號ヲ以テ會社經理統制令中一部改正セラレ舊會社經理統制令第二十九條第一項ノ規定ニ依ル福利施設費ノ豫定額ノ報告同第三項ノ規定ニ依ル閣令ヲ以テ定ムル福利施設費以外ノ福利施設費ニ付テノ許可及同第四項ノ規定ニ依ル閣令ヲ以テ定ムル福利施設費ノ報告ノ手續ヲ廢止スルコトニ相成候(每事業年度ノ決算確定後ノ報告ニ付テハ昭和十六年九月十七日閣令第二十二號會社經理統制令施行規則中改正ニ依リ報告書類ノ様式ガ改メラレ候)處右ハ專ラ手續ノ簡易化ヲ圖ラントスルモノニシテ福利施設費ノ名目ニ依ル不當支出ハ之ヲ抑制スルモノニ非ザル趣旨ハ客年十二月十四日厚生省發勞第八十三號工場事業場ニ於ケル福利施設ニ關スル件ニ依リ通牒ニ及ビ置キタル所ト何等異ル所無之從ツテ改正會社經理統制令第二十九條ノ三ノ規定ノ趣旨モ曩ニ閣令(舊會社經理統制令施行規則第三十一條)ヲ以テ定メラレタル福利施設費其ノ他健全ナル福利施設費ヲ抑制セントスルモノニ無之候條右御了知

經理統制令(經費)

ノ上工場事業場ニ於ケル福利施設ノ指導ニ遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

追テ本件ニ關シテハ大藏省ト打合濟ニ付爲念

問 本令ニ於テ福利施設トハ如何ナル費用ヲ謂フヤ

答 本令ニ於テ福利施設費トハ、役員、社員、船員、勞務者等ニ對シテ會社ガ與ヘル金錢、

物其ノ他ノ利益ノ中給與或ハ賃金ニ該當セザルモノノ總稱ヲ謂フ

令第三十條 主務大臣ハ會社ノ經費ノ支出ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ之ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

令第三十一條 會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ固定資産ノ償却ヲ爲スベシ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

令第三十二條 主務大臣ハ會社ノ經理上必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ資産ノ償却ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

令第三十三條 會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 有價證券ノ取得又ハ處分
 - 二 特許權又ハ漁業權ノ取得又ハ處分
 - 三 資金ノ貸付又ハ借入
- 主務大臣ハ會社ニ對シ借入金ノ限度ヲ指定スルコトヲ得
前項ノ指定ヲ受ケタル會社ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ指定ヲ受クル限度ヲ超エ

テ資金ノ借入ヲ爲スコトヲ得ズ

○則第三十五條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ令第三十三條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 額面總額五萬圓以上ノ外國ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ取得シ又ハ處分セントスルトキ
 - 二 株數二萬株以上ノ株式ヲ取得シ又ハ處分セントスルトキ
 - 三 一會社ノ總株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ取得セントスルトキ
 - 四 株式ノ取得ニ因リ會社ノ現ニ所有スル株式ト合シテ一會社ノ株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ所有スルニ至ルベキトキ
 - 五 一會社ノ總株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該株式ノ處分ニ因リ會社ノ所有スル株數ガ當該會社ノ總株數ノ三分ノ一以下トナルベキトキ
- 前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ
- 一 特別ノ法令ニ依リ設立セララルル會社ノ株式ノ引受ヲ爲サントスルトキ
 - 二 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受ケタル會社ノ發起人トシテ株式ノ引受ヲ爲ストキ
 - 三 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ資本増加ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受ケタル會社ノ株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該資本増加ニ依ル株式ノ割當ヲ受ケタルトキ
 - 四 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ合併ノ認可ヲ受ケタル會社ノ株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該合併ニ因リ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ合併後存續スル會社ノ株式ノ割當ヲ受ケ

經理統制令(經費)

- 五 合併ニ因リ自己ノ株式ヲ取得スルトキ
 - 六 株式ノ消印ヲ爲ス爲自己ノ株式ヲ取得スルトキ
 - 七 債權ノ實行ニ因リ會社ガ當該債權ノ擔保タル株式ヲ取得スルトキ
 - 八 株式ノ取得又ハ處分ニ付特別ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可、許可若ハ承認ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ株式ヲ取得シ又ハ處分スルトキ
 - 九 清算中ノ會社ガ株式ヲ處分スルトキ
- 會社ハ其ノ株式總數ノ半數以上ヲ所有スル株主タル他ノ會社ノ株式ヲ取得セントスルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ
- 第一項及前項ノ規定ハ左ノ各號ニ掲グル會社ニ付テハ之ヲ適用セズ
- 一 銀行
 - 二 信託會社
 - 三 保險會社
 - 四 無盡會社
 - 五 有價證券引受業法第一條ノ規定ノ適用ヲ受クル會社
 - 六 有價證券業取締法第一條ノ規定ノ適用ヲ受クル會社
 - 七 有價證券ノ賣買取引ヲ業務トスル取引所
 - 八 有價證券ノ賣買取引ヲ業務トスル取引所ノ會員又ハ取引員タル會社

九 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社

○則第三十六條 前條ノ規定ニ依リ株式ノ取得又ハ處分ニ付許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十四號様式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

- 一 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 二 最近ニ於ケル資産及負債ニ關スル試算表
- 三 會社ノ所有スル有價證券ノ種類、數量及價額ニ關スル明細書

○則第三十七條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ特許權、鑛業權又ハ漁業權（以下無體財產權ト總稱ス）ヲ取得シ又ハ處分セントスルトキハ令第三十三條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 取得シ又ハ處分セントスル無體財產權ノ價額ガ一件五萬圓未滿ナルトキ
- 二 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ會社ノ設立、資本増加又ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ當該拂込株金又ハ現物出資ニ依リ無體財產權ヲ取得スルトキ

三 社債收入金ニ依リ無體財產權ヲ取得スルトキ

四 行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ無體財產權ヲ取得シ又ハ處分スルトキ

五 行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又

經理統制令（經費）

ハ改良ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付必要ナル無體財產權ヲ取得スルトキ

六 清算中ノ會社ガ無體財產權ヲ處分スルトキ

前項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニ付テハ之ヲ適用セズ

○則第三十八條 前條ノ規定ニ依リ無體財產權ノ取得又ハ處分ニ付許可ヲ受ケントスル會社ハ別

表第二十五號様式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二 最近ニ於ケル資産及負債ニ關スル試算表

三 無體財產權ノ取得ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

○則第三十九條 令第三十三條第三項ノ規定ニ依リ資金ノ借入ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントス

ル會社ハ別表第二十六號様式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提

出スベシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二 最近ニ於ケル資産及負債ニ關スル試算表

三 資金ノ借入ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

四 會社ノ現在ノ借入金ノ借入先、種類、金額、用途其ノ他ニ關スル明細書

令第三十四條 主務大臣ハ會社ノ經理ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ餘裕資金ノ運用ニ關シ必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第五章 經理 検査

令第三十五條 主務大臣ハ會社ノ資産負債及損益ノ内容、利益金ノ處分其ノ他經理ニ關シ國家總

動員法第三十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀

況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セ

シムベシ

○則第四十條 資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ資本金二十萬圓未滿ノ相互會社ハ本令施行後十五

日以内ニ別表第二十七號様式ニ依ル會社概況報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

前項ニ於テ本令施行後十五日以内トアルハ本令施行後設立セラレタル會社、本令施行後合併ニ

因リ設立セラレタル會社又ハ本令施行後資本増加若ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上トナリタ

ル會社ニ在リテハ設立、合併又ハ資本増加後三十日以内トス

○則第四十一條 本令施行ノ際現ニ資本金十五萬圓以上二十萬圓未滿ノ會社(相互會社ヲ除ク)ハ

本令施行後三十日以内ニ別表第二十八號様式ニ依ル會社概況報告書ニ最終ノ貸借對照表ヲ添へ

之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

○則第四十二條 資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ資本金二十萬圓未滿ノ相互會社ハ本令施行後三

經理統制令(検査)

十日以内ニ別表第二十九號様式ニ依リ其ノ旅費規程ヲ主務大臣ニ報告スベシ
前項ニ於テ本令施行後三十日以内トアルハ本令施行後設立セラレタル會社、本令施行後合併ニ
因リ設立セラレタル會社又ハ本令施行後資本増加若ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社ト
ナリタル會社ニ在リテハ設立、合併又ハ資本増加後三十日以内トス
前二項ノ會社旅費規程ノ變更ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ報告スベシ但シ變
更シタル部分ガ旅費規程ノ大部分ニ互ルトキハ變更後ノ旅費規程ヲ別表第二十九號様式ニ依リ
主務大臣ニ報告スベシ

令第三十六條 會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書及原價計算ニ關
スル書類ヲ作成スベシ

前項ノ財産目錄ニ記載スベキ財産ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ評價スベシ
會社ハ第一項ノ規定ニ依リ作成スベキ書類ノ調整ニ必要ナル帳簿ヲ備ヘ整然且明瞭ニ之ガ記帳
ヲ爲スベシ

令第三十七條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ勘定科目及帳簿組織ヲ指定シ之ニ
依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

令第三十八條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シテ決算ニ關シ當該官吏ノ監査ヲ
受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ決算ニ關シ監査ヲ受クベキ命令ヲ受ケタル會社ハ當該官吏ノ監査ヲ受ケタル
コトノ證明ヲ受ケタル後ニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

○則第四十三條 令第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當スル會社ハ每事業年度ノ決算確定後三十

日以内ニ別表第三十號様式ニ依ル會社經理狀況報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

前項ノ會社經理狀況報告書ニハ左ノ各號ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

- 一 別表第三十一號様式ニ依ル自己資本計算書
- 二 別表第三十二號様式ニ依ル利益配當金及給與狀況調査
- 三 別表第三十三號様式ニ依ル特殊支出調査
- 四 財産目錄、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類

○則第四十三條ノ二 左ノ各號ニ掲グル許可又ハ承認ニ付テハ許可認可等行政事務處理簡捷令第

二條第一項前段ノ期間ハ之ヲ十日トス

- 一 令第二十四條第二項ノ規定ニ依ル承認ニシテ令第二十條第四號又ハ第二十條第一號乃至第
三號ニ掲グル手當ノ準則ニ關スルモノ
- 二 令第二十五條ノ規定ニ依ル許可ニシテ令第二十條第四號又ハ第二十條第一號乃至第三號ニ
掲グル手當ノ準則ノ制定又ハ變更ニ關スルモノ

○則第四十四條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ會社ヲ指定シ其ノ本令ニ依リ提出スベキ許可、
指定若ハ承認ノ申請書、報告書又ハ届書及之ニ添付スベキ書類ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ
得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シ本令ニ定ムルモノノ外必要ナル書類ノ提出ヲ
命ズルコトヲ得

○則第四十五條 本令(第三十六條、第三十八條及第三十九條ヲ除ク)ニ依リ會社ノ提出スベキ申請書、報告書又ハ屆書ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外之ヲ三通作成シ會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ所轄スル財務局出張所ヲ經テ提出スベシ

一 令第四十一條第一項第一號、第二號、第三號又ハ第四號ニ該當スル會社ハ之ヲ一通作成シ主務大臣ニ直接提出スベシ

二 令第四十一條第一項第五號ニ該當スル會社ハ之ヲ同號ニ定ムル主務大臣連名宛ニ主務大臣ノ數ニ相當スル通數作成シ同條第一項第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル主務大臣(同條第一項第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル主務大臣ニ以上アルトキハ會社ノ營ム事業ノ中主タルモノニ關スル主務大臣)ニ直接提出スベシ

三 前號ノ場合ヲ除クノ外銀行、信託會社、保險會社、無盡會社、取引所及有價證券引受業法ノ證券引受會社ハ之ヲ三通作成シ主務大臣ニ直接提出スベシ

四 前三號ニ掲グル會社以外ノ會社ニシテ資本金五百萬圓以上ノモノ又ハ主務大臣ノ指定シタルモノハ之ヲ三通作成シ主務大臣ニ直接提出スベシ

五 (昭和十七年十一月一日閣令第二十七號ヲ以テ創設)

第六章 雜 則

令第三十八條ノ二 會社ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ本令ニ基ク制限ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

令第三十八條ノ三 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社、事項及期間ヲ定メテ本令ニ基ク制限ヲ解除シ又ハ本令ニ基ク義務ヲ免除スルコトヲ得

令第三十九條 第三條乃至第六條、第十二條乃至第十五條、第十八條、第十九條、第二十一條、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十七條若ハ第三十八條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ニ關スル處分又ハ指定、命令若ハ制限ニシテ事案ノ重要ナルモノ若ハ前條ノ規定ニ依ル制限ノ解除若ハ義務ノ免除(第三十三條ノ規定ニ依ル制限ニ關スルモノヲ除ク)ハ會社經理審査委員會ノ議ヲ經ベシ

會社經理審査委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

令第四十條 第三十三條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル處分若ハ指定ニシテ事案ノ重要ナルモノ又ハ第三十八條ノ三ノ規定ニ依ル制限ノ解除ニシテ第三十三條ノ規定ニ依ル制限ニ關スルモノハ臨時資金調整法第十二條ノ臨時資金審査委員會ノ議ヲ經ベシ

令第四十一條 本令ニ於テ主務大臣トアルハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外總テ大藏大臣トス

- 一 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニ在リテハ當該會社ヲ監督スル所管大臣
- 二 瓦斯事業法、自動車製造事業法、工作機械製造事業法、製鐵事業法、輕金屬製造事業法、石油業法、人造石油製造事業法、大正十五年勅令第九號又ハ產金法第三條ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ商工大臣
- 三 電氣事業法、航空機製造事業法又ハ造船事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リ

經理統制令(雜則)

テハ遞信大臣但シ造船事業法施行令第二十九條ノ規定ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ遞信大臣及商工大臣

四 地方鐵道法、軌道法又ハ自動車交通事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ鐵道大臣

五 會社ノ營ム事業ノ一部ニ付第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル法令ノ適用ヲ受クル會社ニ在リテハ當該所管大臣及大藏大臣

六 第三十三條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル處分又ハ指定ニ付テハ前各號ノ規定ニ拘ラズ大藏大臣及商工大臣

大藏大臣ハ第三條乃至第六條、第十二條乃至第十五條、第十八條、第十九條、第二十一條、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十七條、第三十八條又ハ第三十八條ノ三ノ規定ノ施行ニ關スル重要事項ニ付關係各大臣ニ協議スベシ
大藏大臣以外ノ主務大臣ハ前項ニ掲グル規定ノ施行ニ關スル重要事項ニ付大藏大臣及關係各大臣ニ協議スベシ

令第四十二條 大藏大臣ハ前條第一項第一號乃至第四號ニ掲グル會社以外ノ會社ニ關スル本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ財務局長又ハ財務局出張所長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

大藏大臣ハ財務局長若ハ財務局出張所長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ財務局長財務局出張所長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ爲サシムルコトヲ得
令第四十三條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

令第四十四條

本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス但シ日本勸業銀行、北海道拓殖銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行及朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受クル銀行並ニ南洋拓殖株式會社ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本令中閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス
第三十九條及第四十條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セズ

令第四十五條

朝鮮總督ハ本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ朝鮮總督府稅務監督局長又ハ朝鮮總督府稅務署長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

朝鮮總督ハ朝鮮總督府稅務署長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ朝鮮總督府稅務監督局長、朝鮮總督府稅務監督局長、朝鮮總督府稅務署長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督ハ本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ臺灣總督府州知事又ハ臺灣總督府廳長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

臺灣總督ハ臺灣總督府州知事若ハ臺灣總督府廳長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ臺灣總督府州知事、臺灣總督府廳長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督府州知事ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラレタル事務ヲ稅務出張所ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

令 附 則

(昭和十六年九月十六日
勅令第八百五十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ本社施行後最初ニ終了スル事業年度ニ付同項第一號ニ掲グル支出ノ豫定額ヲ報告シタル會社ガ當該事業年度ニ於テ其ノ豫定額ノ範圍内ニ於テ爲ス機密費等ノ支出ニハ第二十九條第五項ノ改正規定ハ之ヲ適用セズ

本令施行前會社ガ從前ノ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ本令施行後最初ニ終了スル事業年度ニ付爲シタル同項第二號ニ掲グル支出ノ豫定額ノ報告ハ之ヲ第二十九條ノ二第一項ノ改正規定ニ依リ爲シタル報告ト看做ス

本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

則 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

則 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十七年十一月二日
閣令第二十七號)

(編者註) 會社經理統制令ニ關スル疑義解釋ハ總テ大藏省會社部經理統制課作製ノ問答集ニ據ル

○會社經理統制令施行規則第三十一條第一項

各號ニ掲グル施設ノ範圍

(昭和十五年十二月四日
内閣告示第十七號)

一 法令ニ定アル施設

(一) 健康保險法、職員健康保險法又ハ船員保險法ニ依ル事業主又ハ船舶所有者ノ保險料負擔

(二) 退職積立金及退職手當法ニ依ル退職手當積立金及準備積立金ノ積立

(三) 團體郵便年金規則第一條ノ團體郵便年金掛金ノ補助(每事業年度ニ付年金受取人タル從業者ニ對シ當該事業年度間ニ支拂フ基本給料及賃金ノ總額ノ十二分ノ一ヲ超エザルモノニ限ル)

(四) 青年學校ノ設置及維持ニ關スル費用ノ負擔

二 保健衛生施設

勞務者ノ保健衛生ヲ目的トスル左ノ施設ニシテ其ノ規模又ハ經費各左ノ限度ヲ超エザルモノニ限ル

(一) 運動場

會社が常時使用する勞務者數	敷地面積	建設費		初度調辨費	維持管理費(一人當年額)
		建設費	坪當費		
千人以下ナルトキ	勞務者一人當一坪	五	五圓	五	〇・五圓
千人ヲ超エ五千以下ナルトキ	千坪ニ勞務者千人以上ヲ増加スル毎ニ〇・七坪ヲ加算シタル面積	五	五圓	五	〇・五圓
五千人ヲ超ユルトキ	三千八百坪ニ勞務者五千人以上ヲ加算シタル面積	五	五圓	五	〇・五圓

(二) 病院其ノ他ノ診療所

會社が常時使用する勞務者數	敷地面積	建設費		初度調辨費	維持管理費(一人當年額)
		建設費	坪當費		
五百人以下ナルトキ	勞務者一人當一坪	六	三圓	二〇、〇〇〇圓	四圓
五百人ヲ超エ千人以下ナルトキ	千坪ニ勞務者千人以上ヲ増加スル毎ニ〇・七坪ヲ加算シタル面積	九	三圓	二五、〇〇〇圓	四圓
千人ヲ超エ二千人以下ナルトキ	二千坪ニ勞務者二千人以上ヲ加算シタル面積	一五	三圓	三〇、〇〇〇圓	四圓
二千人ヲ超エ五千人以下ナルトキ	三千坪ニ勞務者三千人以上ヲ加算シタル面積	七五	三圓	一〇五、〇〇〇圓	四圓

會社が常時使用する勞務者數	敷地面積	建設費		初度調辨費	維持管理費(一人當年額)
		建設費	坪當費		
五千人ヲ超エ一萬人以下ナルトキ	勞務者一人當一坪	一、三〇〇	三五〇圓	一六八、〇〇〇圓	四圓
一萬人ヲ超ユルトキ	十坪ヲ増加スル毎ニ百坪ヲ加算シタル面積	三五〇	三五〇圓	一六八、〇〇〇圓	四圓

(三) 炊事場

會社が常時給食スル勞務者數	敷地面積	建設費		初度調辨費	維持管理費(一人當年額)
		建設費	坪當費		
三百人以下ナルトキ	勞務者一人當〇・一二坪	二五〇	二五〇圓	一〇、〇〇〇圓	五〇圓
三百人ヲ超エ五百人以下ナルトキ	勞務者一人當〇・一二坪	二五〇	二五〇圓	二五、〇〇〇圓	五〇圓
五百人ヲ超エ千人以下ナルトキ	勞務者一人當〇・一二坪	二五〇	二五〇圓	三〇、〇〇〇圓	五〇圓
千人ヲ超エ五千人以下ナルトキ	百二十坪ニ勞務者千人以上ヲ加算シタル面積	二五〇	二五〇圓	七〇、〇〇〇圓	五〇圓
五千人ヲ超ユルトキ	二百四十坪ニ勞務者五千人以上ヲ加算シタル面積	二五〇	二五〇圓	八〇、〇〇〇圓	五〇圓

經理統制令(告示)

(四) 浴場

會社が常時使用する 勞務者數	敷地 面積	建物		初度調辨費	維持管理費 (一人當年額)
		面積(延坪)	坪築費		
五十人以下ナルトキ		八坪	三〇〇圓	二、二〇〇圓	八圓
五十人ヲ超エ五百人以 下ナルトキ		一四	三〇〇圓	三、七〇〇圓	七圓
百人ヲ超エ三百人以 下ナルトキ	二建坪ノ ス	三五	三〇〇圓	六、八〇〇圓	五圓
三百人ヲ超エ五百人 以下ナルトキ		六〇	三〇〇圓	一、〇〇〇圓	五圓
五百人ヲ超エ千人以 下ナルトキ		一二〇	三〇〇圓	一、六〇〇圓	四圓
千人ヲ超エ五千人以 下ナルトキ		六〇〇	三〇〇圓	二、五〇〇圓	三圓
五千人ヲ超ユルトキ		一、二〇〇	三〇〇圓	三、五〇〇圓	三圓

(五) 寄宿舎

常時收容スル勞務 者數	敷地 面積	建物		初度調辨費 (建物一坪當)	維持管理費及 給食費(一人 當年額)
		面積(延坪)	坪築費		
二十人以下ナルトキ		六〇坪	二五〇圓	八〇圓	五四圓
二十人ヲ超エ四十人 以下ナルトキ		一一〇	二五〇圓	八〇圓	五四圓
四十人ヲ超エ百二十 人以下ナルトキ	二建坪ノ ス	三六〇	二五〇圓	七〇圓	五四圓
百二十人ヲ超エ二百 人以下ナルトキ		六〇〇	二五〇圓	七〇圓	五四圓
二百人ヲ超エ四百人 以下ナルトキ		一、二〇〇	二五〇圓	七〇圓	五四圓
四百人ヲ超エ千人以 下ナルトキ		三、〇〇〇	二五〇圓	六〇圓	五四圓
千人ヲ超ユルトキ		又ハ其ノ勞務者千人以上二百人 百坪ヲ加算シタル面積	二五〇圓	六〇圓	五四圓

(六) 保育所

經理統制令(告示)

常時收容スル乳幼児數	敷地面積	建物		初度調辦費 (建物一坪當)	維持管理金及 給食費(一人 當年額)
		面積(延坪)	建築費 (坪當)		
十人以下ナルトキ		一五坪	二五〇圓	五〇圓	四三圓
十人ヲ超エ二十人以下ナルトキ		三〇	二五〇	五〇	四三
二十人ヲ超エ五十人以下ナルトキ	建坪ノ 四倍ト	七五	二五〇	五〇	四三
五十人ヲ超エ百人以下ナルトキ		一五〇	二五〇	五〇	四三
百人ヲ超ユルトキ		百五十坪ニ乳幼児百人以上五十人又ハ其ノ端數ヲ増加スル毎ニ七十五坪ヲ加算シタル面積	二五〇	五〇	四三

備考

- 一 本表ハ工場事業場毎ニ之ヲ適用スルモノトス
- 二 運動場又ハ建物ノ建設ニ要スル經費及初度調辦費ノ支出ガ二事業年度以上ニ亘ル場合ニ於テハ其ノ總額ニ付本表ヲ適用スルモノトス
- 三 本表ニ掲グル施設ヲ有スル會社ガ同種ノ施設ヲ新ニ設置セントスル場合ニ於テハ其ノ敷地又ハ建物ノ面積ハ本表ニ依リ算出シタル面積ヨリ既存施設ノ敷地又ハ建物ノ面積ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ限度トシ其ノ初度調辦費ハ本法ニ依リ算出シタル金額ヨリ既存設備

ノ見積價格ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ限度トス

- 四 運動場ノ建設費ハ敷地面積ニ附屬建物及工作物ノ建設ニ要スル經費トス
- 五 建物ノ建築費ハ主體ノ建築費並ニ門柵其ノ他ノ附屬工作物及給水排水電氣瓦斯ノ附帶設備ニ要スル經費トス但シ病院其ノ他ノ診療所ニ付テハ右ノ外消毒設備淨化設備及汚物焼却設備ヲ包含スルモノトス
- 六 建物ノ敷地ヲ購入スル場合ニ於テハ其ノ購入費ハ本表ニ掲グル施設ノ經費トシテ取扱フモノトス
- 七 建物ノ全部又ハ一部ヲ購入スル場合ニ於テハ其ノ購入費ニ増改築其ノ他新ニ支出シタル經費ヲ加算シタルモノニ付本表ノ建築金ノ限度ヲ適用スルモノトス
- 八 初度調辦費ハ施設ノ種類ニ從ヒ左ノ經費トス
 - (一) 運動場ニ付テハ陸上競技、籠球、排球、野球、庭球、蹴球及相撲ノ設備並ニ鐵棒、跳箱、平行及肋木ノ設置ニ要スル經費トス
 - (二) 病院其ノ他ノ診療所ニ付テハ寢臺、エックス線装置、診療器具、雜器具及燬房装置ニ要スル經費トス
 - (三) 炊事場ニ付テハ汽罐、煙突、精米機、炊飯機、鍋釜、調理器具、冷蔵庫、食器、食器消毒機、運搬器具其ノ他ノ備品ニ要スル經費トス
 - (四) 浴場ニ付テハ汽罐、煙突、桶、體量計其ノ他ノ備品ニ要スル經費トス
 - (五) 寄宿舎ニ付テハ寢具、机、椅子其ノ他ノ備品ニ要スル經費及附屬炊事場又ハ浴場ニ

經理統制令(告示)

要スル初度調辦費トス

- (六〇) 保育所ニ付テハ机、椅子、玩具、樂器其ノ他ノ備品ニ要スル經費トス
- 九 維持管理費ハ水道電氣及瓦斯ノ料金、石炭等消耗品ノ購入費ニ諸修繕其ノ他當該施設ノ維持管理ニ從事スル事務職員ノアルトキハ之ニ要スル經費、敷地又ハ建物ガ賃借ニ依ルモノナルトキハ其ノ地代(運動場ニ付テハ坪三圓、其ノ他ノ敷地ニ付テハ坪六圓ヲ限度トス)又ハ家賃ヲ本表ノ金額ニ加算スルモノトス

賃金臨時措置令抄

(昭和十四年十月十八日 勅令第七百五號)

賃金臨時措置令施行規則抄

(昭和十四年十月十九日 厚生省令第三十四號)

令第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第六條ノ規定ニ基ク勞務者ノ賃金ニ關スル臨時措置ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

令第二條 本令ニ於テ勞務者ト稱スルハ船員トシテ又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ從事スル爲ニ雇傭セラレ賃金ヲ受クル者ヲ謂フ但シ命令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク

- 一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他鑛物採取ノ事業
- 二 物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝、修理及解體ノ事業(電氣、瓦斯又ハ各種動力ノ發生、變更又ハ傳道ヲ爲ス事業及水道ノ事業ヲ含ム)
- 三 土木、建築其ノ他工作物ノ建築、改造、保存、修理、變更、破壞又ハ其ノ準備ノ事業
- 四 道路、鐵道、軌道又ハ索道ニ依ル旅客又ハ貨物ノ運送ノ事業
- 五 船渠、船舶、岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱ノ事業
- 六 土地ノ耕作若ハ開墾又ハ植物ノ栽植、栽培、採取若ハ伐採ノ事業其ノ他ノ農業又ハ林業
- 七 動物ノ飼育又ハ水産動物ノ採捕若ハ養殖ノ事業其ノ他ノ畜産業、養蠶業又ハ水産業
- 八 其ノ他命令ヲ以テ定ムル事業

〇則第一條 賃金臨時措置令(以下令ト稱ス)第二條第八號ノ事業ヲ定ムルコト左ノ如シ

賃金措置令

- 一 物品販賣業（料理店業、飲食店業ヲ除ク）
- 二 銀行業
- 三 信託業
- 四 保險業
- 五 無盡業
- 六 倉庫業

○則第二條 主トシテ家事ニ従事スル勞務者ハ令第二條但書ノ規定ニ依リ同條ノ勞務者タラザルモノトス

●左記ニ掲グル者ハ令第二條ノ勞務者ト認ムルモノトス

- (イ) 職工、鑛夫、工夫、職人其ノ他之ト同種ノ作業ヲ爲ス者
- (ロ) タイピスト、エレベーター運轉手、電話交換手、守衛、商店員、賣子、注文取、外交員、集金人其ノ他之ニ準ズル者但シ工場、會社、商店其ノ他事業場ニ於テ職員トシテ取扱ヒ居ル者ハ其ノ取扱ニ依ルコト
- (ハ) 小使、給仕、倉庫夫、掃除夫、番人、炊夫、雜役夫其ノ他之ニ準ズル者
- (ニ) 作男、作女、牧夫、搾乳夫、炭燒夫、伐木夫、漁夫、其ノ他之ニ準ズル者
- (ホ) 出札係、改札係、貨物係、小荷物係、操車係、機關手其ノ他之ニ準ズル者ニシテ會社、事業場等ニ於テ勞務者トシテ取扱ヒ居ル者
- (コ) 車掌又ハ運轉手（但シ職員トシテ取扱ヒ居ル者ハ其ノ取扱ニ依ルコト）連結手、轉轍

手、驛夫、檢車手、信號手、機關夫、機關助手、炭水夫、洗車夫、給油手、踏切番其ノ他之ニ準ズル者

（昭和十四年十月十八日
厚生省勞働局長通牒）

令第三條 本令ニ於テ賃金、給料、手當、賞與其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ雇傭主ガ勞働ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

本令ニ於テ基本給ト稱スルハ定額賃金制ニ於ケル定額給又ハ請負賃金制ニ於ケル保證給若ハ單位時間給ヲ謂ヒ賃金基準ト稱スルハ獎勵加給、手當、實物給與若ハ命令ヲ以テ定ムル賞與以外ノ賞與ノ基準又ハ請負賃金制ニ於ケル請負單價、請負時間、歩合若ハ算定方法ヲ謂フ

○則第三條 令第三條第二項ニ於テ命令ヲ以テ定ムル賞與トハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與トス

●左記ニ掲グルモノハ令第三條ノ賃金ト認メザルモノトス

- (イ) 醫療費ノ補給
- (ロ) 冠婚葬祭又ハ罹災等ニ際シ給與スル祝金、見舞金ノ類
- (ハ) 健康保險法ニ依ル保險料、團體生命保險ノ保險料ノ補給又ハ團體郵便年金ノ掛金ノ補給
- (ニ) 退職手當ノ爲ニスル積立金
- (ホ) 作業服ノ支給、就學セル勞務者ニ對スル通學費等ノ實費支給（昭和十四年十月十八日
厚生省勞働局長通牒）

賃金措置令

令第四條 事業ノ爲ニ勞務者ヲ雇傭スル者(以下雇傭主ト稱ス)ハ其ノ雇傭スル勞務者ノ全部又ハ一部ノ賃金ヲ引上グル目的ヲ以テ昭和十四年九月十八日(以下指定期日ト稱ス)ノ基本給ヲ變更スルコトヲ得ズ

雇傭主本令施行前其ノ雇傭スル勞務者ノ全部又ハ一部ノ賃金ヲ引上グル目的ヲ以テ指定期日ノ基本給ヲ變更シタル場合ニ於テハ變更シタル基本給ニ依リ賃金ヲ支給スルコトヲ得ズ
前二項ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニハ之ヲ適用セズ

令第五條 指定期日後雇入ルル勞務者ニ付テハ其ノ雇入ノ際ノ基本給ヲ以テ指定期日ノ基本給ト看做ス

令第六條 雇入後三十日ヲ超エザル試ノ雇傭期間ヲ定メタル勞務者ニシテ指定期日後其ノ試ノ雇傭期間ヲ終リタルモノニ關スル本令ノ適用ニ付テハ其ノ試ノ雇傭期間ヲ終リタル後ニ基本給ヲ定メタルトキニ於テ雇入アリタルモノト看做ス

○則第四條 雇傭主ハ左ノ場合ニ於テ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ)ノ許可ヲ受ケタルトキハ令第四條第三項ノ規定ニ依リ指定期日ニ於ケル其ノ雇傭スル勞務者ノ基本給ヲ變更シ、令第九條第三項ノ規定ニ依リ賃金基準ヲ變更シ又ハ令第十五條但書若ハ第十六條第二項但書ノ規定ニ依リ令第十五條若ハ第十六條第一項ノ規定ニ依リ定ニ依ラザルコトヲ得

- 一 天災事變ニ際シ必要アルトキ
- 二 労働時間其ノ他労働條件ニ著シキ變更アリタルトキ
- 三 其ノ他已ムヲ得ザル理由アルトキ

(許可方針)

施行規則第四條第三號ノ規定ニ依ル一齊増給ノ許可ハ原則トシテ左記ノ標準ニ依ルコト

(イ) 指定期日ノ賃金ガ同一地方ノ同種事業ニ従事スル勞務者ノ賃金水準ニ此シ特ニ著シク低廉ナル爲メ勞務ノ需給圓滑ヲ缺キ事業ノ經營ニ重大ナル支障ヲ生ズルコト明ナル場合ハ許可スルコト

(ロ) 指定期日後ノ事情ノ變更ニ依リ指定期日ノ賃金ガ著シク低廉ニ失スルニ至リ勞務ノ需給圓滑ヲ缺キ事業ノ經營ニ重大ナル支障ヲ生ズルコト明ナル場合ハ許可スルコト

(ハ) 賃金ガ季節的ニ著シキ差異アル事業ニ於テ指定期日ノ賃金ヲ以テ之ヲ抑制スルコトノ明ニ不合理ナル場合ハ許可スルコト

(ニ) 指定期日後ニ賃金ノ引上ヲ爲スベキコトヲ指定期日前ニ於テ決定シ且發表シタル場合ハ許可スルコト

(ホ) 指定期日前ニ同一工場、事業場等ニ於ケル一部ノ勞務者ノ賃金ヲ引上ゲタル結果他ノ勞務者ノ賃金ガ著シク低キニ失スルニ至リ事業經營上支障ヲ生ジタル場合ハ許可スルコト

(昭和十四年十月十八日厚生省労働局長通牒)

○則第五條

前條ノ許可ノ申請ニシテ基本給又ハ賃金基準ニ關スルモノニ在リテハ其ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 事業ノ種類、従業場所ノ名稱及所在地
- 二 變更スベキ基本給又ハ賃金基準ノ種類及其ノ内容

賃金措置令

- 三 基本給又ハ賃金基準ノ變更ヲ受クベキ勞務者ノ種類及數
 - 四 變更ヲ要スル理由
 - 五 變更ニ因ル賃金支拂總額ノ増減及其ノ經營ニ及ボス影響
 - 六 其ノ他參考トナルベキ事項
- 前條ノ許可ノ申請ニシテ雇入ノ際ノ基本給ノ内規ニ關スルモノニ在リテハ其ノ申請書ニハ前項第一號、第四號及第六號ノ事項ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 變更スベキ内容
 - 二 變更前ノ内規
 - 三 最近一年間ニ雇入レタル勞務者ノ數
 - 四 變更ニ因リ經營ニ及ボス影響
- 前條ノ許可ノ申請ニシテ昇給内規ニ關スルモノニ在リテハ其ノ申請書ニハ第一項第一號及第四號乃至第六號ノ事項ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 變更スベキ内容
 - 二 變更前ノ昇給内規
 - 三 昇給ノ變更ヲ受クベキ勞務者ノ種類及數
- 令第七條 雇主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ指定期日後雇入ルル勞務者ノ雇入ノ際ノ基本給ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ）ニ報告スベシ但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ雇入ルル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

- 地方長官前項ノ基本給ヲ指定期日ニ於ケル賃金ニ關スル實情ニ鑑ミ不適當ト認ムルトキハ第四條ノ規定ノ適用ニ付雇入ノ際ノ基本給ニ代ルベキモノヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ノ基本給ト看做ス
- 附第六條 雇主ハ同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時雇傭スル勞務者ガ五人以上ナルトキハ令第七條第一項ノ規定ニ依リ前月中ニ基本給ヲ定メタル勞務者ノ雇入ノ際ノ基本給ヲ様式第一號ニ依リ毎月十五日迄ニ地方長官ニ報告スベシ但シ日日雇入レラルル勞務者ヲ雇入ルル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
- 令第八條 雇主ハ勞務者ノ雇入ノ際ノ基本給ニ關スル内規ヲ地方長官ニ報告スルコトヲ得
- 地方長官前項ノ規定ニ依リ報告シタル内規ヲ指定期日ニ於ケル賃金ニ關スル實情ニ鑑ミ不適當ト認ムルトキハ前條第一項但書ノ規定ノ適用ニ付之ニ代ルベキモノヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ定ムルモノヲ以テ第一項ノ規定ニ依リ報告シタル内規ト看做ス
- 附第七條 令第八條第一項ノ規定ニ依リ報告スル勞務者ノ雇入ノ際ノ基本給ニ關スル内規ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 事業ノ種類、従業場所ノ名稱及所在地
 - 二 所定就業時間ノ定アルトキハ其ノ定
 - 三 未経験勞務者又ハ既經驗勞務者ノ雇入ノ際ノ男女別ノ基本給
 - 四 前號ノ基本給ニ付年齡別、職業別、學歷別又ハ經驗年數別ニ定アルトキハ其ノ定
- 令第九條 雇主ハ其ノ雇傭スル勞務者ノ全部又ハ一部ノ賃金ヲ引上グル目的ヲ以テ指定期日ノ賃金措置令

賃金基準ヲ變更スルコトヲ得ズ

雇傭主本令施行前其ノ雇傭スル勞務者ノ全部又ハ一部ノ賃金ヲ引上グル目的ヲ以テ指定期日ノ賃金基準ヲ變更シタル場合ニ於テハ變更シタル賃金基準ニ依リ賃金ヲ支給スルコトヲ得ズ
前二項ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニハ之ヲ適用セズ

令第十條 雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ指定期日ノ賃金基準ヲ地方長官ニ報告スベシ

令第十一條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ指定期日ニ賃金基準ノ定ナキ作業ニシテ同種又ハ類似ノ作業ニ付賃金基準ノ定アルモノニ關シテハ其ノ賃金基準ヲ以テ指定期日ノ賃金基準ト看做ス

指定期日ニ賃金基準ノ定ナキ作業ニシテ前項ノ規定ノ適用ナキモノニ付指定期日後ニ賃金基準ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ賃金基準ヲ以テ指定期日ノ賃金基準ト看做ス

雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ指定期日後ニ定ムル賃金基準ヲ地方長官ニ報告スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ報告シタル賃金基準ヲ指定期日ニ於ケル賃金ニ關スル實情ニ鑑ミ不適當ト認ムルトキハ第九條ノ規定ノ適用ニ付之ニ代ルベキモノヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ノ賃金基準ト看做ス

○則第八條 雇傭主ハ同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時雇傭スル勞務者ガ五人以上ナルトキハ令第十條又ハ第十一條第三項ノ規定ニ依リ指定期日後ニ定ムル賃金基準ヲ地

方長官ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依ル報告ニシテ請負單價、請負時間、歩合若ハ算定方法又ハ獎勵加給ニ關スルモノニ在リテハ其ノ報告書ニハ事業ノ種類、從業場所ノ名稱、所在地及其ノ作業又ハ製品ノ種類毎ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 作業又ハ製品ノ種類
 - 二 單價請負ノ定アルトキハ請負單價及算定方法
 - 三 時間請負ノ定アルトキハ請負時間及算定方法
 - 四 歩合請負ノ定アルトキハ歩合及算定方法
 - 五 獎勵加給ノ定アルトキハ獎勵加給ノ額若ハ率及算定方法
- 作業又ハ製品ノ種類多數ナルトキハ前項各號ノ事項ニ關スル記載ハ主要ナル作業又ハ製品ニ付爲スヲ以テ足ル

第一項ノ規定ニ依ル報告ニシテ手當、實物給與又ハ賞與ニ關スルモノニ在リテハ其ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 事業ノ種類、從業場所ノ名稱及所在地
 - 二 手當ノ種類並ニ其ノ種類毎ニ額若ハ率及給與條件
 - 三 實物給與ノ種類並ニ其ノ種類毎ニ數量及給與條件
 - 四 賞與ノ種類並ニ其ノ種類毎ニ額若ハ率及給與條件
- 第一項ノ規定ニ依ル報告ハ令第十條ノ規定ニ依ルモノニ在リテハ本令施行ノ日ヨリ三十日以

賃金措置令

内、令第十一條第三項ノ規定ニ依ル報告ニ在リテハ報告ヲ要スル事項ニ付其ノ定ヲ爲シタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スベシ

同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時雇傭スル勞務者ガ五人ニ達スルニ至リタルトキハ第一項ノ規定ニ依ル報告ハ其ノ五人ニ達シタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スベシ

令第十二條 雇傭主其ノ雇傭スル勞務者ノ箇箇ニ付基本給又ハ賃金基準ヲ變更シテ賃金ヲ増サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クベシ本令施行前其ノ雇傭スル勞務者ノ箇箇ニ付指定期日ノ基本給又ハ賃金基準ヲ變更シテ賃金ヲ増シタルトキ其ノ支給ニ付亦同ジ前項ノ規定ハ第十三條第一項若ハ第十四條第一項ノ規定ニ依リ報告シタル昇給内規ニ依リ昇給セシメ又ハセシメタル場合又ハ第十五條若ハ第十六條ノ規定ニ依ル昇給内規ノ定アルトキ之ニ依リ昇給セシムル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

〇則第九條 雇傭主ハ同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時雇傭スル勞務者ガ五人以上ナルトキハ令第十二條第一項ノ規定ニ依リ箇箇ノ勞務者ニ付基本給若ハ賃金基準ヲ變更シテ賃金ヲ増シ又ハ變更シタル基本給若ハ賃金基準ニ依リ賃金ヲ支給スルニ付地方長官ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ノ申請書ニハ事業ノ種類、従業場所ノ名稱、所在地及昇給セシメントスル勞務者毎

ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 氏名、男女ノ別及年齢
- 二 現在ノ基本給又ハ賃金基準及之ニ依リ賃金ヲ受ケタル期間

三 昇給セシムベキ年月日

四 昇給ノ程度

五 其ノ他參考トナルベキ事項

(許可方針)

令第十二條ノ規定ニ依リ昇給ノ許可ヲ爲ス場合ハ原則トシテ左記ノ標準ニ依ルコト

(イ) 指定期日以前ニ昇給セシメタルト同様ノ條件及ビ程度ニ依リ昇給セシメントスル場合ハ許可スルコト

(ロ) 指定日以後ニ初メテ昇給ヲ行フ工場、事業場等ニ付テハ同一地方ノ同種ノ事業ニ従事スル勞務者ノ昇給ノ實情ヨリ見テ妥當ナル限度ノ昇給ハ許可スルコト

(ハ) 召集解除又ハ除隊等ノ場合ニ於テ他ノ勞務者ニ比シ昇給ノ遅レタルヲ回復セシムル爲昇給セシムルトキハ許可スルコト(昭和十四年十月十八日厚生省労働局長通牒)

令第十三條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時五十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ其ノ雇傭スル勞務者ノ昇給内規ヲ地方長官ニ報告スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ報告シタル昇給内規ヲ指定期日ニ於ケル賃金ニ關スル實情ニ鑑ミ不適當ト認ムルトキハ前條第一項ノ規定ノ適用付ニ之ニ代ルベキモノヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ定ムルモノヲ以テ前項ノ規定ニ依リ報告シタル内規ト看做ス

令第十四條 前條ニ規定スル雇傭主以外ノ雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ雇傭スル勞務者ノ賃金措置令

昇給内規ヲ地方長官ニ報告スルコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル報告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

○則第十條 令第十三條第一項又ハ第十四條第一項ノ規定ニ依リ報告スル昇給内規ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 事業ノ種類、従業場所ノ名稱及所在地
- 二 昇給期ノ定アルモノニ付テハ其ノ定
- 三 昇給ニ必要ナル期間
- 四 昇給セシムベキ基本給又ハ賃金基準ニ付一回ノ昇給ノ最高及標準ノ額若ハ率
- 五 昇給ニ必要ナル條件ノ定アルトキハ其ノ條件
- 六 前三號ノ事項ニ付男女別、年齢別、職業別又ハ賃金等級別等ニ定アルトキハ其ノ定
- 七 其ノ他參考トナルベキ事項

○則第十一條 令第十三條第一項ノ規定ニ依ル昇給内規ノ報告ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時五十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スルニ至リタルトキハ令第十三條第一項ノ規定ニ依ル報告ハ其ノ五十人ニ達シタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スベシ

令第十五條 雇傭主相互間ニ於テ又ハ厚生大臣ノ指定スル組合若ハ團體ニ於テ勞務者ノ基本給、賃金基準又ハ昇給内規ノ定ヲ爲シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ雇傭主又ハ其ノ組合員

若ハ團體員(組合又ハ團體ヲ組織スル組合又ハ團體ノ組合員又ハ團體員ヲ含ム)タル雇傭主ノ爲ス雇傭ニ於テハ其ノ定ニ依ルベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

令第十六條 日日雇入レラルル者ノ賃金ニ付必要アル場合又ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ地方長官ハ道府縣賃金委員會ニ諮問シテ勞務者ノ基本給、賃金基準又ハ昇給内規ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ雇傭主ハ地方長官ノ爲シタル定ニ依ルコトヲ要ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

○則第十八條 同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時五人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ賃金臺帳ヲ作成シ各勞務者ニ付左ノ事項ヲ記載スベシ但シ日日雇入レラルル勞務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 賃金締切日ノ定アルトキハ其ノ賃金締切期間 賃金締切日ナキトキハ毎月ノ金錢給與タル賃金ノ總額及其ノ内譯
- 二 前號ノ期間中ノ賃金又ハ一部ガ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ種類及數量
- 三 工場又ハ鑛山ニ在リテハ前二號ニ掲グルモノノ外毎就業日ニ於ケル就業時間

請負賃金制ニ依ル賃金支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ毎月支拂ヒタル賃金ニ付様式第二號ノ計算表ヲ作成シ賃金臺帳ニ添附スベシ

令第十九條 雇傭主ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第四條、第九條、第十二條、第十五條、第

賃金措置令

十六條及第十八條ノ規定ニ依ル制限ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

令第二十三條 本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セズ

本令ハ國際條約又ハ之ニ基ク協定中資金ニ關スル定アルトキ其ノ制限ニ牴觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

令第二十五條第一項 内地ニ於テ船員ニ關スルモノヲ除クノ外鑛業及砂鑛業ニ付テハ本令中地方長官トアルハ鑛山監督局長トシ道府縣實金委員會トアルハ鑛山實金委員會トス

令第二十七條第一項 本令中厚生大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トス

○則第二十條 本令ノ規定ニ基キ地方長官ニ對シ爲スベキ申請又ハ報告ハ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所毎ニ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ之ヲ爲スベシ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ヲ管轄スル地方長官ナキ場合ハ雇傭契約ヲ締結シタル場所ヲ管轄スル地方長官ニ對シ之ヲ爲スベシ

○則第二十一條 本令中地方長官トアルハ鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第四編 勞務管理關係

工場法

(明治四十四年三月二十九日法律第四十六號)
(改正昭和十年三月三十日法律第十九號)

工場法施行令

(大正十五年八月三日勅令第九十三號)
(改正昭和十三年一月七日勅令第二十三號)

工場法施行規則

(大正十五年八月三日農商務省令第十九號)
(改正昭和十七年二月二十四日厚生省令第七號)

第一章 通 則

法第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

一 常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ

二 事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

△令第一條 左ニ掲クル事業ノミヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ内務大臣ノ定ム

ル原動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ駄ノ製造

二 行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、籐、竹、竹ノ皮、經木、蓆莖又ハ藁ノ手工品ノ製造

三 經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製

四 「アタン」、「バナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製

五 扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造

工場法(通則)

- 六 紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造
- 七 形紙、紙函、元結又ハ水月ノ製造
- 八 手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫
- 九 手工ニ依ル組紐ノ編製

一〇 「刺繡」、「レース」、「バテンレース」又ハ「ドローンウォーク」ノ業

○則第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車及電動機トス

△令第二條 鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

△令第三條 左ニ掲クル事業ヲ営ム工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス

- 一 毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造
- 二 動物ノ剝製
- 三 水銀ヲ用フル計器ノ製造
- 四 水銀唧筒ヲ用フル魔法礮ノ製造
- 五 鉛ヲ用フル鑪ノ製造
- 六 珪瑯鐵器又ハ珪瑯藥ノ製造
- 七 塗料、顔料、印刷用インキ又ハ繪具ノ製造
- 八 亞硫酸瓦斯、「クロール」瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用フル事業
- 九 硫黃ノ精製

一〇 「チアン」加里又ハ硝酸鹽ヲ用フル金屬ノ熱處理

一一 「ファクチス」ノ製造

一二 脂肪油ノ精製

一三 ポイル油ノ製造

一四 乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造

一五 溶劑ヲ用フル護謨製品ノ製造

一六 溶劑又ハ「ラバーセメント」ヲ用フル護謨製品ノ貼合

一七 溶劑ヲ用フル油脂ノ採取

一八 溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造

一九 溶劑ヲ用フル野草莖ノ捺染

二〇 溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造

二一 溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」(單ニ拂拭スルモノヲ除ク)

二二 溶劑ヲ用フル絆創膏ノ製造

二三 「タンニン」酸ノ製造

二四 合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造

二五 「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工

二六 硝化綿ノ製造

二七 「コロヂウム」ヲ用フル紙撚製品ノ製造

工場法(通則)

- 二八 「エーテル」ノ製造
- 二九 酒精ノ製造又ハ變性
- 三〇 「ヴィスコーズ」ノ製造
- 三一 「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
- 三二 鑛油ノ蒸溜、精製又ハ罐詰
- 三三 「アスファルト」ノ精製
- 三四 瀝質物ヲ用フル建築用ノ「フェルト」又ハ紙ノ製造
- 三五 燐寸ノ製造
- 三六 火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱
- 三七 金屬ノ熔融又ハ精煉
- 三八 電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷
- 三九 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造
- 四〇 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ用フル製氷
- 四一 動力ニ依ル製材
- 四二 電氣業(發電所、蓄電所及開閉所)
- 四三 電球ノ製造
- 四四 硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎
- 四五 金屬、骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨

- 四六 動力ニ依ル金屬箔又ハ金屬粉ノ製造
 - 四七 動力ニ依ル鑛石、土砂、貝又ハ骨ノ粉碎
 - 四八 電氣用「カーボン」ノ製造
 - 四九 石炭瓦斯又ハ骸炭ノ製造
 - 五〇 「カーバイト」ノ製造
 - 五一 石灰ノ製造
 - 五二 「フェルト」又ハ吹付羅紗(粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗)ノ製造
 - 五三 起毛又ハ反毛ノ作業
 - 五四 製綿
 - 五五 麻ノ梳解
 - 五六 古綿、落綿、古麻、屑紙、屑綿絲、屑毛又ハ襪襪類ノ選別
 - 五七 骨炭又ハ血炭ノ製造
 - 五八 毛皮ノ精製、製革又ハ製膠
 - 五九 毛髮又ハ羽毛ノ精製
 - 六〇 其ノ他内務大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業
- 近時工場法ノ適用ヲ免レンカ爲ニ職工間接雇傭ノ方法ニ依リ或ハ職工ヲシテ社員若ハ組合員
 タラシムル等工場經營ノ組織形態ヲ變更シテ工業主ト職工トノ間ニ使用關係ナシト爲スモノ
 有之候處工場法ニ所謂職工トハ工業主ニ對シ從屬的關係ニ於テ有償ニ工業的作業ニ從事スル

労働者ヲ謂フ義ニ有之如上ノ場合ニ於テモ法規適用ノ對象タル工業主及職工間ノ使用關係ヲ否定スルコトヲ得ス從ツテ當然工場法ヲ適用スヘキ次第ニ有之候條御了知相成度

追而 右ノ解釋ハ從來ヨリ當局ノ執リ來リタル所ニ候處先般個人經營工場ヲ組合組織ニ改メタル實際ノ事例ニ關シ大審院ハ右解釋ト同様ノ解釋ニ基ク判決ヲ爲シ茲ニ之カ確定ヲ見ルニ至リ候條爲念(昭和八年五月二十四日 社會局労働部長通牒)

問 工場法ニ所謂工場ノ意義如何

答 工場法規ニ所謂工場ノ意義ニ關シテハ適確ナル定義ヲ下スコトハ到底困難ナリ箇々ノ場合ニ於テ各種ノ資料ト四圍ノ事情トヲ參酌シテ決定スルノ外ナキモ大體工場トハ職工ヲ使用シテ製造(原料ト名稱ヲ異ニスル物品ヲ製作スルコト)若ハ加工(原料ト名稱ヲ異ニセサルモノ之ヲ變造、修覆、裝飾、精製スルコト)又ハ仕上ケ、仕別ケ、包裝、荷造(既ニ製造加工ヲ終リタル物品ニシテ單獨ニ又ハ集團的ニ一定ノ形態又ハ外裝ヲ有セシムルコト)等ノ作業ヲ或期間ニ涉リ繼續シテ爲スヲ目的トスル一定ノ場所ヲ謂フ(發電、變電及蓄電所ハ直ニ此ノ説明ニ該當セサルモ工場トス)

工場ナルヤ否ヤ疑ハシキモノニ付工場ト工場ニ非サルモノトヲ區別シタル事例左ノ如シ
甲、工場ト認ムベキモノ

- (一) 船渠及浮船渠
 - (二) 襪襪、紙屑絲、屑繭ノ選別所
- 乙、工場ト認ムヘカラサルモノ

(一) 建築場

(二) 海岸其ノ他ノ場所ニ於ケル露天ノ和船建造場

(三) 土石ノ採掘場

(四) 獨立セル瓦斯又ハ石油ノ貯藏所

(五) 養蠶所又ハ蠶種製造所

(六) 屠獸場

(七) 鯨 船

(八) 浚渫船

(九) 商店其ノ他ニ附屬セル荷造場但シ工場ニ附屬セルモノハ工場ノ一部トス

(十) 監獄ノ勞役場、養育院又ハ精神病院其ノ他特殊病院ニ於ケル作業場

(十一) 學校及官公立試驗場ニ於ケル作業場

(十二) 河原又ハ草野等ニ於ケル晒場但シ工場ニ接續シ又ハ附屬セルモノハ工場ノ一部ト認ムルコトアルベシ

(十三) 組合員ノミガ使用スル生産組合ノ作業場

(十四) 鹽 田(大正六年二月二十八日 農商務省工務局長通牒)

問 同一工業主カ其ノ地域ハ異ナルモ隣接シテ二個ノ工場ヲ建設シテ事業ヲ營ムモノアリ此ノ場合ニ於テモ其ノ職工數ハ之ヲ各別ニ計算シテ法ノ適用ヲ定ムヘキヤ

答 隣接セル工場ト雖聯絡セル作業關係アルトキハ一個ノ工場トシテ取扱フヘキモノトス

工場法(通則)

問

造船工場アリ(株式組織トシ船渠ヲ設ケ主トシテ修繕作業ヲ營ム)工場全事業ヲ造船部、造機部、ペンキ部ノ三部ニ分チ各部ニ一名ノ請負者(何々組ト云フモノアリ)アリテ其ノ請負者三名ハ各職工三十名乃至百二十名位ヲ日給ヲ以テ雇傭シ居レリ
 事業ノ經營方法ハ工業主船舶ノ修繕等ヲ請負ヒタルトキハ先ツ請負金額ヨリ二割ノ天引ヲ爲シ殘額ヲ以テ前記ノ三名ニ請負ハシメ請負者ハ職工ヲ使役シテ作業ヲ爲スコト、シ居レリ而シテ職工ノ賃金支拂及各種ノ扶助ハ事實上前記三請負者之ヲ行ヒ居レル狀況ニアリ
 此ノ場合ニ於テモ賃金ノ支拂及各種ノ扶助ハ工業主ニ於テ之ヲ行ハシムヘキモノト思料セラルルモ何分ノ御指示相仰度

(大正六年一月十三日
農商務省工務局長通牒)

答

右ハ工業主タル株式組織ノ造船工場カ下請負人トノ内部ノ契約ニ依リ下請負人ヲシテ自己ノ分擔スル工場法上ノ義務ヲ代行セシメツツアルモノト解スヘク從ツテ造船會社ハ右ノ契約ニ依リ工場法令上ノ責任ヲ免ルルモノニ非ス下請負人ニ於テ賃金及扶助等ノ工場法上ノ義務ヲ履行セサルトキハ當該會社ニ於テ之カ終局的ノ責任ヲ負擔スヘキモノナリ

(昭和七年十二月二十八日
社會局勞動部長通牒)

問

一 目下休轉中ノ工場ハ製造ヲ中止セルヲ以テ工場法ニ所謂工場ニ該當セサルモノト思推シ差支ナキヤ

二、右休轉工場ニハ原料製品格納ノ爲メ或ハ機械建物手入保全警備等ノタメ少數ノ従業員者ヲ使用セル場合工場法ニ所謂職工ニ該當セズ從ツテ十人以上使用セル場合ト雖モ工

場法ノ適用ヲ受ケズト解シ差支ナキヤ
 若シ製造機械ノ解體、運搬、据付換等ノ勞務及之ニ類スル仕事ニ從事セシメタル場合(製造中ノ工場ニ非ズ業務休止中)モ同様ニ解シテ宜敷ヤ

答

一及二、運轉休止中ノ工場ト雖モ休轉ガ臨時又ハ一時的ニシテ工場ノ常態ニ於テ十人以上ノ職工ヲ使用スルモノハ工場法ノ適用アリ、機械建物ノ手入ヲ爲ス者其ノ他機械ノ解體運搬、据付換等ノ勞務ニ從事スル者モ職工ナリ(昭和三年一月十四日
社會局勞動部長通牒)

問

工場法規ニ所謂職工ノ意義如何

答

工場法規ニ所謂職工ノ意義ニ關シテハ適確ナル定義ヲ下スコト到底困難ナリ箇々ノ場合ニ於テ各種ノ資料ト四圍ノ事情トヲ參酌シテ決定スルノ外ナキモ大體ノ標準ヲ示ストキハ職工トハ主トシテ作業場内ニ在リテ工場ノ目的トスル作業ノ本體タル業務ニ付勞役ニ從事スル者及直接ニ其ノ業務ヲ助成スル爲勞役ニ從事スル者ヲ謂フ即チ工場ノ主タル作業ハ勿論之ニ關係アル作業例ハ場内運搬、工場設備ノ手入、修覆等ニ從事スル者ヲ包含ス
 職工ナリヤ否ヤ疑ハシキ者ニ付職工ト職工ニ非サル者トヲ區別シタル事例左ノ如シ
 甲、職工ト認ムヘキモノ

(一) 勞役ヲ直接ニ指揮監督スル工長、伍長、職工長ノ類

(二) 工場建物ノ修繕ノ爲ニ常時使用シ居ル大工又ハ左官職

(三) 臨時職工、日傭職工

乙、職工ト認ムヘカラサルモノ

工場法(通則)

(一) 専ラ作業場外ニ在リテ運搬ニ従事スル人夫、便所、寄宿舎ノ掃除夫及賄方
(二) 門衛、給仕

(三) 生絲工場ニ於ケル教婦(大正五年十月十六日農商務省工務局長通牒)
問 常時工場事務室ニアリテ單ニ事務ニ従事スル(者名稱ハ職工)ニモ工場法ヲ適用セラル、
モノナリヤ

答 職工ノ名稱ヲ附シ職工ノ待遇ヲ與ヘルモ常時工場事務室ニ在リテ單ニ事務ニ従事スルモ
ノハ工場法上職工ニ非ズ(昭和二年一月二十二日社會局労働部長通牒)

問 試ノ雇傭期間中ノ職工ハ工場法ニ所謂職工ナラサルヤ否ヤ、若シ職工ナラストセハ工業
主ニ於テ扶助ノ義務ナキコト、ナルモ苟モ工場内ニ在リテ工場ノ目的トスル作業ノ本體タ
ル業務ニ従事シテ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ハ當然工業主ニ於テ扶助ノ義務アルモノ
ト認メ差支ナキヤ

答 試ノ雇傭期間中ノ職工モ工場法上所謂職工ニシテ工業主ニ於テ扶助ノ義務アリ
(大正十五年十月十五日社會局労働部長通牒)

問 工業主トノ間ニ雇傭關係ノ存在セサルノミナラス工業主ヨリ賃金ノ支拂ヲモ受ケサル工
業主ノ家族ハ職工トシテ取扱フヘキヤ

答 例示ノ如キ家族ハ職工ニ非ズ(大正六年三月十三日農商務省工務局長通牒)
問 會社トノ契約ニ基キ特定ノ請負人ニ於テ日々所要人員ヲ雇入レ工場内ニ於テ原料、石炭、
製品類ヲ運搬スル業務ニ就カシムル場合ニ在リテハ其ノ就業者ハ之ヲ會社ニ於テ使用スル

職工ト認メ職工名簿ニ記載スヘキヤ

答 工業主トノ契約ニ基キ特定ノ請負人ニ於テ日日所要人員ヲ使用シ作業場外(工場構外ハ
勿論工場構内ト雖)ニ於テ原料、石炭、製品類ヲ運搬スル業務ニ就カシムル場合ニ在リテ
ハ其ノ就業者ハ職工ニ非ズ(大正五年十月十六日農商務省工務局長通牒)

問 製材工場ノ職工長カ柵割ノ仕事ヲ工業主ヨリ請負ニテ引受ケ其ノ工場ノ職工ト他ヨリ別
ニ雇入タル職工トヲ使用シテ作業ニ従事スルモノアリ而シテ此ノ場合其ノ事業ノ損益ハ請
負人タル職工長ノ責任トナシ職工長ト工業主トハ全ク別箇ノモノナリ兩者何レニ工場法ヲ
適用スヘキヤ

答 被傭者全部ヲ工業主ノ職工トシテ取扱ヒ之ニ工場法ヲ適用スヘキモノトス
(大正六年一月三十一日農商務省工務局長通牒)

法第二條 削除
法第三條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ
得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スル
コトヲ得就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

法第四條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシ
ムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得
法第五條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八
工場法(通則)

係ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ

●**第三條** 紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

問 工場法第三條規定ノ就業時間ハ連續シタル時間ニシテ不可分ノモノナリヤ又ハ分割シ得

ヘキヤ

(イ) 機械工場ノ就業時間十四(十一)時間カ連續シタル時間ニシテ分割ヲ許サ、ルモノトスレバ規定ノ休憩一時間ノ外通勤職工カ晝食ノ爲自家ニ往復スルニ一時間ヲ要スルカ如キ場合ニ在リテハ正味ノ就業時間ハ十二(九)時間トナリ工業主ノ打撃抄カラス

(ロ) 就業時間十四(十一)時間ヲ分割ヲ許スモノトスレハ假ニ午前五時ヨリ正午迄ノ間ニ三十分ノ休憩時間ヲ設ケ別ニ通勤職工ノ晝食ノ爲ニ要スル一時間ヲ置キ午後一時ヨリ午後八(五)時迄ノ間ニ三十分ノ休憩時間ヲ設クトセハ就業時間ハ正味十三(十)時間ニシテ休憩時間ハ午前午後ヲ通シテ一時間ヲ與フルコト、ナルヲ以テ規定ニ抵触セサルカ如ク解セラル

答 例示サレタル工場ノ就業時間ハ之ヲ通算セハ一日十五(十二)時間ノ就業トナリ明ニ法規

ニ抵触ス(大正五年九月十五日農商務省工務局長通牒)

第五條 削除

第六條 削除

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

問 工場法第七條第三項ノ夏季ト稱スルハ普通季節ニ依ル自六月至八月期間ヲ指スモノナリヤ九州地方ノ如キ九月ニ至ルモ尙暑氣減退セス故ニ九月迄ト認メ可然哉

答 夏季トハ通常六月ヨリ八月ニ至ル期間ヲ謂フモ酷暑ノ場合ニ於テハ本條ノ夏季ハ九月ニ及フモノト解シ差支ナシ(大正十五年九月六日社會局労働部長通牒)

問 月末日大祭日ニ相當シタル場合ハ工場ノ規定セル翌月一日ノ休日ヲ操上ケ翌月ノ休日一回ヲ繰シ得ルヤ

答 繰上ゲタル休日ハ翌月ノ休日トハ認メ難シ(大正十五年十月二十五日農商務省工務局長通牒)

第八條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條、第四條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損

工場法(通則)

失ヲ防グ爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亘ラス且一月付七日ヲ超エサル限り行政官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限り就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス

○則第四條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

●左記業務ヲ季節ニ依リ繁忙ナル業務トシテ認可方向出ノ次第有之差支ナキ旨回答致置候條御了知相成度

- 一、莫大小業
- 一、撚絲業
- 一、生絲製造業
- 一、製茶業
- 一、果物ノ罐詰ニ關スル業務
- 一、魚貝ノ罐詰業(筑後地方ニ於テ主ニ玉瑠貝、鯉、鰻、鰯、鰒、鰯、鰯、鰯ヲ以テスル罐詰)福岡

縣

- 一、松茸、筍ノ罐詰業、廣島縣
 - 一、魚貝ノ罐詰業(蟹、海老、北寄貝、鱒、鮭)北海道
 - 一、長餃ヲ原料トスル竹輪焼蒲鉾ノ製造業、青森縣
 - 一、金銀糸製造業(織物用)
 - 一、組紐業
 - 一、レース製造業
 - 一、糸布ノ染色整理加工業
 - 一、足袋製造業
 - 一、自轉車燈火用乾電池製造業
 - 一、小倉服製造業
 - 一、地下足袋製造業
 - 一、青豌豆又ハ藩茄(トマト)ノ罐詰又ハ罐詰ノ業務、滋賀縣
 - 一、護謨靴製造業、富山縣
 - 一、麻糸連續業及麻真田製造業、愛知縣
 - 一、漆器製造業、石川縣
 - 一、小供用枕蚊帳製造業(昭和十三年十月十八日
社會局労働部部長通牒)
- 問 工場法第八條第三項ニ依ル保護職工ノ就業時間延長ハ工程ニ依リ作業場ヲ異ニスル工場

工場法(通則)

ニ於テハ各作業場毎ニ時間延長ヲ認メ支障ナキモノナリヤ又ハ工場ヲ單位トシテ之ヲ認ム
ヘキモノナリヤ

答 前段見解ノ通(昭和三年一月九日
社會局労働部長通牒)

法第九條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分
ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取
附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他ノ危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

○則第五條 工場法第九條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連接桿、聯桿器
唧子桿、發電機ノ「コンミニュテーター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接
手又ハ之ニ準スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務
- 二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シヲ爲
ス業務
- 三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
- 四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續
- 五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務
- 六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危険豫防裝置ナキモ
ノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務
- 七 完全ナル柵圍其ノ他ノ危険豫防裝置ナキ車軌道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業

務

法第十條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性、發火性若ハ引
火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業
務其ノ他危険又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

法第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

○則第六條 工場法第十條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃磷、硫化磷、チアン水素酸、「チアンカリウム」、フルオ
ール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取
扱フ業務
- 二 「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンゼン、「アルコホ
ール」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務
- 三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務
- 四 火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務
- 五 金屬、鑛物、土石、骨、角、櫛、獸毛、棉、麻、藥等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場
所ニ於ケル業務
- 六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クローム」若ハ「ク
ロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ

工場法(通則)

發散スル場所ニ於ケル業務

七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、礦物、土石類ノ熔融若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

○則第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六號及第七號ニ掲クル業務ニ關シ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス

法第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産前、産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

○則第九條 工業主ハ四週日以内ニ出產スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス工業主ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

○則第九條ノ二 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分以内ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ工業主ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

○則第十條 地方長官ハ前二條ニ掲クル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

法第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必

要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

問 爆發性料品ノ貯藏所置場等カ工場外相當距離ニアル場合尙之ヲ工場附屬建設物トシテ工場危害豫防及衛生規則第二十條ヲ適用シテ差支ナキカ

答 本問ノ如ク相當距離ヲ有スル場合ニ付テハ四圍ノ事情ヲ參酌シ適用上公正ヲ維持スルコトニ注意シ決定スルノ外ナシ(昭和四年八月十五日 社會局労働部部長通牒)

●緊急時ニ於ケル作業環境對策ニ關スル件(昭和十七年一月十一日 厚生省労働局長通牒)

今次開戦ニ伴ヒ工場防空ノ必要上燈火管制ノ完壁ヲ期スルノ要慮々切ナルモノ有之候處之ガ實施ハ其ノ性質上作業環境ノ悪化ヲ招來スル虞多々アルニ鑑ミ今般之ガ防止ヲ圖ル爲別紙ノ通「緊急時ニ於ケル作業環境對策」ヲ決定相成候條右對策ニ基キ適宜管下工場主ヲ指導シ之ガ實行方ヲ勸奨シ以テ作業環境ノ萬全ヲ期セラルル様致度此段依命及通牒候

緊急時ニ於ケル作業環境對策

一、緊急時作業場内外ノ災害防止ニ關スル事項

(一) 消火、防火、救護、待避等ノ緊急活動ニ支障ナキヲ期スル爲常ニ作業場内外ノ非常口、通路等ノ整頓ニ努ムルコト

(二) 燈火管制時ノ通行ノ際又ハ緊急活動ノ際ニ於ケル墜落、轉倒、踏抜キ等ヲ防止スル爲左ノ事項ニ留意スルコト

工場法(通則)

- (イ) 材料製品等ヲ整頓シ且ツ鐵片、木片等ノ散亂セル障礙物ヲ除去シ置クコト
 - (ロ) 溝、穴、地下室ノ出入口等ノ閉塞、掩蓋又ハ防護柵ヲ完備シ必要ニ應ジ夜間用標識ヲ設ケ置クコト
 - (ハ) 危險箇所及衝突ノ虞アル物體等ニハ警戒燈、白色塗料又ハ夜光塗料等ニヨル警戒標識ヲ設ケ置クコト
 - (ニ) 作業場内外ノ通路ニ夜間用指導標識ヲ設ケ置クコト
 - (ホ) 明キ場所ヨリ暗キ場所ニ移ル場合ニ於ケル眼ノ明暗調節作用ヲ考慮シ必要ナル處ニハ微光照明ヲナスコト
 - (三) 携帶燈、懐中電燈等ヲ必要トスル者ヲ豫メ定メ置クコト
 - (四) 夜間屋外ニ於ケル起重機、構内機關車等ニヨル運搬作業ハ物體ノ落下、轉倒又ハ通行者ノ衝突等災害發生ノ因トナルコト多キヲ以テ出來得ル限り晝間ニ於テ之ヲ行フコト
- 二、緊急時作業場内ノ照明ニ關スル事項
- (一) 燈火管制ノ調整操作ヲ容易ナラシムル爲全燈照明ト局所照明ノ電路開閉裝置(スキツチ)ヲ區別シ置クコト
 - (二) 隱蔽裝置ノ不完全ナル爲燈火管制時ニ於テ照明ヲ極度ニ制限スルコトハ作業能率、衛生及危害豫防上不適當ナルヲ以テ作業面ノ明サハ左記照度ヲ下ラザルヤウ局所照明ヲ工夫シ置クコト
- 精密作業 五〇ルククス

中 作 業 三〇ルククス
粗 作 業 一〇ルククス

三、緊急時ニ於ケル作業場ノ遮蔽裝置及換氣方法ニ關スル事項
甲、特殊作業場

- (一) 高熱源(高爐、平爐、坩堝爐、加熱爐、瓦斯爐、電氣爐等)ヲ有スル作業場
- (イ) 爐體ヲ修理シ熱風ノ漏洩ヲ防止スルコト
- (ロ) 爐體ノ構造ヲ改良シ爐ノ外壁面ノ溫度ヲナルベク下ゲルコト
- (ハ) 爐體ヨリ高熱熔融物ヲ流出セシムル場合ニ於ケル誘導路ニ對シテハ適宜取付ケ又ハ取外シ得ル鐵板其ノ他適當ナル掩蓋裝置ヲ設クルコト
- (ニ) 作業場内ニ於ケル高熱材料ノ移送管、蒸汽管、熱風管、熱水管、煙道等ヨリノ放射熱ヲナルベク防止スル爲被覆ヲ完全ニシ或ハ地下深ク埋設スルコト
- (ホ) 作業場ニ於ケル屋上排氣孔ヲ隱蔽式トナス場合ニハナルベク之ヲ大キクスルト共ニ作業面近クノ側壁ニ隱蔽式窓ヲ設クルコト
- (ヘ) 動力ヲ使用スル機械的換氣裝置ヲ設置スル場合ニハ排氣裝置ヨリモ送氣裝置ノ方ガ有效ナル爲送氣裝置ニ重點ヲオクコト
- (ト) 高溫度作業場ニ於ケル起重機運轉臺ニハ局所冷房裝置ヲ工夫スルコト
- (チ) 高溫度ニシテ且ツ有害瓦斯ノ漏洩スル作業場ニ於テハ起重機運轉臺内ノ換氣ニツキ特ニ工夫スルコト

工場法(通則)